

令和 2 年度
松山市ひとり親世帯実態調査
結果報告書

令和3年 3 月

松山市

目次

1. 調査概要	1
(1) 目的	1
(2) 対象	1
(3) 方法・調査期間等	1
(4) 配布数と有効回答数(有効回答率)	1
(5) 調査結果の見方	2
2. 調査結果	3
(1) 世帯の状況	3
① 親の年齢(調査時点)	3
② ひとり親世帯になった時点での自身の年齢と末子の年齢	4
③ ひとり親世帯になってからの年数	6
④ 世帯の構成	7
⑤ ひとり親世帯になった理由	10
⑥ ひとり親世帯の親の最終学歴	11
(2) 住まいの状況	12
① 住宅の種類	12
② 家賃の月額	13
③ 公営住宅への入居希望	14
(3) 仕事について	16
① ひとり親世帯になる前の就業形態	16
② ひとり親世帯を契機とした転職の有無とその理由	17
③ 現在の就業状況と仕事の数	19
④ 現在の就業形態と職種	20
⑤ 1日の平均就労時間と出勤・帰宅時間	22
⑥ 転職の意向とその理由	24
⑦ 仕事に就いていない理由	27
⑧ 仕事に関する情報の入手方法	28
(4) 各種資格・免許について	29
① 各種資格・免許の有無	29
② 現在取得している資格・技能、仕事に役立っている資格・技能、今後取得したい資格・技能	30
(5) 経済状況について	32
① 生活の経済的な状況	32
② 現在得ている収入の種類	35
③ 同居家族を含む世帯の年間総収入	36
④ 自身の年間総収入	37
⑤ 自身の年間就労収入	38
⑥ 世帯の預貯金額	39

⑦ 収入と生活費のバランス	40
⑧ 家計を最も圧迫している費用	42
(6) 養育費について	45
① 養育費に関する相談相手	45
② 養育費の取り決め状況と取り決め内容を記した文書の有無	47
③ 養育費の取り決めをしていない理由	49
④ 養育費の受給状況と金額	50
(7) 面会交流について	52
① 面会交流の取り決め状況と取り決めを記した文書の有無	52
② 面会交流の実施状況と面会交流の頻度	54
(8) 子どもに関することについて	56
① 子どもからの悩み事や心配事などの相談の頻度とその内容	56
② 子どもに関する悩み	57
③ 年間を通じて定期的に利用している教育・保育事業	60
④ 子どもが病気をしたときの世話	61
⑤ 放課後や長期休暇中の子どもの過ごし方	62
⑥ 子どもの進学希望について	64
⑦ 高校以上の進学を希望する世帯での貸与型奨学金の利用希望	66
⑧ 小中学生の子どもがいる世帯での民間の学習施設等の利用状況と利用しない理由 ...	67
⑨ 市が実施している学習支援の利用意向	68
(9) 相談相手や困りごとについて	71
① 相談相手の有無と相談相手	71
② 子育て以外で特に困っていること	74
(10) 福祉関係の公的制度等について	76
① 市のひとり親世帯向けの支援の満足度とその理由	76
② 公的制度の認知度	81
③ 公的制度の利用満足度	82
④ 公的制度の今度の利用意向	84
⑤ 公的制度や市の子育て支援に関する情報の入手方法	86
⑥ 子育てや子どもに関する相談窓口で重要なこと	88
⑦ LINE等のコミュニケーションアプリを活用したひとり親世帯向けの相談窓口について	90
(11) 自由記述について	91

資料

1. 調査概要

(1) 目的

松山市では、平成 28(2016)年 3 月に「第 2 期 松山市母子家庭等自立促進計画」を策定し、母子家庭等の自立支援事業を進めてきました。

現計画が令和 2 年度に計画期末を迎えることから、これまでの取り組みの進捗状況や成果等を評価・分析するとともに、ひとり親家庭の方の子育てや生活に関する課題を把握し、次期計画策定の基礎資料とすることを目的として本調査を実施しました。

(2) 対象

松山市在住の母子世帯および父子世帯。

※「母子世帯」:20 歳未満の子どもを扶養している配偶者のない女子と子どもからなる家庭。
(母子以外の同居者がある場合を含む)

※「父子世帯」:20 歳未満の子どもを扶養している配偶者のない男子と子どもからなる家庭。
(父子以外の同居者がある場合を含む)

(3) 方法・調査期間等

【方法】

郵送による配布・回収

【調査対象の抽出】

松山市の児童扶養手当受給資格者及びひとり親家庭医療助成対象者より、令和 2(2020)年 8 月 1 日を基準日として、母子世帯 2,000 件、父子世帯 300 件を無作為に抽出。

【調査期間】

令和 2(2020)年 8 月 13 日~9 月 11 日

(4) 配布数と有効回答数(有効回答率)

【配布数/有効回答数(有効回答率)】

	配布数	有効回答数/率
母子世帯	2,000 件	975 件/48.7%
父子世帯	300 件	116 件/38.6%
合計	2,300 件	1,096 件/47.6%

※合計には世帯の不明・無回答 5 件を含む。

(5) 調査結果の見方

- ・ 回答結果は、各項目の不明・無回答を含む有効サンプル数に対する百分率(%)で示し、百分率は小数第 2 位を四捨五入して小数第 1 位までを表示しています。そのため、単数回答(複数の選択肢から 1 つの選択肢を選ぶ方式)であっても合計値が 100.0%にならない場合があります。
- ・ 複数回答(複数の選択肢から 2 つ以上の選択肢を選ぶ方式)の設問の場合、回答は選択肢ごとの有効回答数に対して、それぞれの比率を示しています。そのため、合計が 100.0%を超える場合があります。
- ・ 図中において「不明・無回答」とあるものは、回答が示されていない、または回答の判別ができないものです。
- ・ 図中の「N」は集計対象者総数または、回答者限定設問の限定条件の該当者数を示しています。
- ・ 本文中の「H27 調査」「H28 全国」「H26 県」は下記の資料からの出典となっています。
 - 「H27 調査」:「松山市ひとり親世帯実態調査結果報告書」(平成 27(2015)年実施)
なお、本文中では「前回調査」という。
 - 「H28 全国」:厚生労働省雇用均等・児童家庭局
「平成 28 年度全国母子世帯等調査結果報告(平成 28(2016)年 11 月実施)」
 - 「H26 県」:愛媛県保健福祉部生きがい推進局子育て支援課
「平成 26 年度愛媛県ひとり親家庭実態調査結果(平成 26(2014)年 7 月実施)」

なお、今回の調査結果との比較のため、全国や愛媛県、前回調査結果については、無回答や不詳を除くなど、一部調整しています。

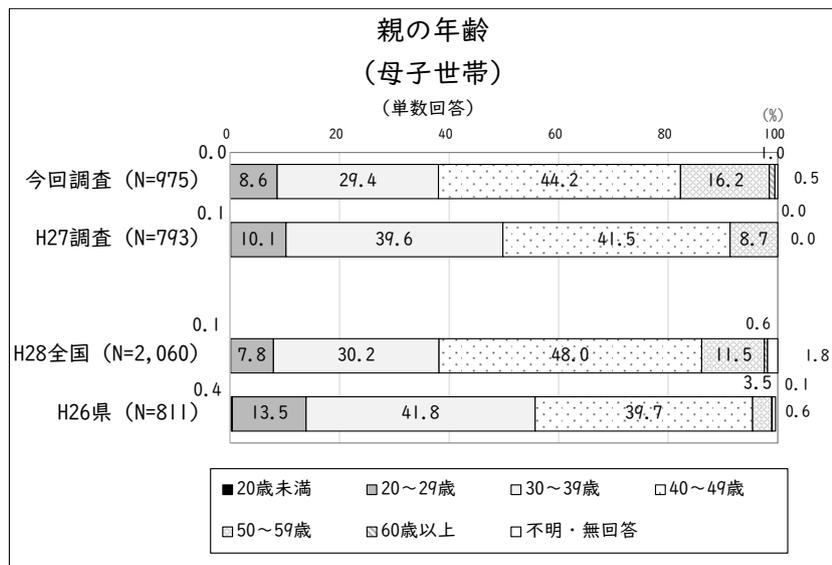
2. 調査結果

(1) 世帯の状況

① 親の年齢(調査時点)

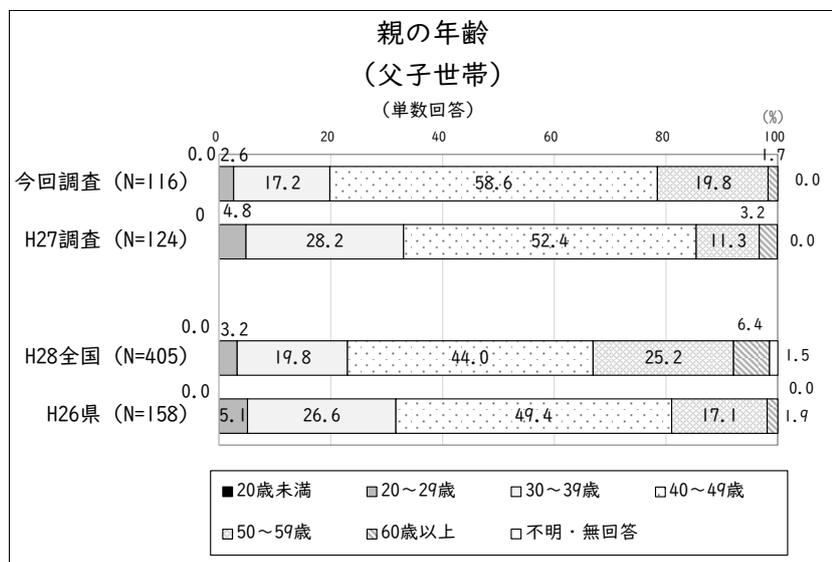
(母子世帯)

「40～49歳」が最も多く44.2%、次いで「30～39歳」が29.4%、「50～59歳」が16.2%などとなっています。平均年齢は41.7歳、「H27調査」(以下「前回調査」という。)は39.4歳となっています。



(父子世帯)

「40～49歳」が最も多く58.6%、次いで「50～59歳」が19.8%、「30～39歳」が17.2%などとなっています。平均年齢は44.8歳、「前回調査」は42.3歳となっています。

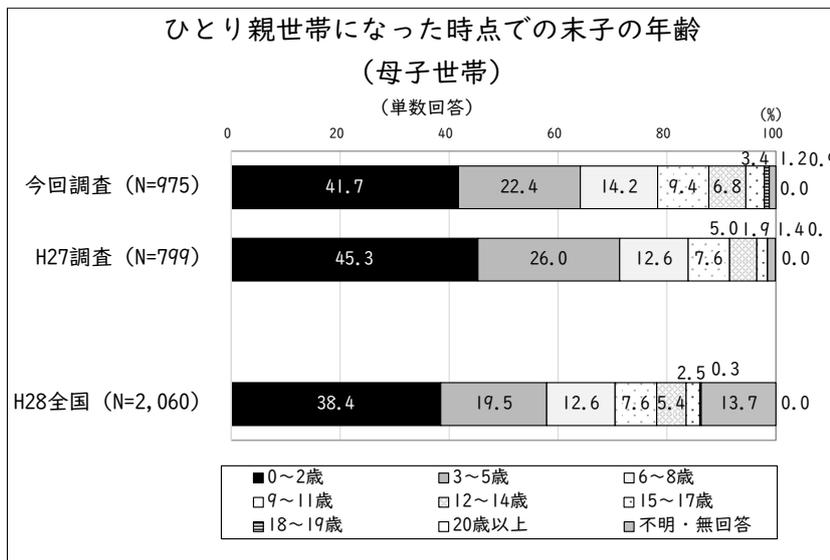
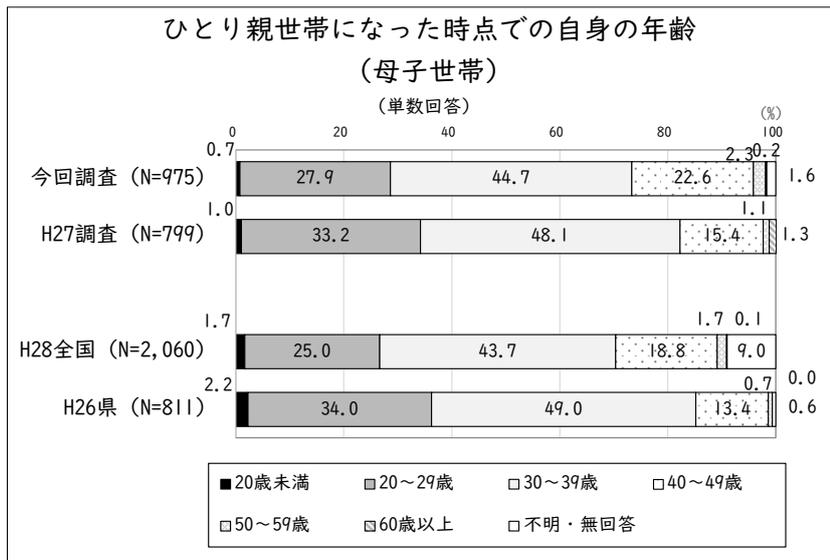


② ひとり親世帯になった時点での自身の年齢と末子の年齢

(母子世帯)

母親の年齢は「30～39歳」が最も多く44.7%、次いで「20～29歳」が27.9%、「40～49歳」が22.6%などとなっています。平均年齢は30.4歳、「前回調査」は32.6歳となっています。

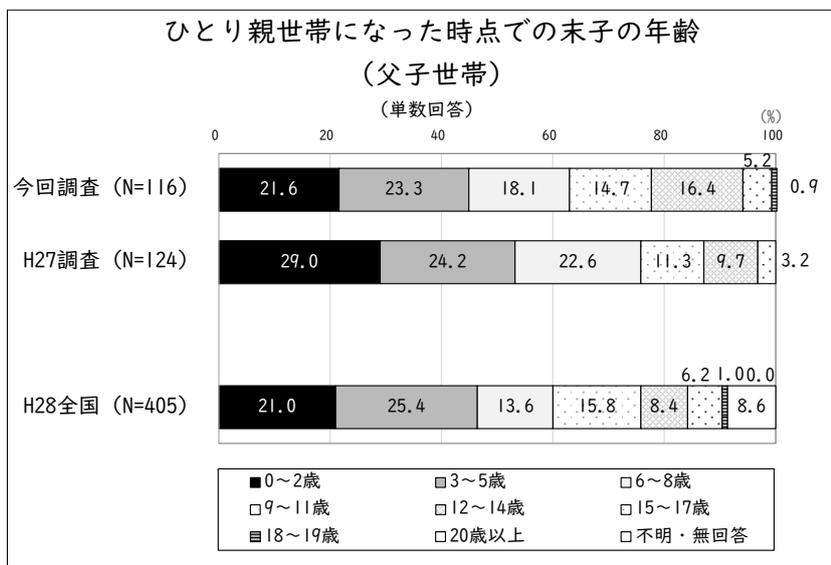
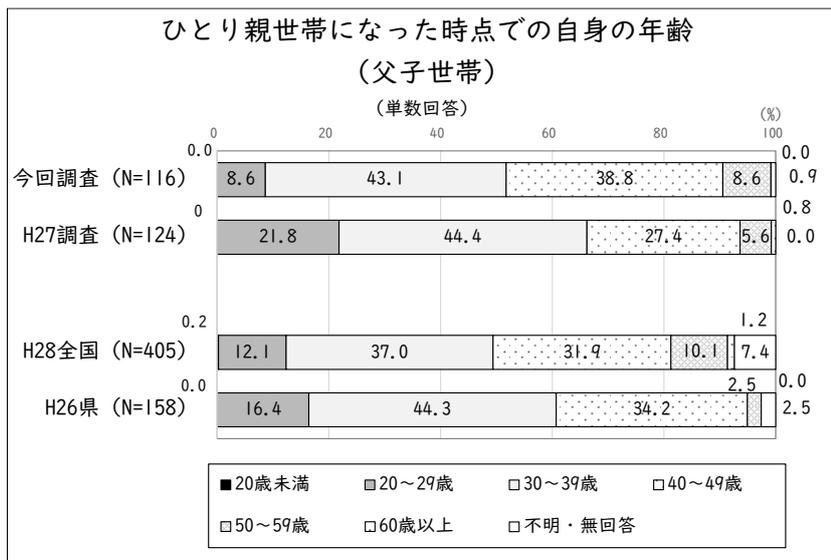
末子の年齢は「0～2歳」が最も多く41.7%、次いで「3～5歳」が22.4%、「6～8歳」が14.2%などとなっています。平均年齢は4.8歳、「前回調査」は4.0歳となっています。



(父子世帯)

父親の年齢は「30～39歳」が最も多く43.1%、次いで「40～49歳」が38.8%、「20～29歳」「50～59歳」がそれぞれ8.6%などとなっています。平均年齢は39.3歳、前回調査は36.3歳となっています。

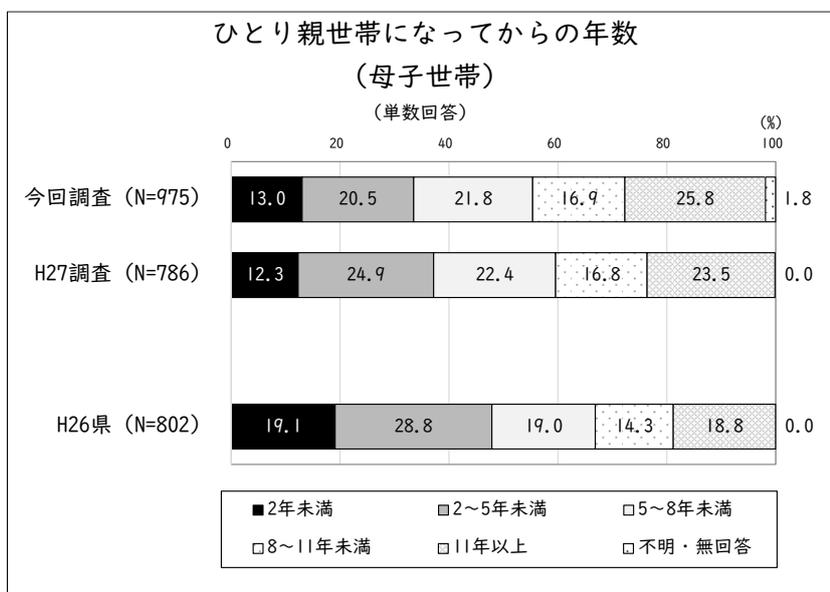
末子の年齢は「3～5歳」が最も多く23.3%、次いで「0～2歳」が21.6%、「6～8歳」が18.1%などとなっています。末子の平均年齢は7.0歳、「前回調査」は5.7歳となっています。



③ ひとり親世帯になってからの年数

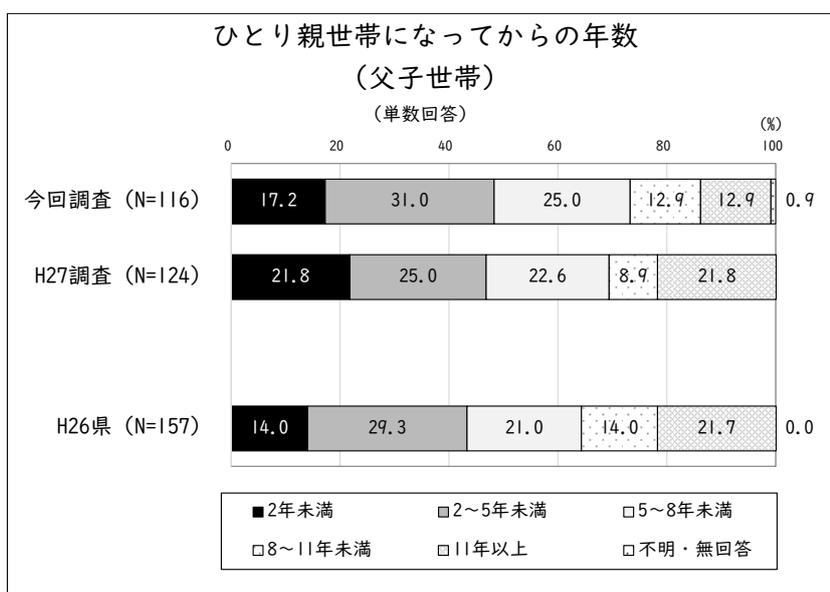
(母子世帯)

「11年以上」が最も多く25.8%、次いで「5～8年未満」が21.8%、「2～5年未満」が20.5%などとなっています。



(父子世帯)

「2～5年未満」が最も多く31.0%、次いで「5～8年未満」が25.0%、「2年未満」が17.2%などとなっています。



④ 世帯の構成

【子ども以外の同居者の有無と人数等】

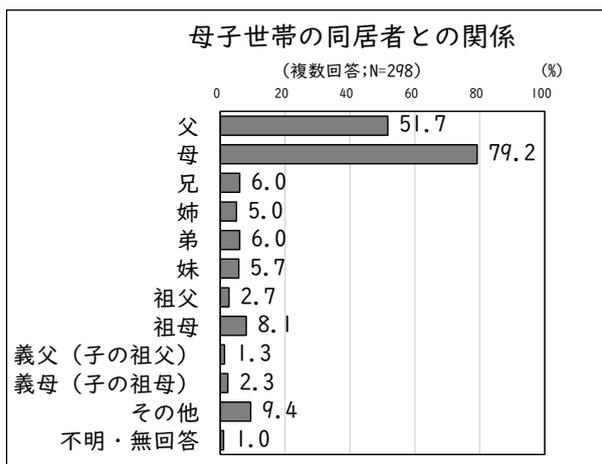
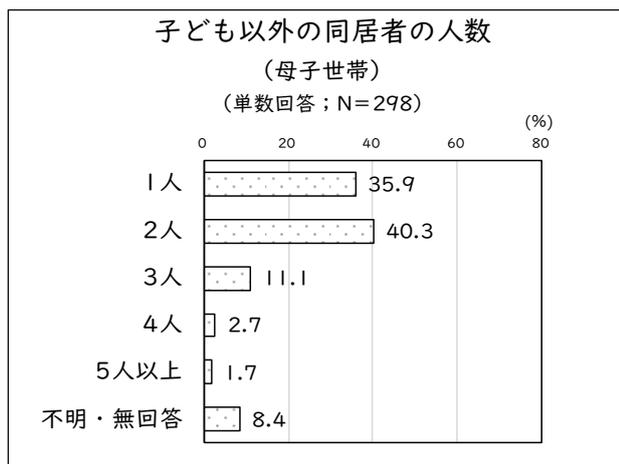
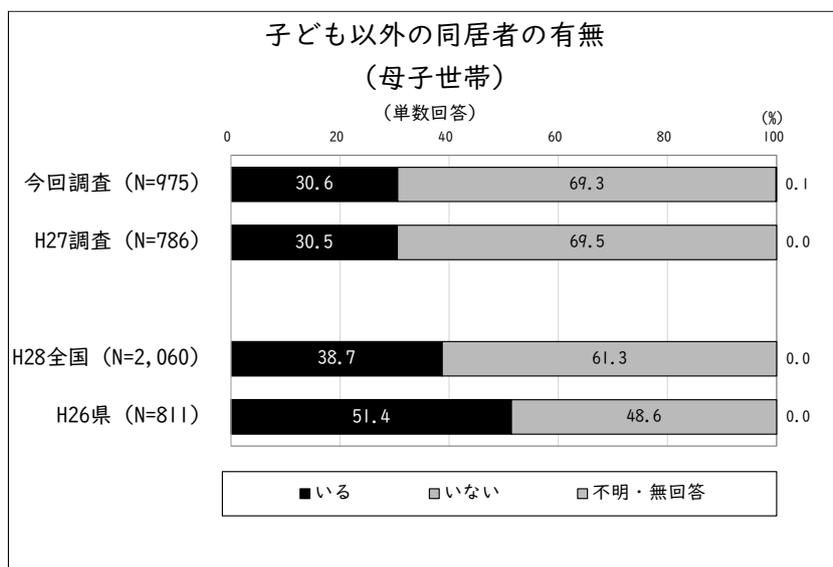
(母子世帯)

「いる」が 30.6%、「いない」が 69.3%となっています。

平均世帯人員は 2.54 人、「前回調査」は 3.10 人となっています。

子ども以外の同居者の人数は「2人」が最も多く 40.3%、次いで「1人」が 35.9%、「3人」が 11.1%などとなっています。

同居者と母親との関係を見ると、「母」が最も多く 79.2%、次いで「父」が 51.7%などとなっています。



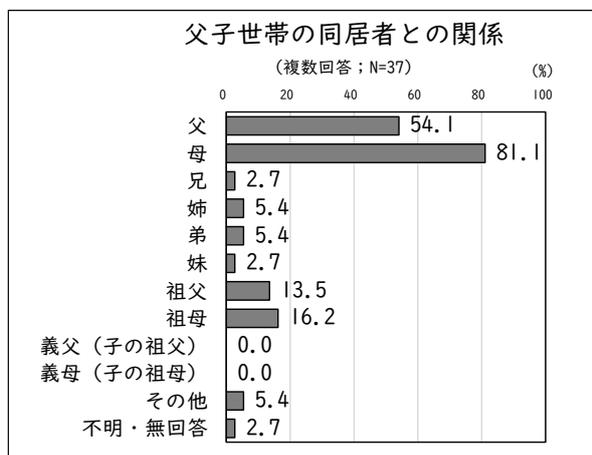
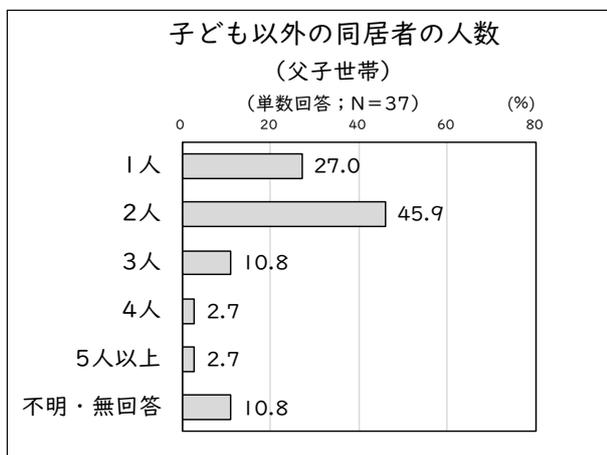
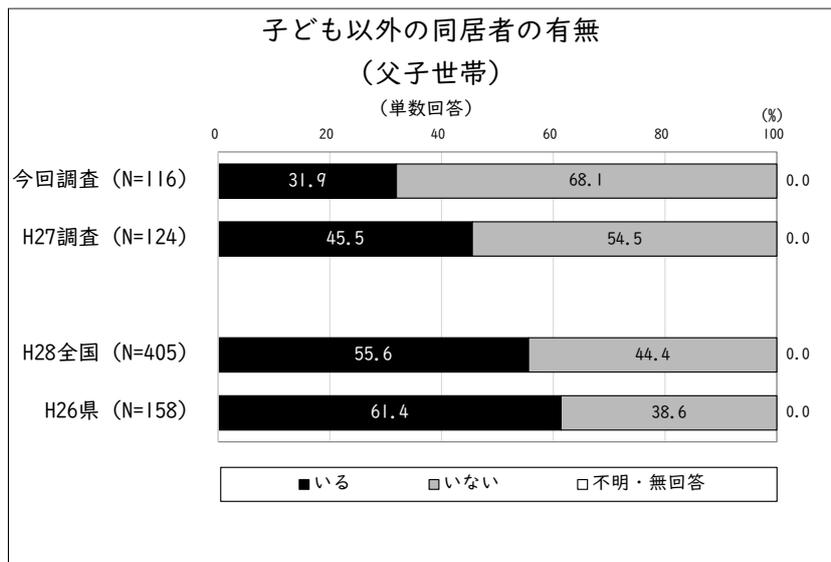
(父子世帯)

「いる」が31.9%、「いない」が68.1%となっています。

平均世帯人員は2.59人、「前回調査」は3.34人となっています。

子ども以外の同居者の人数は「2人」が最も多く45.9%、次いで「1人」が27.0%などとなっています。

同居者と父親との関係を見ると、「母」が最も多く81.1%、次いで「父」が54.1%などとなっています。



【子どもの人数と就学状況】

(母子世帯)

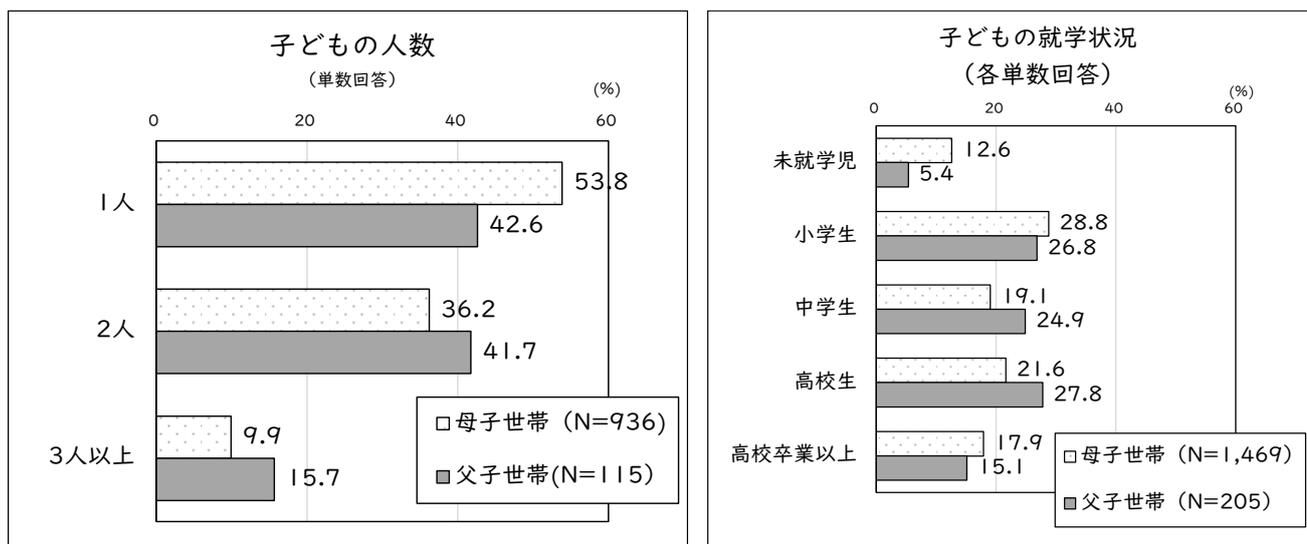
子どもの人数は、「1人」が最も多く53.8%、次いで「2人」が36.2%、「3人以上」が9.9%となっています。

子どもの就学状況は、「小学生」が最も多く28.8%、次いで「高校生」が21.6%などとなっています。

(父子世帯)

子どもの人数は、「1人」が最も多く42.6%、次いで「2人」が41.7%、「3人以上」が15.7%となっています。

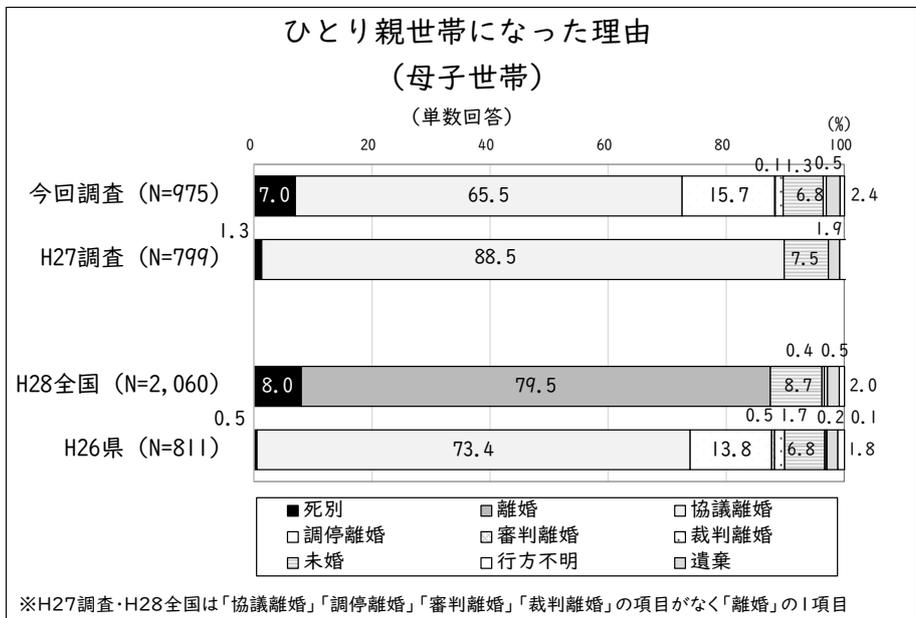
子どもの就学状況は、「高校生」が最も多く27.8%、次いで「小学生」が26.8%などとなっています。



⑤ ひとり親世帯になった理由

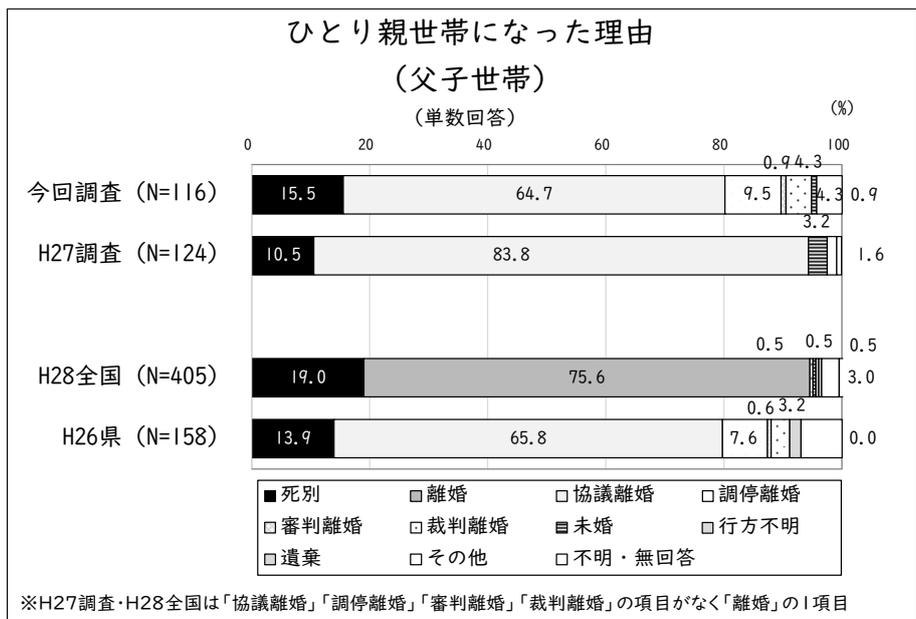
(母子世帯)

「協議離婚」が最も多く 65.5%、次いで「調停離婚」が 15.7%、「死別」が 7.0%などとなっています。



(父子世帯)

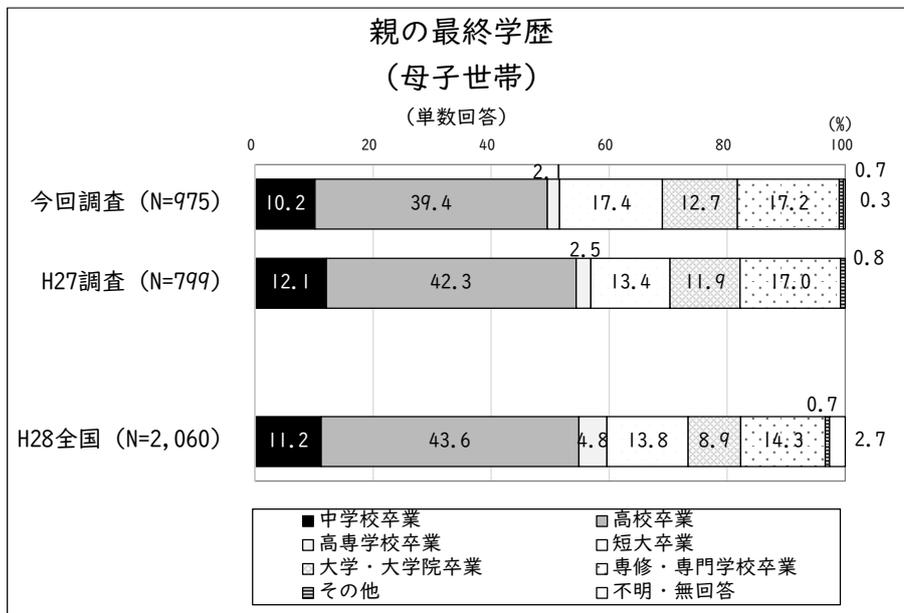
「協議離婚」が最も多く 64.7%、次いで「死別」が 15.5%、「調停離婚」が 9.5%などとなっています。



⑥ ひとり親世帯の親の最終学歴

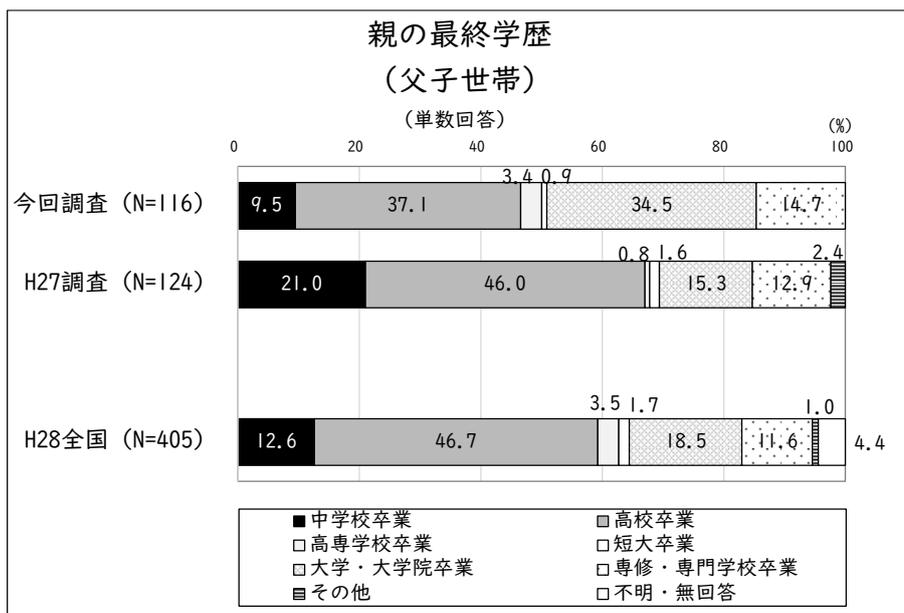
(母子世帯)

「高校卒業」が最も多く39.4%、次いで「短大卒業」が17.4%、「専修・専門学校卒業」が17.2%
「大学・大学院卒業」が12.7%、「中学校卒業」が10.2%などとなっています。



(父子世帯)

「高校卒業」が最も多く37.1%、次いで「大学・大学院卒業」が34.5%、「専修・専門学校卒業」が14.7%、「中学校卒業」が9.5%などとなっています。

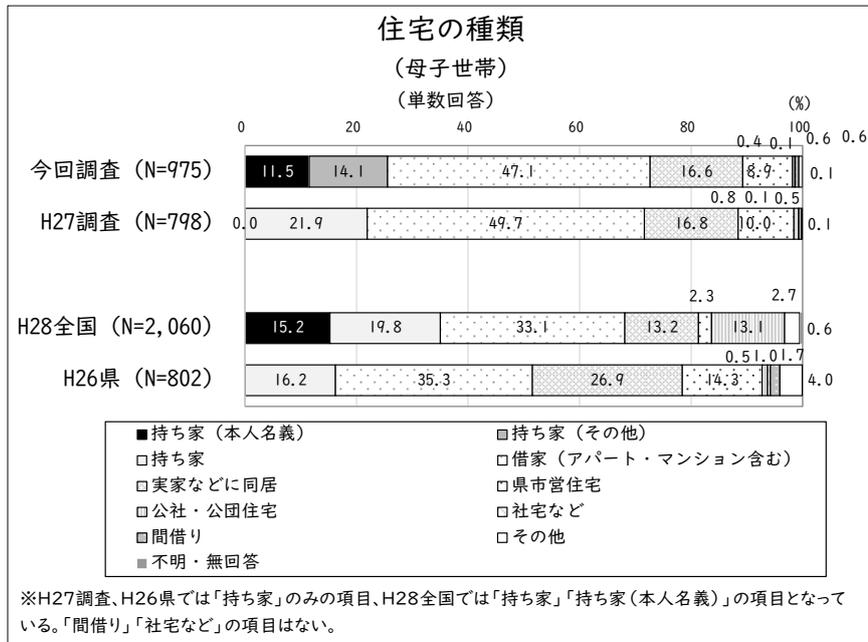


(2) 住まいの状況

① 住宅の種類

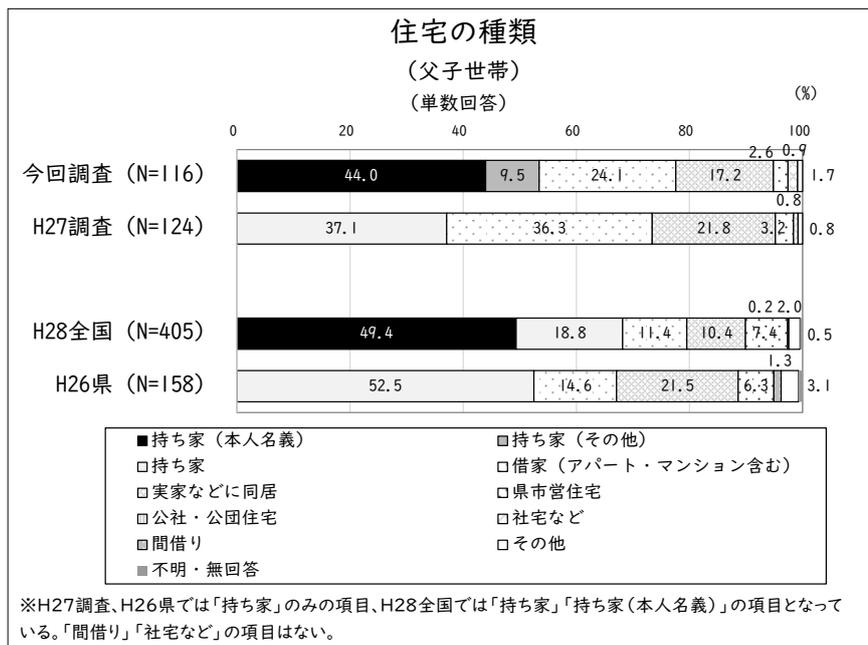
(母子世帯)

「借家(アパート・マンション含む)」が最も多く 47.1%、次いで「実家などに同居」が 16.6%、「持ち家(その他)」が 14.1%などとなっています。



(父子世帯)

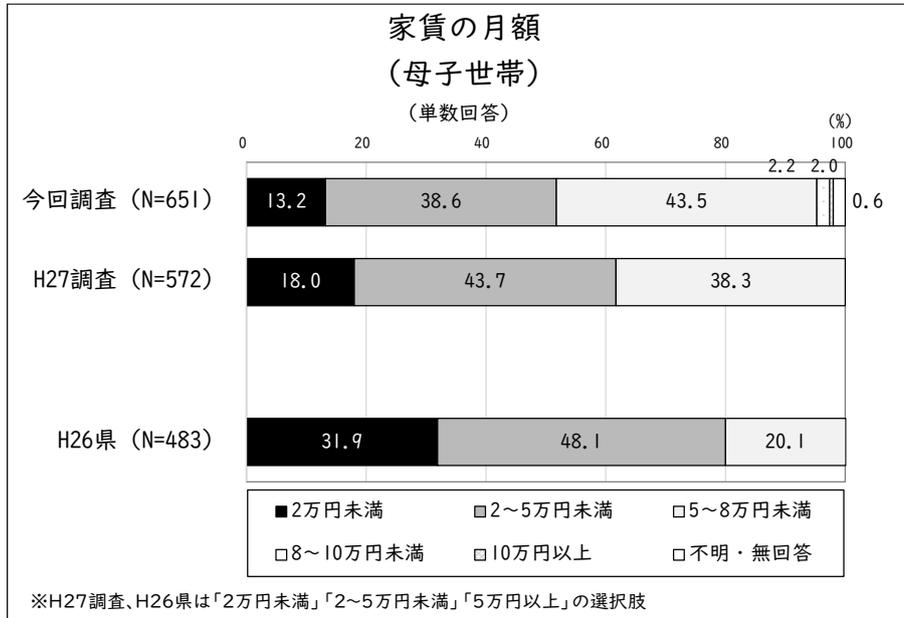
「持ち家(本人名義)」が最も多く 44.0%、次いで「借家(アパート・マンション含む)」が 24.1%、「実家などに同居」が 17.2%などとなっています。



② 家賃の月額

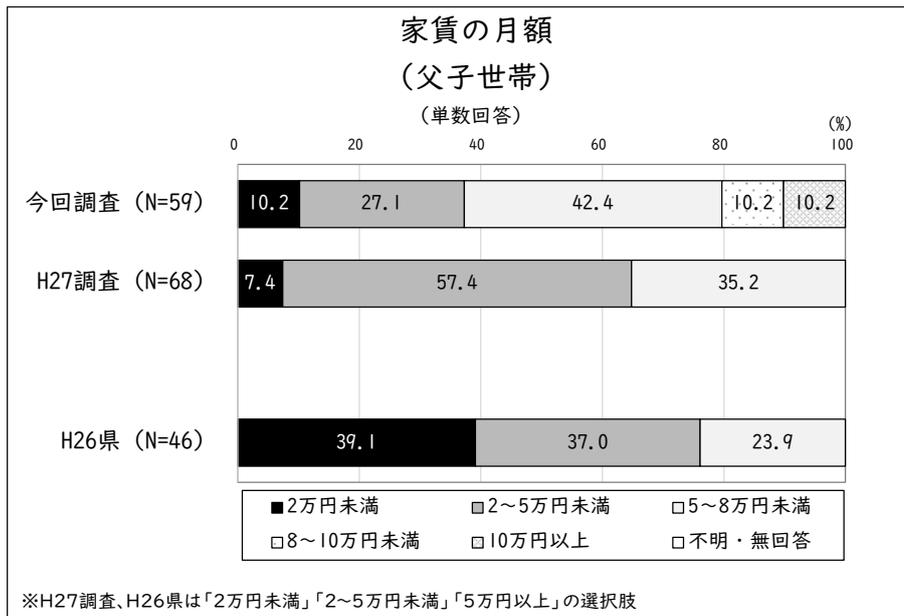
(母子世帯)

家賃の支払いをしている人の家賃は「5～8万円未満」が最も多く43.5%、次いで「2～5万円未満」が38.6%、「2万円未満」が13.2%などとなっています。



(父子世帯)

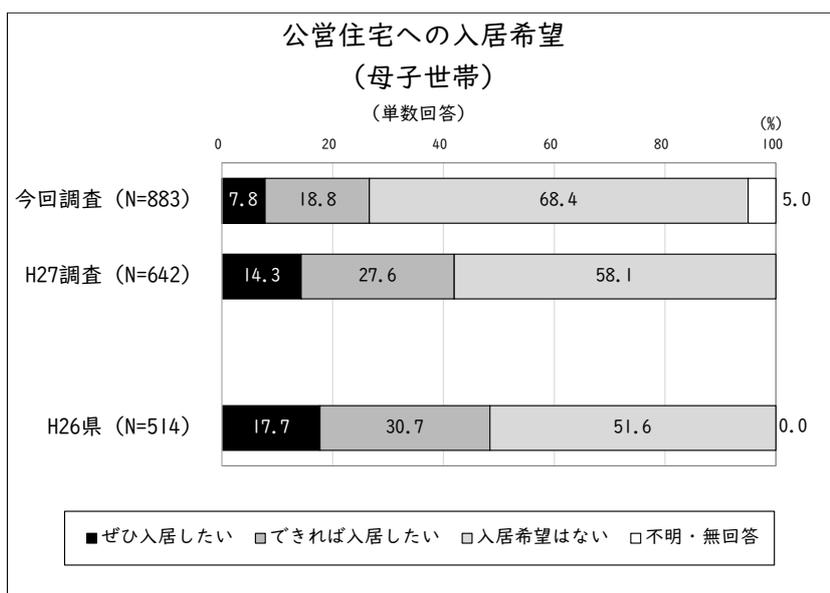
家賃の支払いをしている人の家賃は、「5～8万円未満」が最も多く42.4%、次いで「2～5万円未満」が27.1%、「2万円未満」「8～10万円未満」「10万円以上」がそれぞれ10.2%となっています。



③ 公営住宅への入居希望

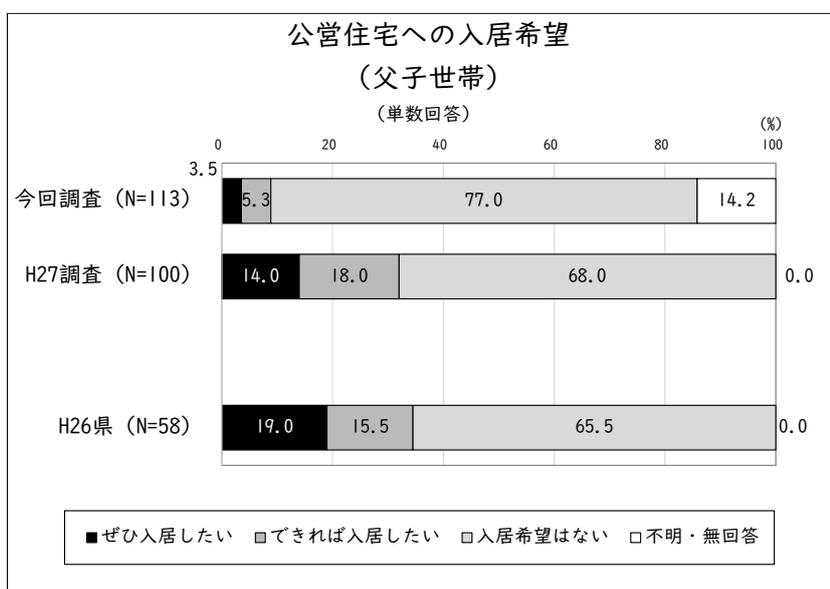
(母子世帯)

「県市営住宅」「公社・公団住宅」に入居していない人の公営住宅への入居希望は、「入居希望はない」が最も多く68.4%、次いで「できれば入居したい」が18.8%、「ぜひ入居したい」が7.8%となっています。



(父子世帯)

「県市営住宅」「公社・公団住宅」に入居していない人の公営住宅への入居希望は、「入居希望はない」が最も多く77.0%、次いで「できれば入居したい」が5.3%、「ぜひ入居したい」が3.5%となっています。



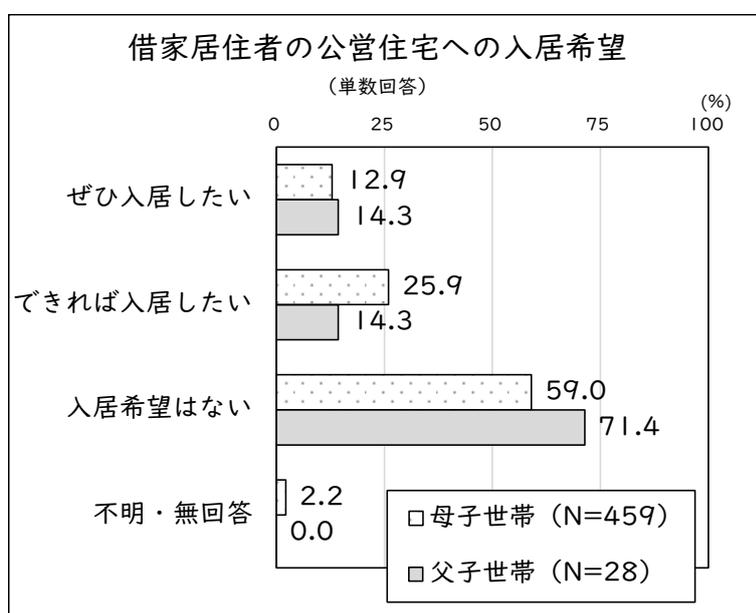
【借家居住者の公営住宅への入居希望】

(母子世帯)

「借家居住者(アパート・マンション含む)」の公営住宅の入居希望は、「入居希望はない」が最も多く 59.0%、次いで「できれば入居したい」が 25.9%、「ぜひ入居したい」が 12.9%となっています。

(父子世帯)

「借家居住者(アパート・マンション含む)」の公営住宅の入居希望は、「入居希望はない」が最も多く 71.4%、次いで「ぜひ入居したい」「できれば入居したい」がそれぞれ 14.3%となっています。

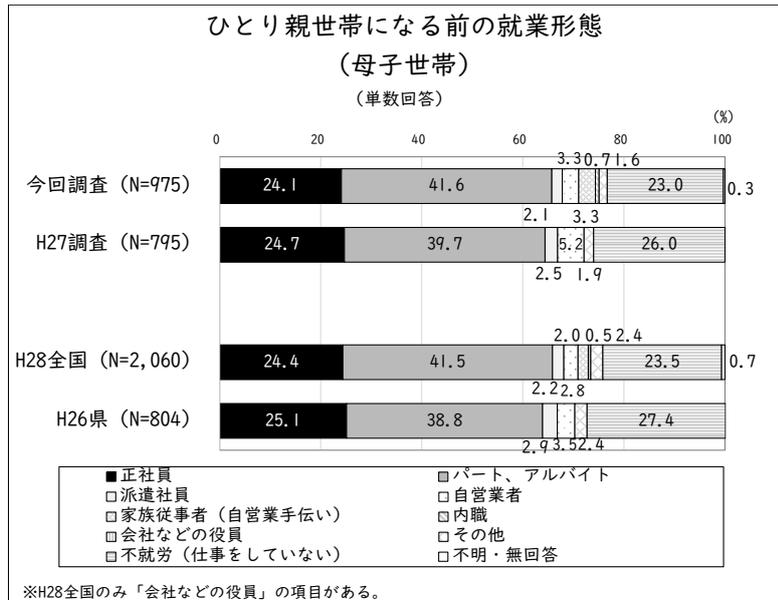


(3) 仕事について

① ひとり親世帯になる前の就業形態

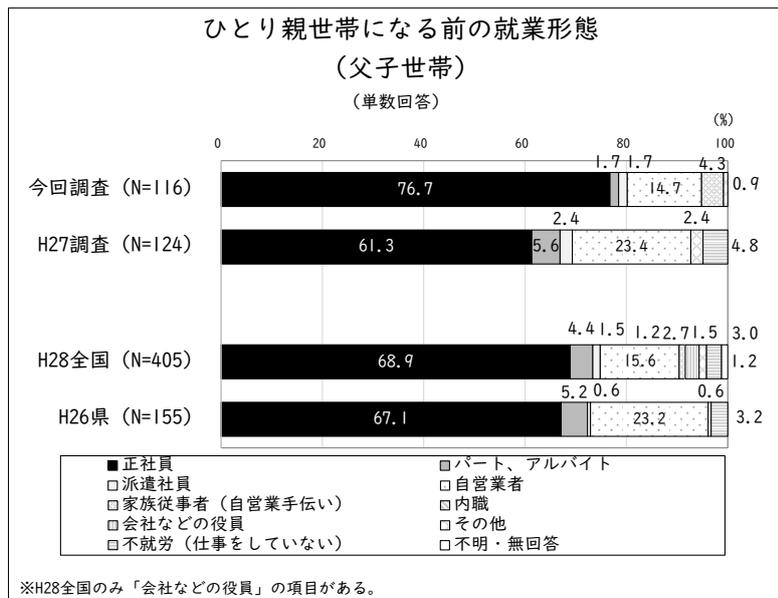
(母子世帯)

「パート、アルバイト」が最も多く 41.6%、次いで「正社員」が 24.1%、「不就労(仕事をしていない)」が 23.0%などとなっています。



(父子世帯)

「正社員」が最も多く 76.7%、次いで「自営業者」が 14.7%、「家族従事者(自営業手伝い)」が 4.3%などとなっています。

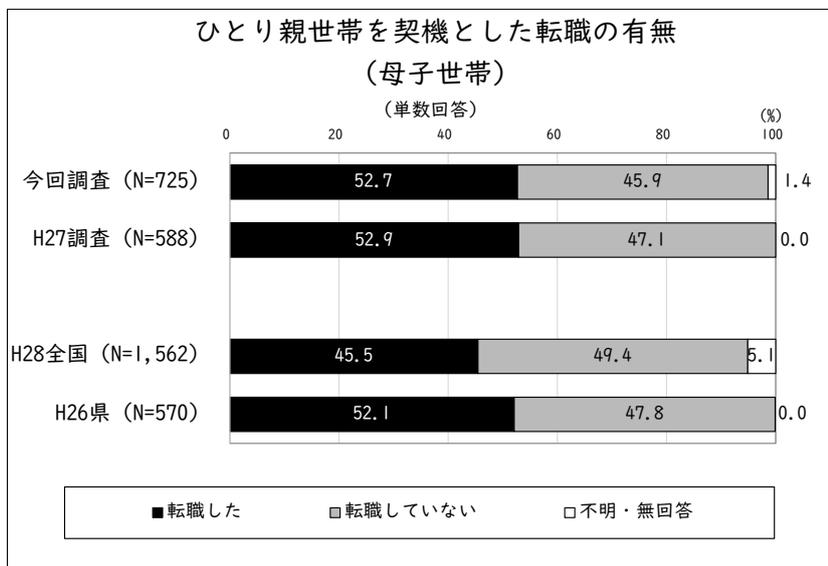


② ひとり親世帯を契機とした転職の有無とその理由

【ひとり親世帯を契機とした転職の有無】

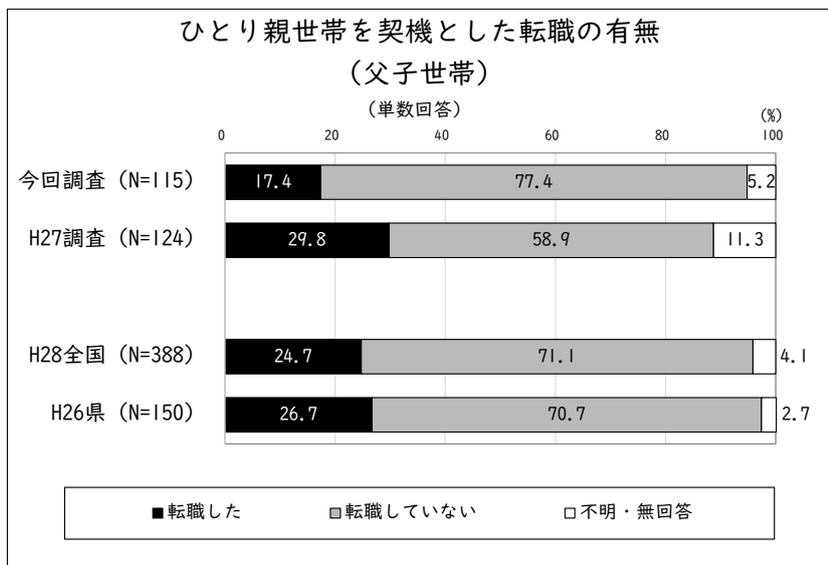
(母子世帯)

「転職した」が 52.7%、「転職していない」が 45.9%となっています。



(父子世帯)

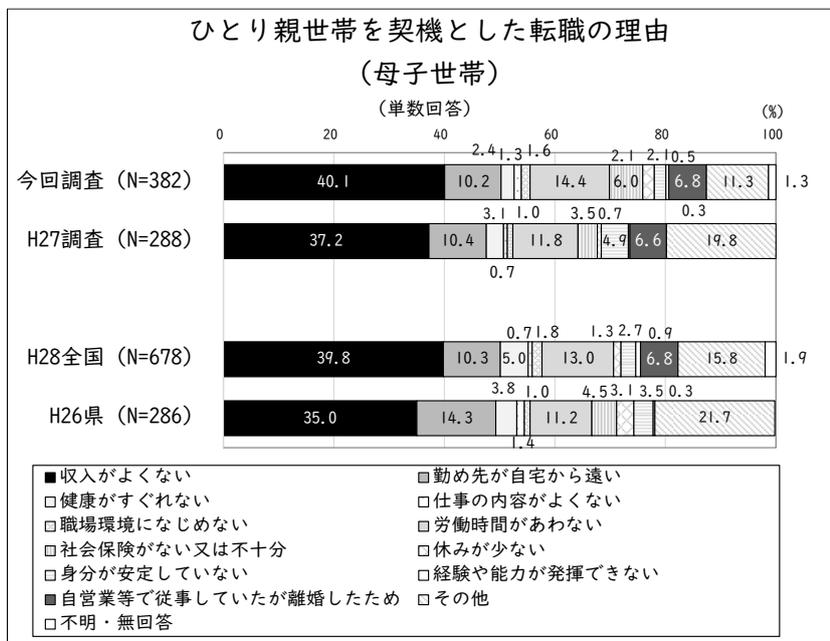
「転職した」が 17.4%、「転職していない」が 77.4%となっています。



【ひとり親世帯を契機とした転職の理由】

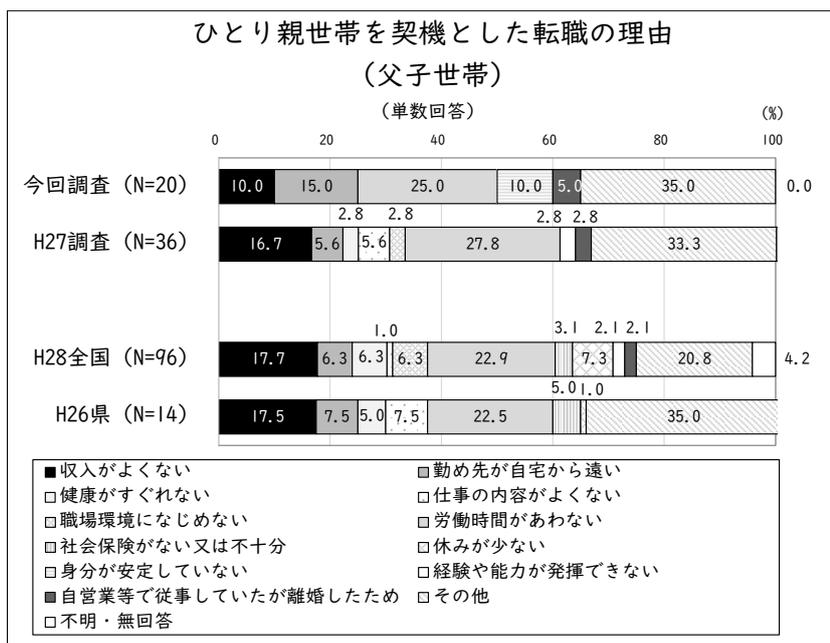
(母子世帯)

「転職した」と回答した人のその主な理由は、「収入がよくない」が最も多く 40.1%、次いで「労働時間があわない」が 14.4%、「勤め先が自宅から遠い」が 10.2%などとなっています。



(父子世帯)

「転職した」と回答した人のその主な理由は、「労働時間があわない」が最も多く 25.0%、次いで「勤め先が自宅から遠い」が 15.0%、「収入がよくない」「身分が安定していない」がそれぞれ 10.0%などとなっています。



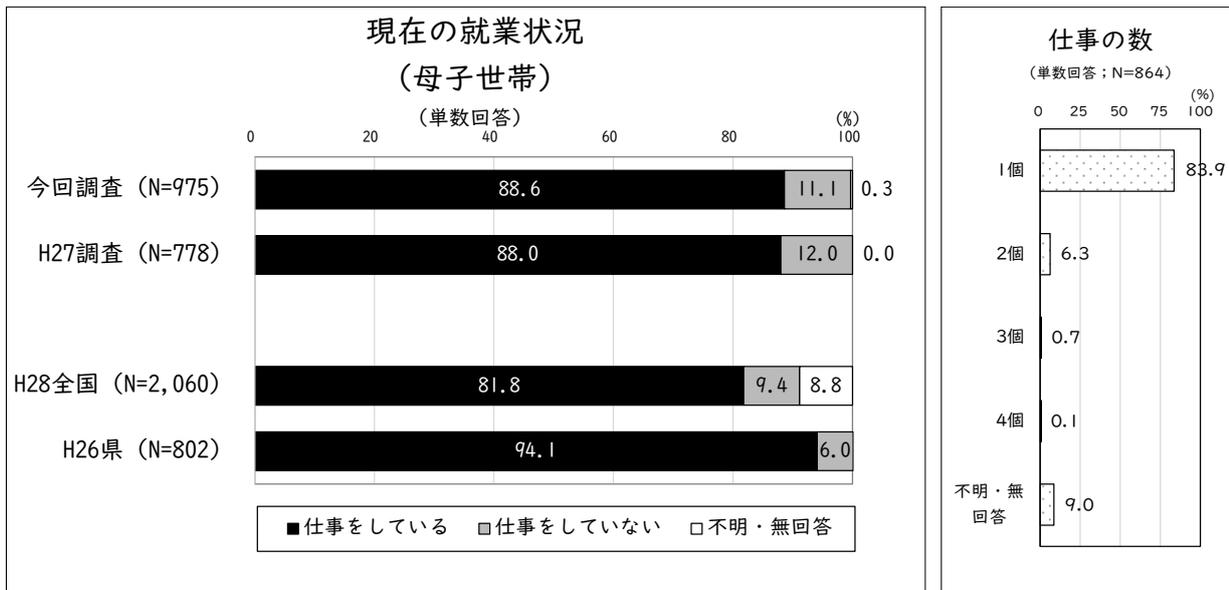
③ 現在の就業状況と仕事の数

【現在の就業状況】

(母子世帯)

「仕事をしている」が 88.6%、「仕事をしていない」が 11.1%となっています。

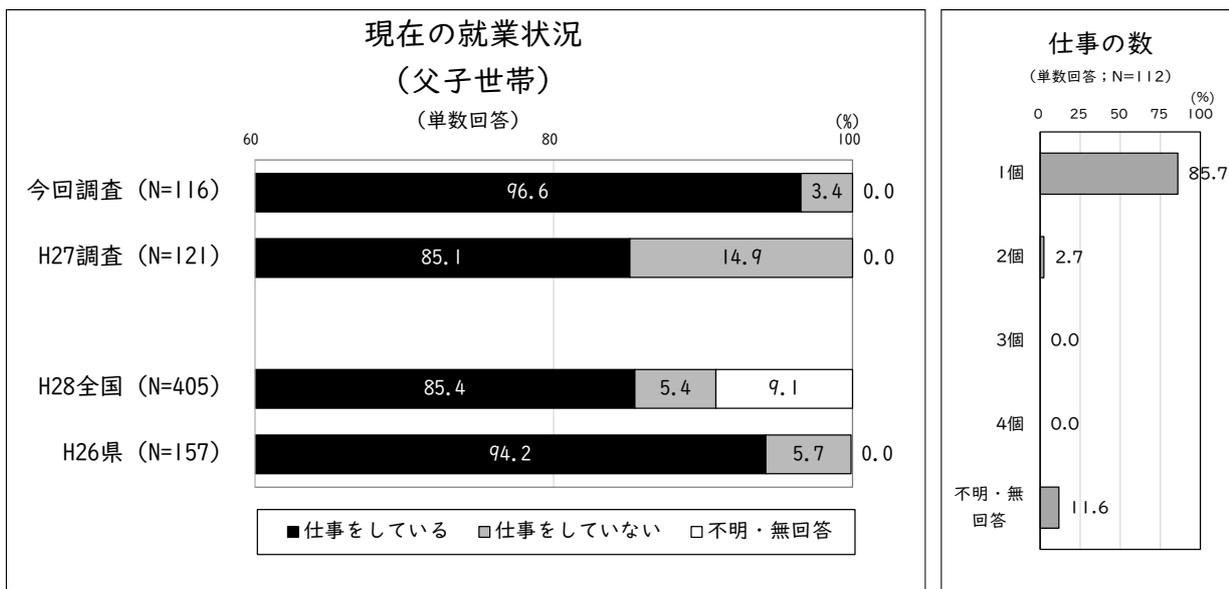
仕事の数は「1 個」が最も多く 83.9%、次いで「2 個」が 6.3%などとなっています。



(父子世帯)

「仕事をしている」が 96.6%、「仕事をしていない」が 3.4%となっています。

仕事の数は「1 個」が最も多く 85.7%、次いで「2 個」が 2.7%などとなっています。

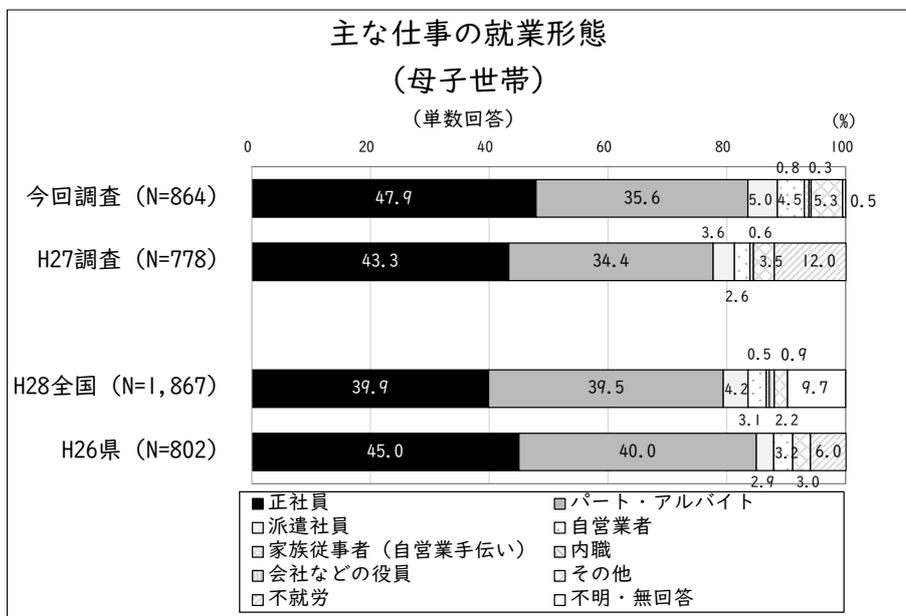


④ 現在の就業形態と職種

【主な仕事の就業形態】

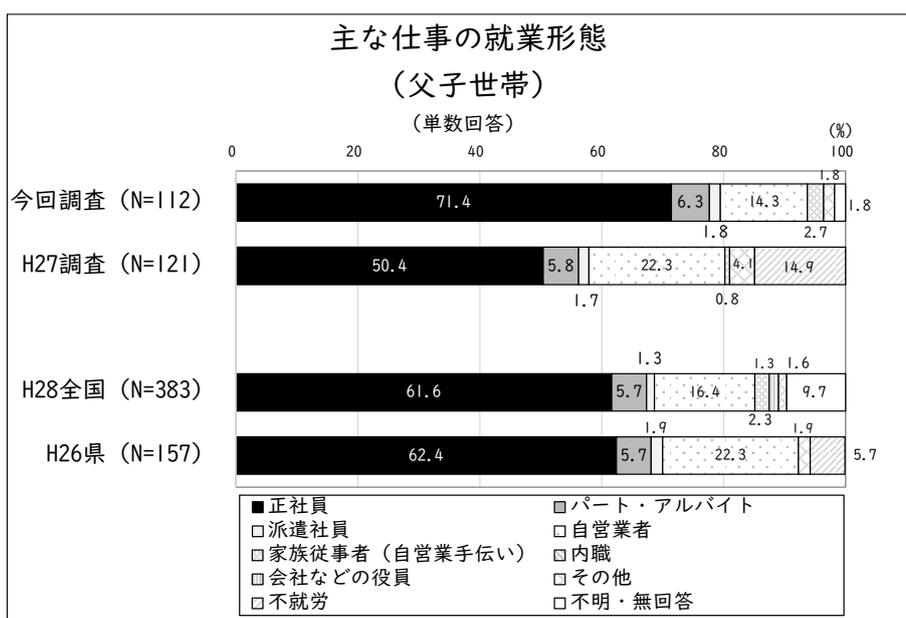
(母子世帯)

「正社員」が最も多く 47.9%、次いで「パート・アルバイト」が 35.6%、「派遣社員」が 5.0%などとなっています。



(父子世帯)

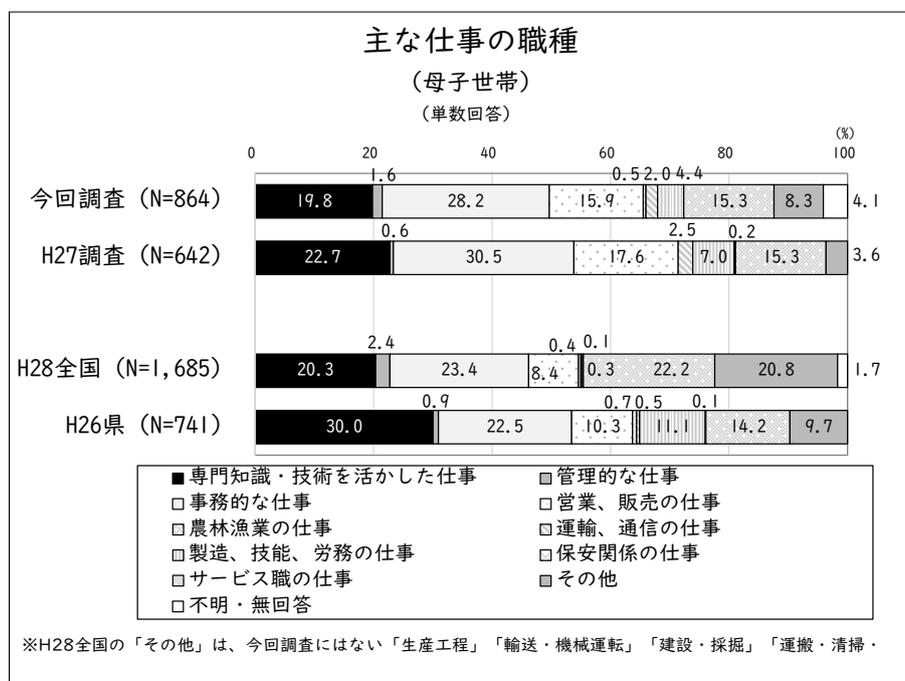
「正社員」が最も多く 71.4%、次いで「自営業者」が 14.3%、「パート・アルバイト」が 6.3%などとなっています。



【主な仕事の職種】

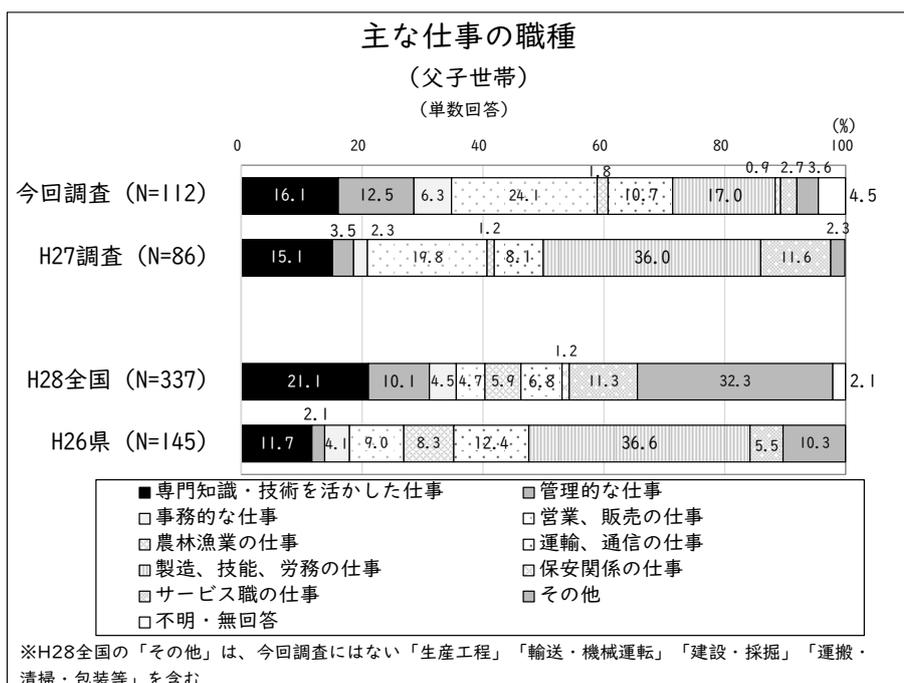
(母子世帯)

「事務的な仕事」が最も多く 28.2%、次いで「専門知識・技術を活かした仕事」が 19.8%、「営業、販売の仕事」が 15.9%などとなっています。



(父子世帯)

「営業、販売の仕事」が最も多く 24.1%、次いで「製造、技能、労務の仕事」が 17.0%、「専門知識・技術を活かした仕事」が 16.1%などとなっています。



⑤ 1日の平均就労時間と出勤・帰宅時間

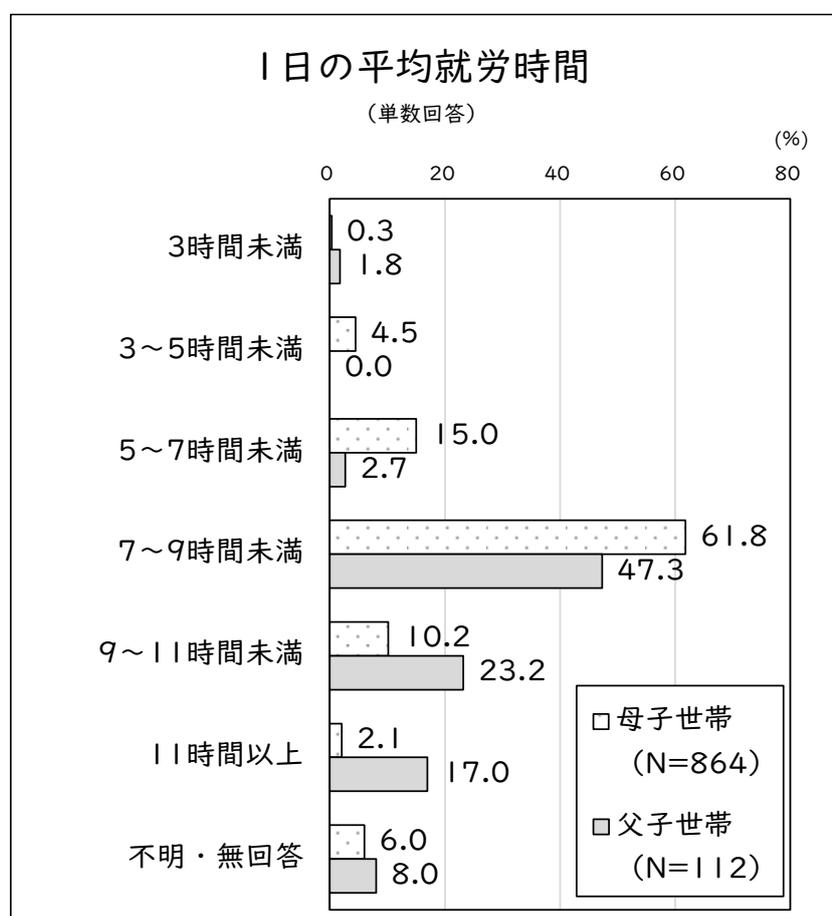
【1日の平均就労時間】

(母子世帯)

「7～9 時間未満」が最も多く 61.8%、次いで「5～7 時間未満」が 15.0%、「9～11 時間未満」が 10.2%などとなっています。

(父子世帯)

「7～9 時間未満」が最も多く 47.3%、次いで「9～11 時間未満」が 23.2%、「11 時間以上」が 17.0%などとなっています。



【出勤時間と帰宅時間】

(母子世帯)

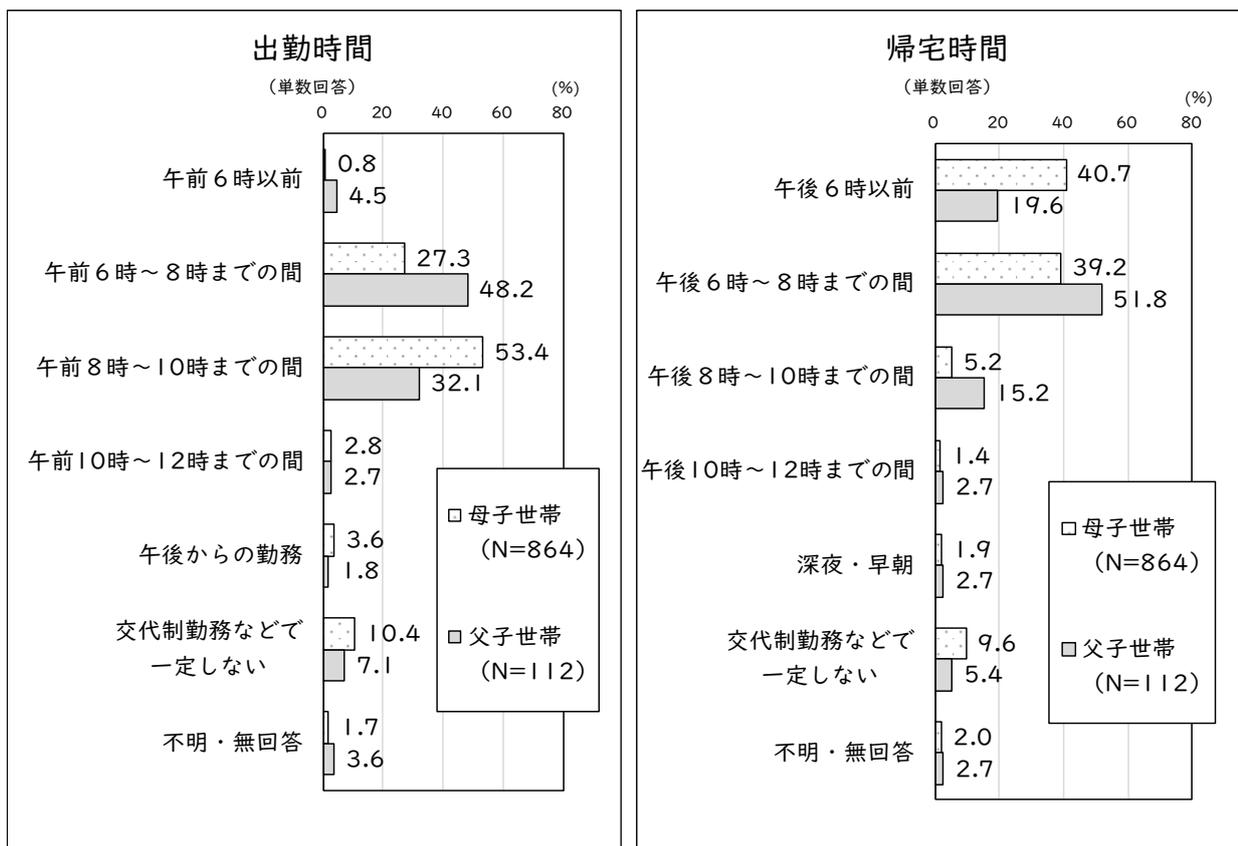
「午前8時～10時までの間」が最も多く53.4%、次いで「午前6時～8時までの間」が27.3%、「交代制勤務などで一定しない」が10.4%などとなっています。

帰宅時間は、「午後6時～8時までの間」が最も多く40.7%、次いで「午後6時以前」が39.2%、「交代制勤務などで一定しない」が9.6%などとなっています。

(父子世帯)

「午前6～8時までの間」が最も多く48.2%、次いで「午前8時～10時までの間」が32.1%、「交代制勤務などで一定しない」が7.1%などとなっています。

帰宅時間は、「午後6～8時までの間」が最も多く51.8%、次いで「午後6時以前」が19.6%、「午後8～10時までの間」が15.2%などとなっています。

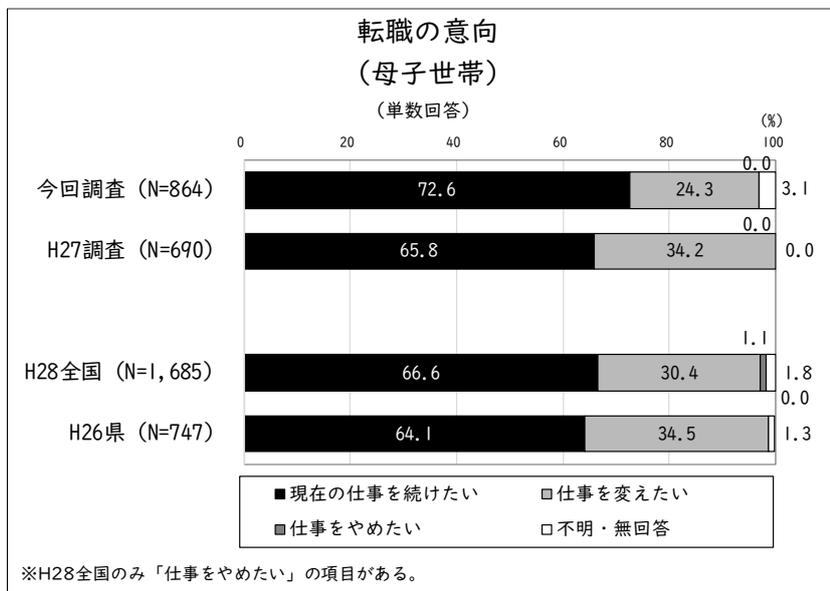


⑥ 転職の意向とその理由

【転職の意向】

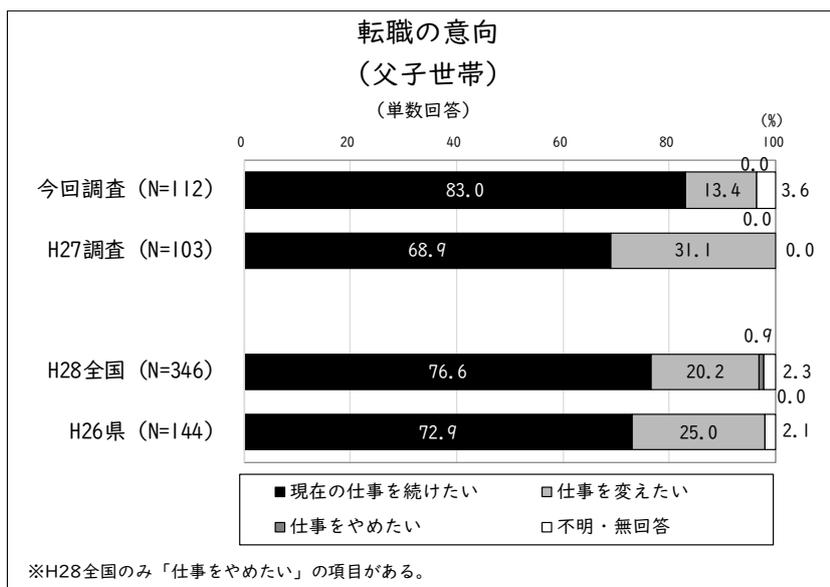
(母子世帯)

「現在の仕事を続けたい」が 72.6%、「仕事を変えたい」が 24.3%となっています。



(父子世帯)

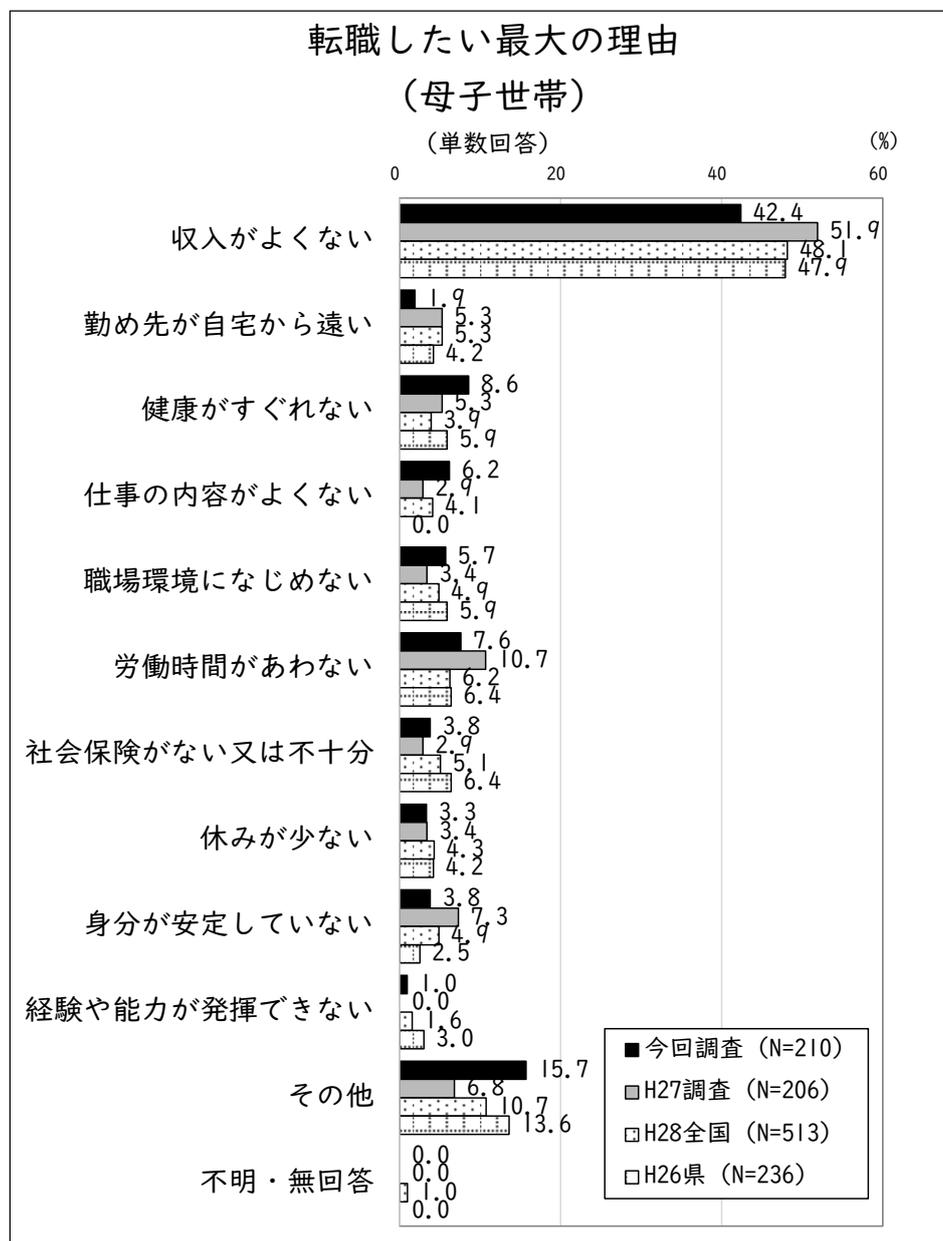
「現在の仕事を続けたい」が 83.0%、「仕事を変えたい」が 13.4%となっています。



【転職したい最大の理由】

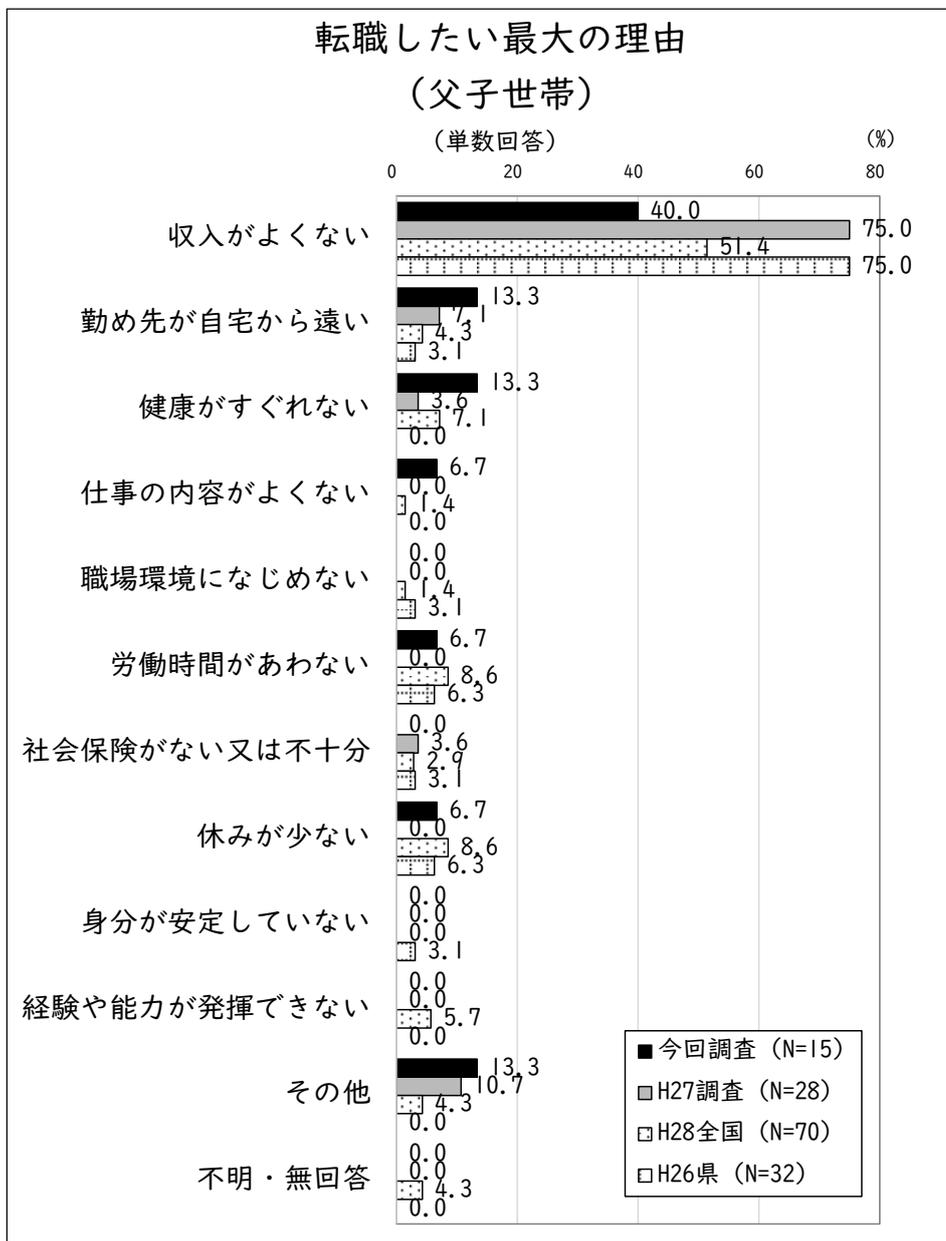
(母子世帯)

「仕事を変えたい」人の最大の理由は、「収入がよくない」が最も多く 42.4%、次いで「健康がすぐれない」が 8.6%、「労働時間があわない」が 7.6%などとなっています。



(父子世帯)

「仕事を变えたい」人の最大の理由は、「収入がよくない」が最も多く 40.0%、次いで「勤め先が自宅から遠い」「健康がすぐれない」がそれぞれ 13.3%、「仕事の内容がよくない」「労働時間があわない」「休みが少ない」がそれぞれ 6.7%などとなっています。

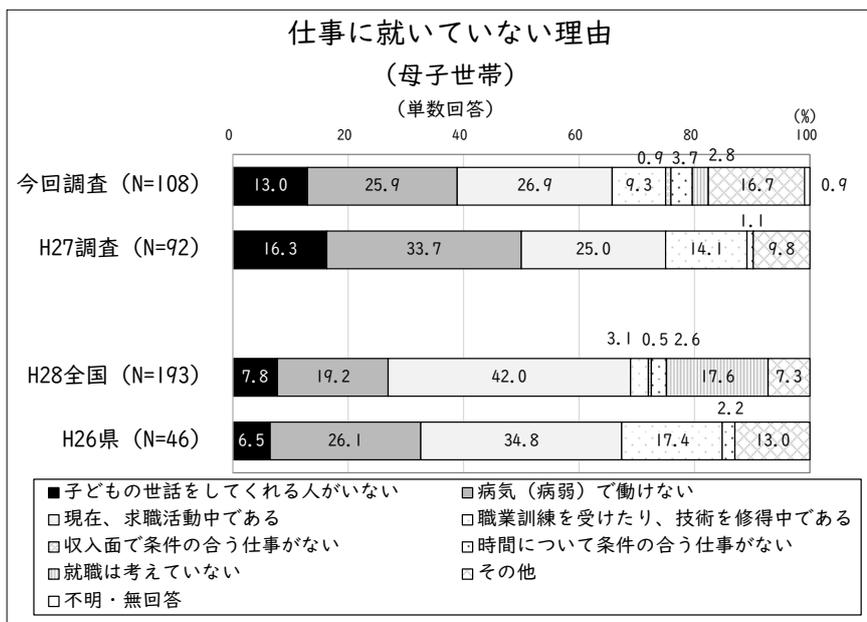


⑦ 仕事に就いていない理由

<現在、仕事をされていない人のみ回答>

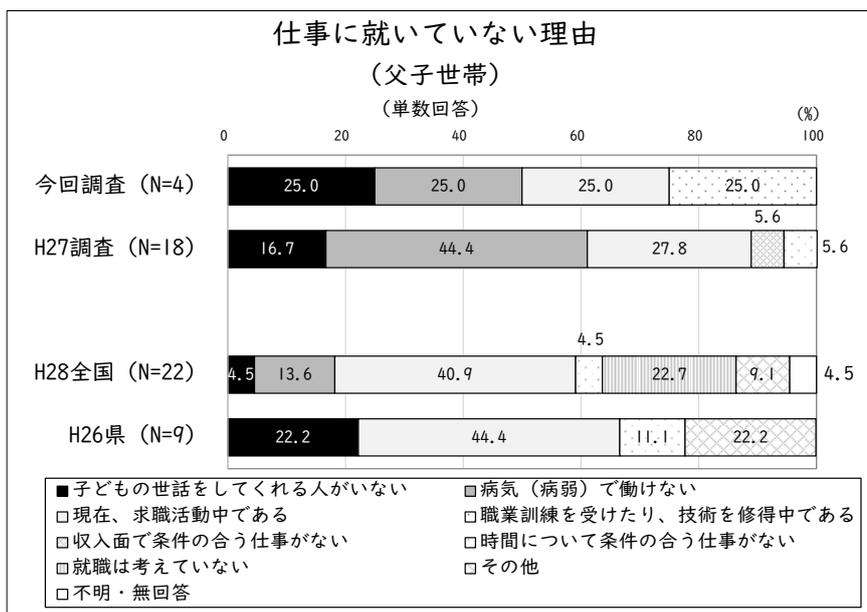
(母子世帯)

「現在、求職活動中である」が最も多く 26.9%、次いで「病気(病弱)で働けない」が 25.9%、「子どもの世話をしてくれる人がいない」が 13.0%などとなっています。



(父子世帯)

「子どもの世話をしてくれる人がいない」「病気(病弱)で働けない」「現在、求職活動中である」「職業訓練を受けたり、技術を修得中である」がそれぞれ 25.0%となっています。



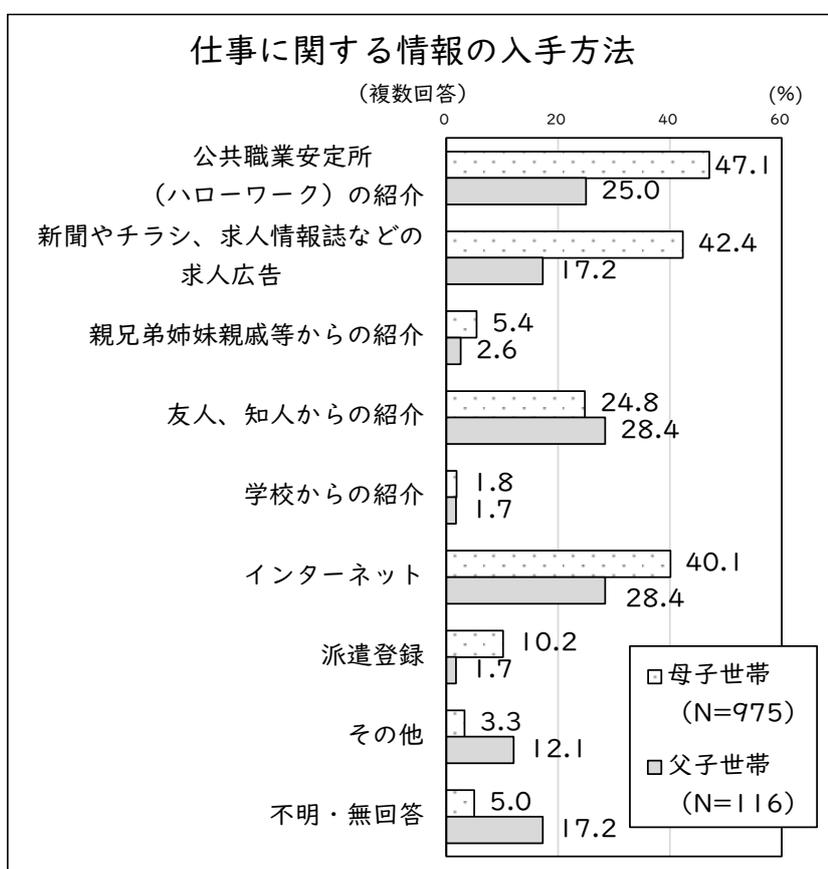
⑧ 仕事に関する情報の入手方法

(母子世帯)

「公共職業安定所(ハローワーク)の紹介」が最も多く47.1%、次いで「新聞やチラシ、求人情報誌などの求人広告」が42.4%、「インターネット」が40.1%などとなっています。

(父子世帯)

「友人、知人からの紹介」「インターネット」が最も多くそれぞれ28.4%、次いで「公共職業安定所(ハローワーク)の紹介」が25.0%、「新聞やチラシ、求人情報誌などの求人広告」が17.2%などとなっています。



(4) 各種資格・免許について

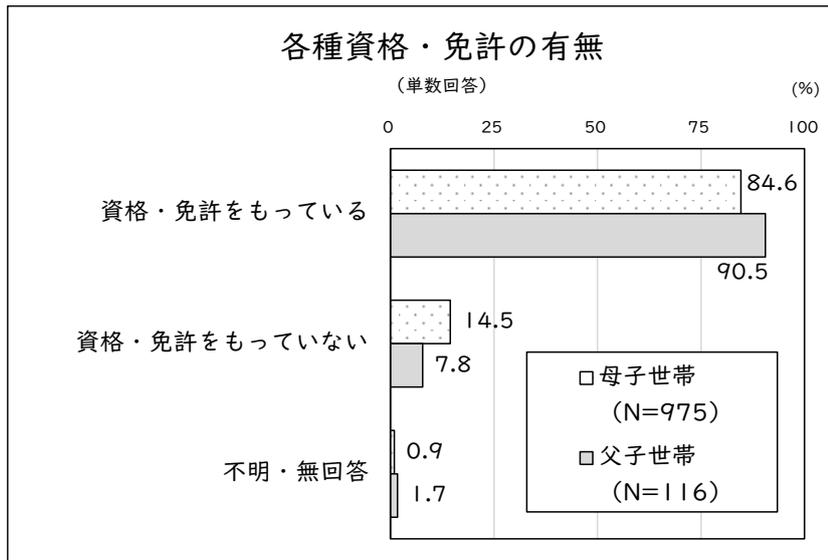
① 各種資格・免許の有無

(母子世帯)

「資格・免許をもっている」が 84.6%、「資格・免許をもっていない」が 14.5%となっています。

(父子世帯)

「資格・免許をもっている」が 90.5%、「資格・免許をもっていない」が 7.8%となっています。



② 現在取得している資格・技能、仕事に役立っている資格・技能、今後取得したい資格・技能

(母子世帯)

現在取得している資格・技能は、「自動車運転免許」が最も多く 68.2%、次いで「簿記」が 24.6%、「パソコン」が 18.2%などとなっています。

仕事に役立っている資格・技能は、「自動車運転免許」が最も多く 29.8%、次いで「パソコン」が 11.3%、「看護師・准看護師」が 7.6%などとなっています。

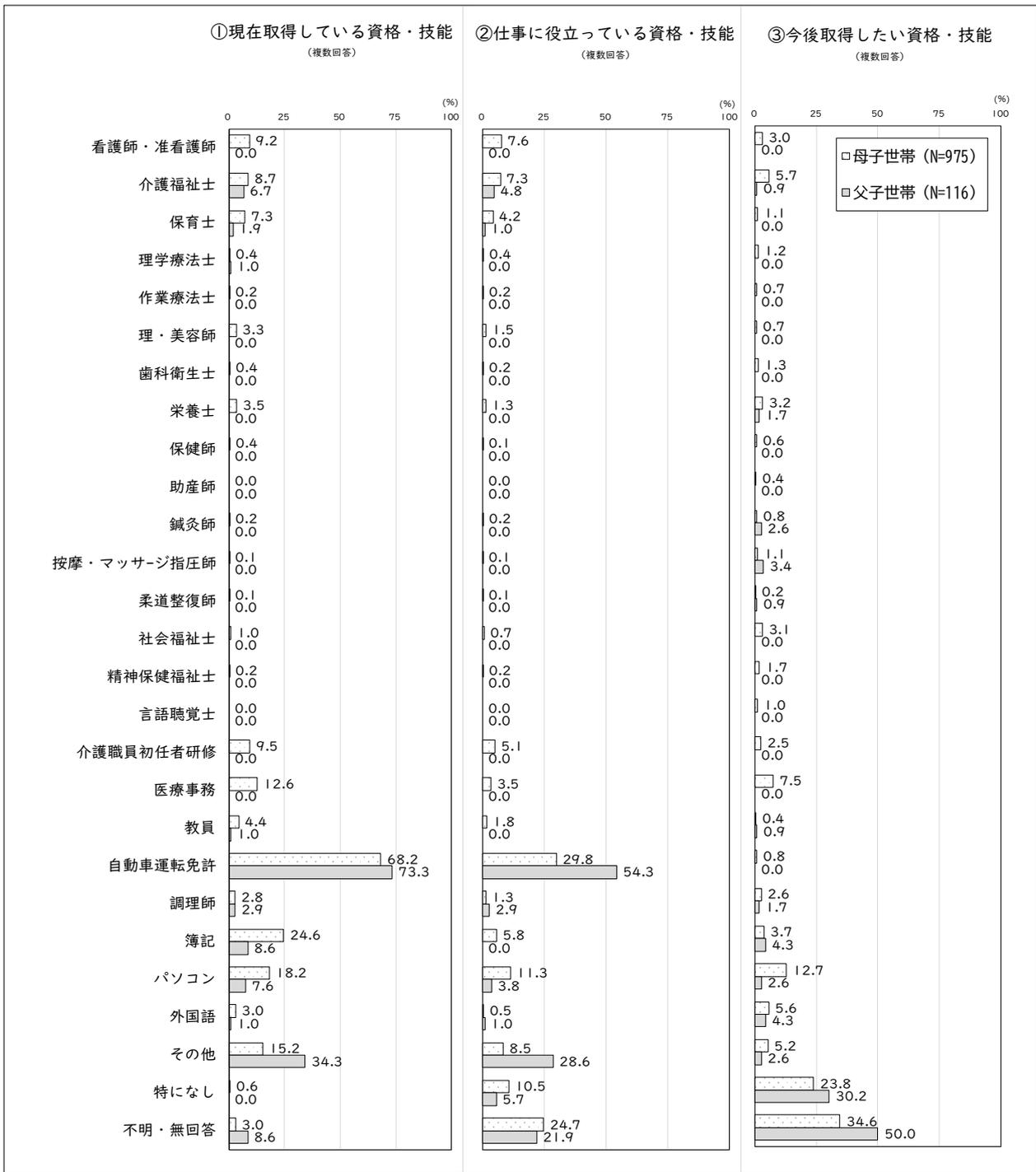
今後取得したい資格・技能は、「パソコン」が最も多く 12.7%、次いで「医療事務」が 7.5%、次いで「介護福祉士」が 5.7%などとなっています。

(父子世帯)

現在取得している資格・技能は、「自動車運転免許」が最も多く 73.3%、次いで「簿記」が 8.6%、「パソコン」が 7.6%などとなっています。

仕事に役立っている資格・技能は、「自動車運転免許」が最も多く 54.3%、次いで「介護福祉士」が 4.8%、「パソコン」が 3.8%などとなっています。

今後取得したい資格・技能は、「簿記」「外国語」が最も多くそれぞれ 4.3%、次いで「按摩・マッサージ指圧師」が 3.4%、「鍼灸師」「パソコン」がそれぞれ 2.6%などとなっています。



(5) 経済状況について

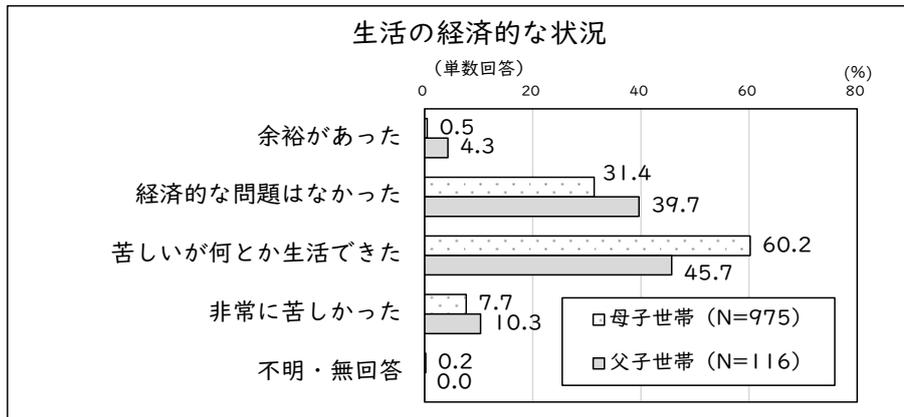
① 生活の経済的な状況

(母子世帯)

「苦しいが何とか生活できた」が最も多く 60.2%、次いで「経済的な問題はなかった」が 31.4%、「非常に苦しかった」が 7.7%、「余裕があった」が 0.5%となっています。

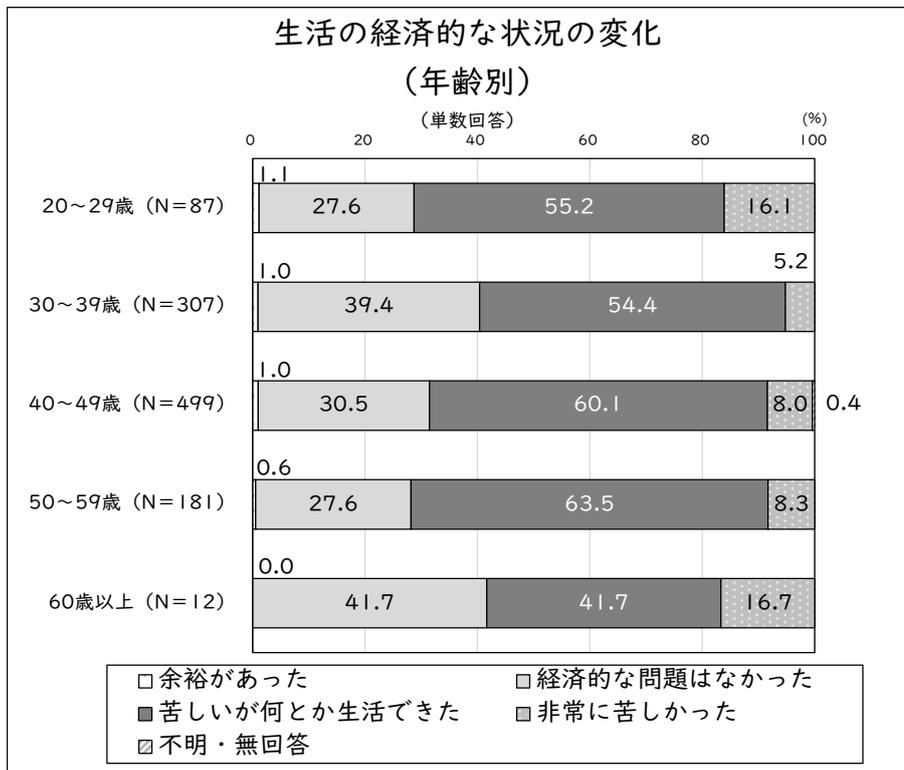
(父子世帯)

「苦しいが何とか生活できた」が最も多く 45.7%、次いで「経済的な問題はなかった」が 39.7%、「非常に苦しかった」が 10.3%、「余裕があった」が 4.3%となっています。



(年齢別)

すべての年代において「苦しいが何とか生活できた」が最も多くなっています。



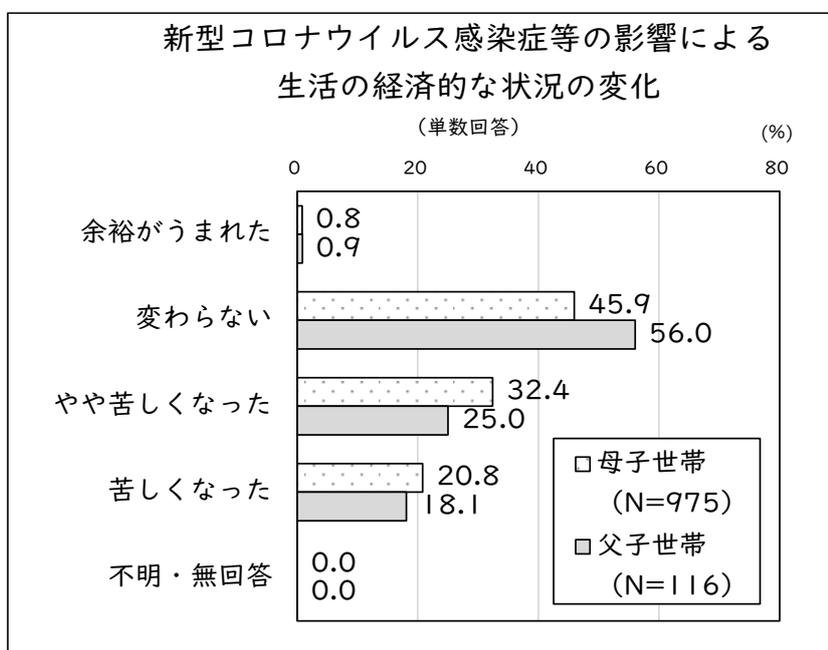
【新型コロナウイルス感染症等の影響による生活の経済的な状況の変化】

(母子世帯)

新型コロナウイルス感染症等の影響による生活の経済的な状況の変化をみると、「変わらない」が最も多く45.9%、次いで「やや苦しくなった」が32.4%、「苦しくなった」が20.8%、「余裕が生まれた」が0.8%となっています。

(父子世帯)

新型コロナウイルス感染症等の影響による生活の経済的な状況の変化をみると、「変わらない」が最も多く56.0%、次いで「やや苦しくなった」が25.0%、「苦しくなった」が18.1%、「余裕が生まれた」が0.9%となっています。



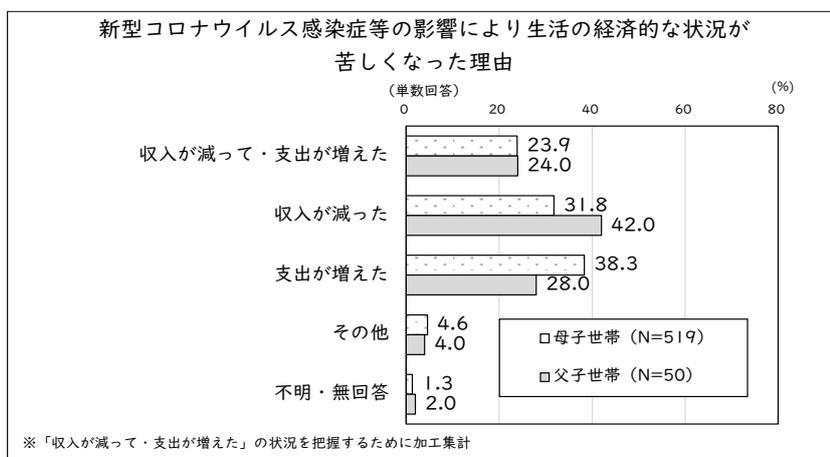
【新型コロナウイルス感染症等の影響により生活の経済的な状況が変化した理由】

(母子世帯)

「やや苦しくなった」「苦しくなった」と回答した人のその理由は、「支出が増えた」が最も多く38.3%、次いで「収入が減った」が31.8%、「収入が減って・支出が増えた」が23.9%などとなっています。

(父子世帯)

「やや苦しくなった」「苦しくなった」と回答した人のその理由は、「収入が減った」が最も多く42.0%、次いで「支出が増えた」が28.0%、「収入が減って・支出が増えた」が24.0%などとなっています。



(収入が減った理由)

※延べ件数

- ・ 自宅待機や在宅勤務等により勤務時間・日数が減少したため 118 件
- ・ 会社や店舗が休業したため 38 件
- ・ 給与やボーナス等が減額されたため 36 件
- ・ 休職・退職したため 35 件
- ・ お店等の客の数や売上が減少したため 30 件
- ・ 子どもの休校等により仕事の休みが増えたため 26 件
- ・ 求職・転職のため 10 件
- ・ 同居者の収入が減少したため 5 件
- ・ 養育費が支払われなくなったため 3 件
- ・ その他 9 件

(支出が増えた理由)

※延べ件数

- ・ 休校等により子どもが自宅にいる時間が増えて生活費が増加したため 190 件
- ・ 在宅勤務等により自宅にいる時間が増えて生活費が増加したため 89 件
- ・ マスクやアルコール消毒液等を購入したため 40 件
- ・ 子どもの成長に伴い教育費が増加したため 17 件
- ・ 児童クラブへの費用が増加したため 7 件
- ・ 親族への仕送り等が増加したため 5 件
- ・ その他 12 件

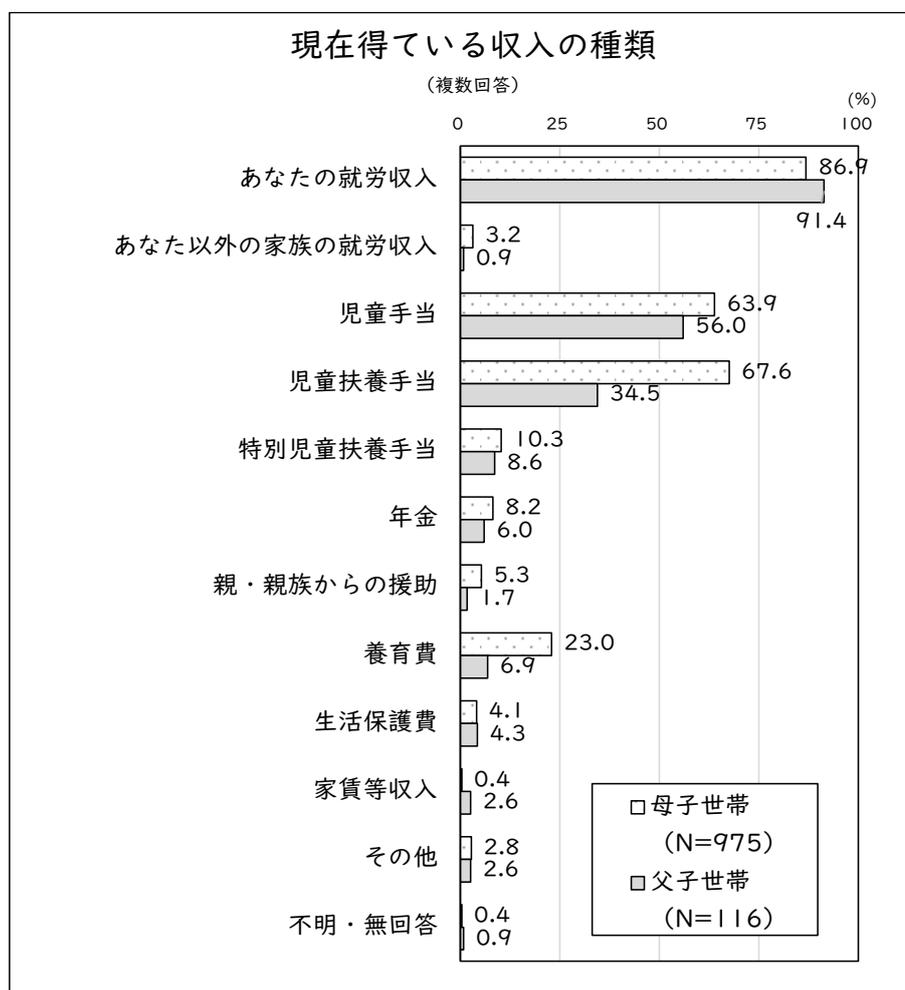
② 現在得ている収入の種類

(母子世帯)

「あなたの就労収入」が最も多く 86.9%、次いで「児童扶養手当」が 67.6%、「児童手当」が 63.9%などとなっています。

(父子世帯)

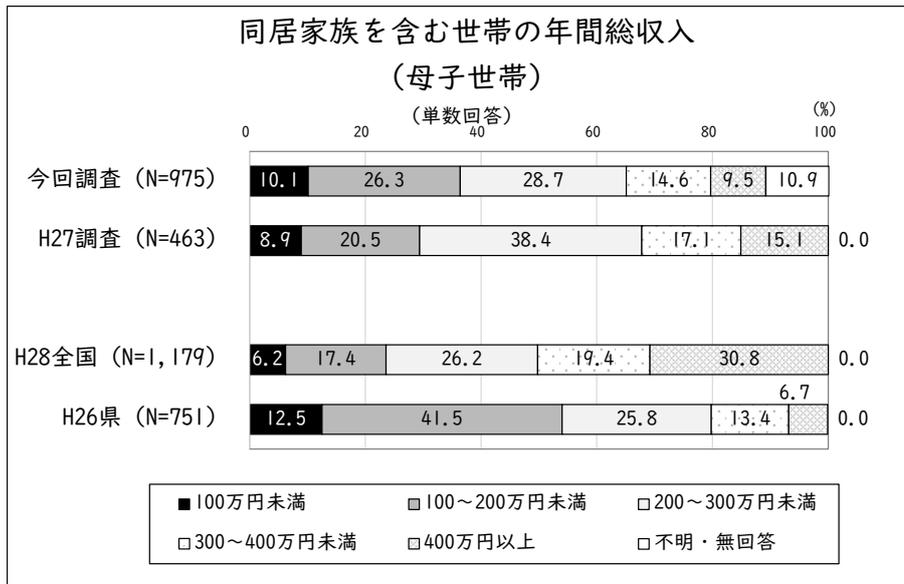
「あなたの就労収入」が最も多く 91.4%、次いで「児童手当」が 56.0%、「児童扶養手当」が 34.5%などとなっています。



③ 同居家族を含む世帯の年間総収入

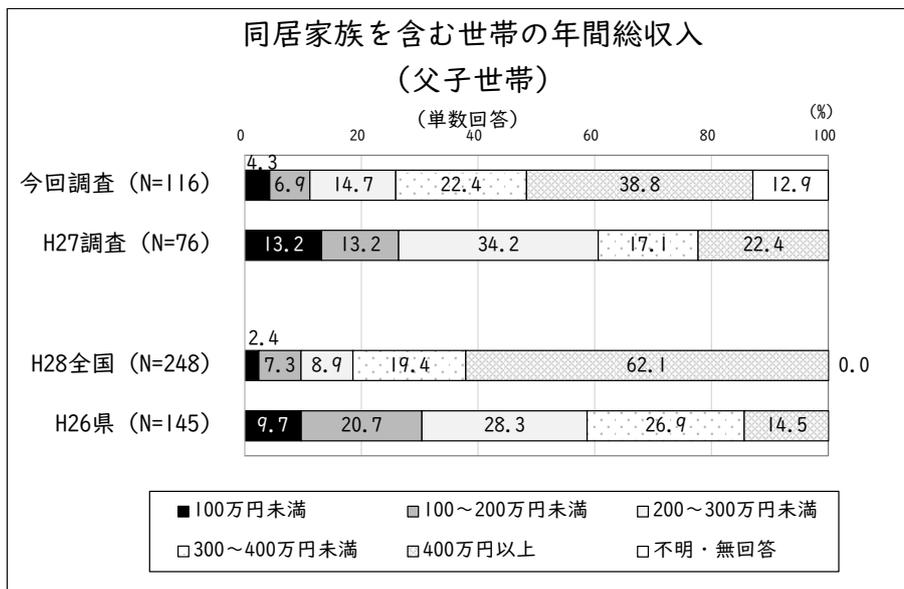
(母子世帯)

「200～300万円未満」が最も多く28.7%、次いで「100～200万円未満」が26.3%、「300～400万円未満」が14.6%などとなっています。また、「100万円未満」が10.1%となっています。



(父子世帯)

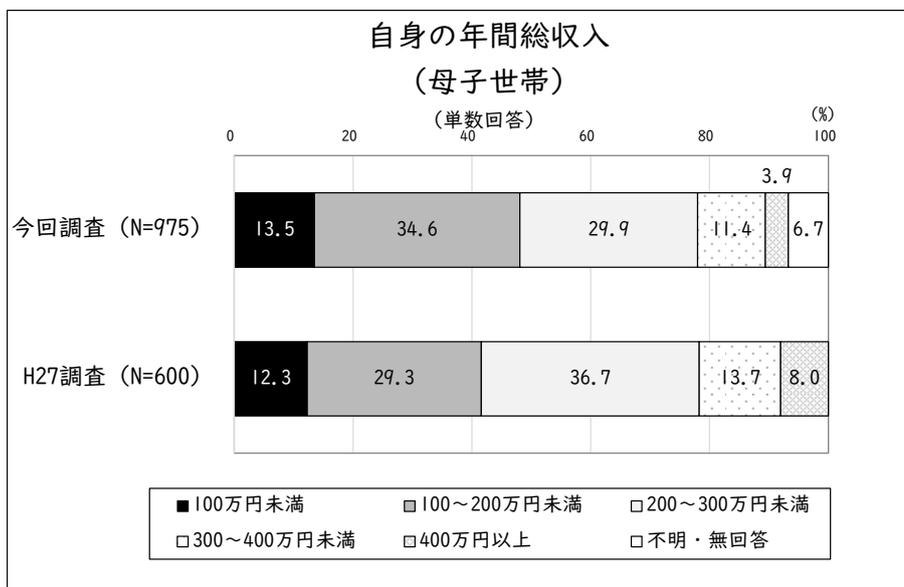
「400万円以上」が最も多く38.8%、次いで「300～400万円未満」が22.4%、「200～300万円未満」が14.7%などとなっています。また、「100万円未満」が4.3%となっています。



④ 自身の年間総収入

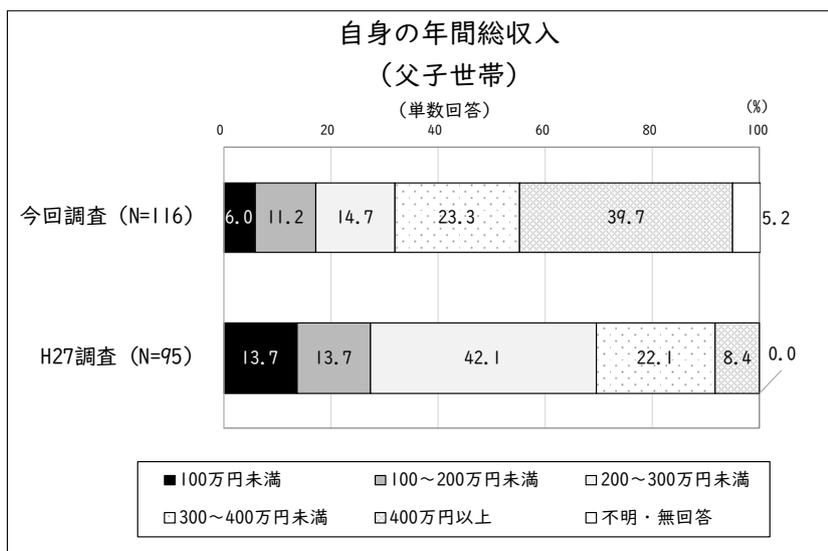
(母子世帯)

「100～200万円未満」が最も多く34.6%、次いで「200～300万円未満」が29.9%、「100万円未満」が13.5%などとなっています。



(父子世帯)

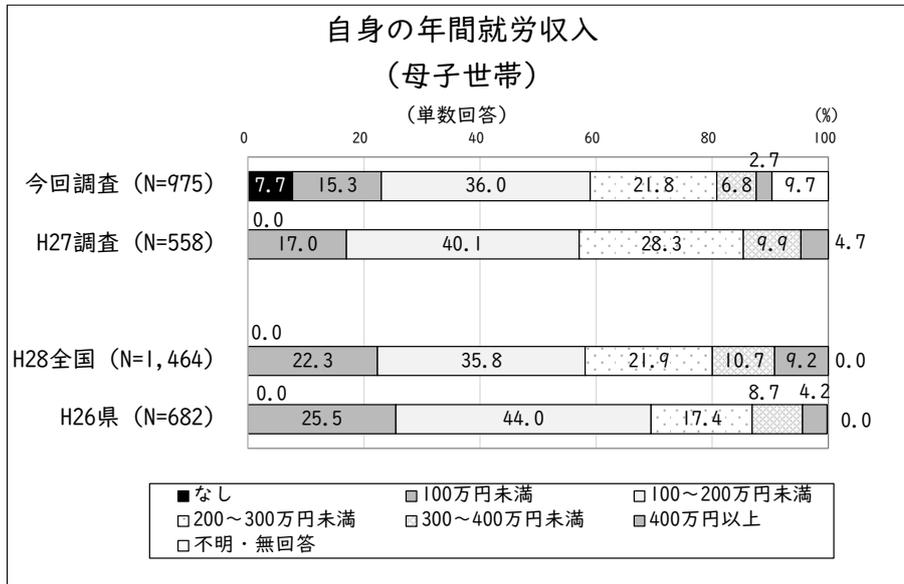
「400万円以上」が最も多く39.7%、次いで「300～400万円未満」が23.3%、「200～300万円未満」が14.7%などとなっています。また、「100万円未満」が6.0%となっています。



⑤ 自身の年間就労収入

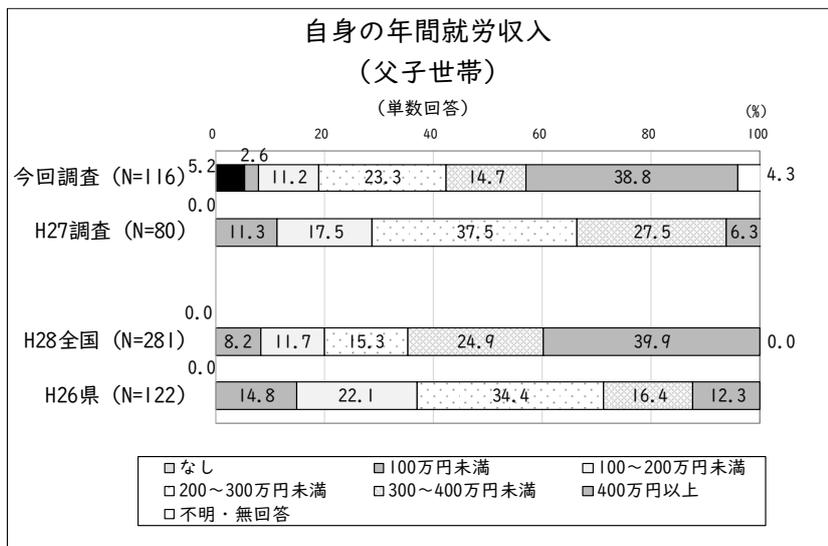
(母子世帯)

「100～200万円未満」が最も多く36.0%、次いで「200～300万円未満」が21.8%、「100万円未満」が15.3%などとなっています。また、「なし」が7.7%となっています。



(父子世帯)

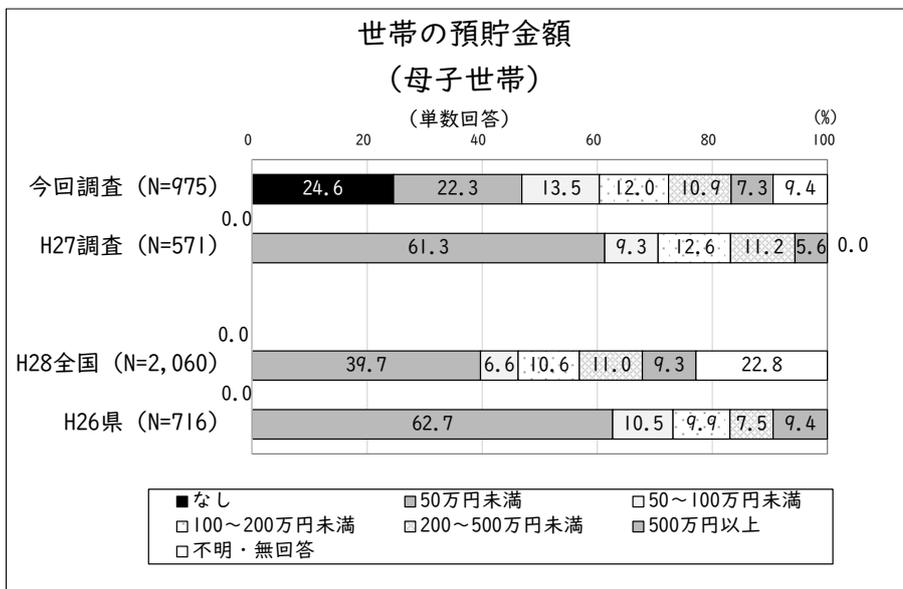
「400万円以上」が最も多く38.8%、次いで「200～300万円未満」が23.3%、「300～400万円未満」が14.7%などとなっています。また、「100万円未満」が2.6%、「なし」が5.2%となっています。



⑥ 世帯の預貯金額

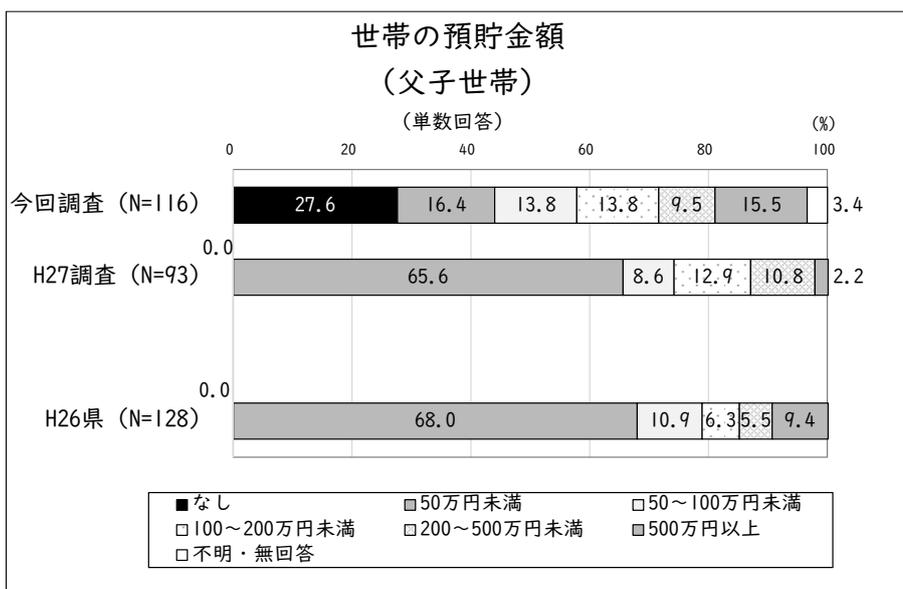
(母子世帯)

「なし」が最も多く24.6%、次いで「50万円未満」が22.3%、「50～100万円未満」が13.5%などとなっています。



(父子世帯)

「なし」が最も多く27.6%、次いで「50万円未満」が16.4%、「500万円以上」が15.5%などとなっています。

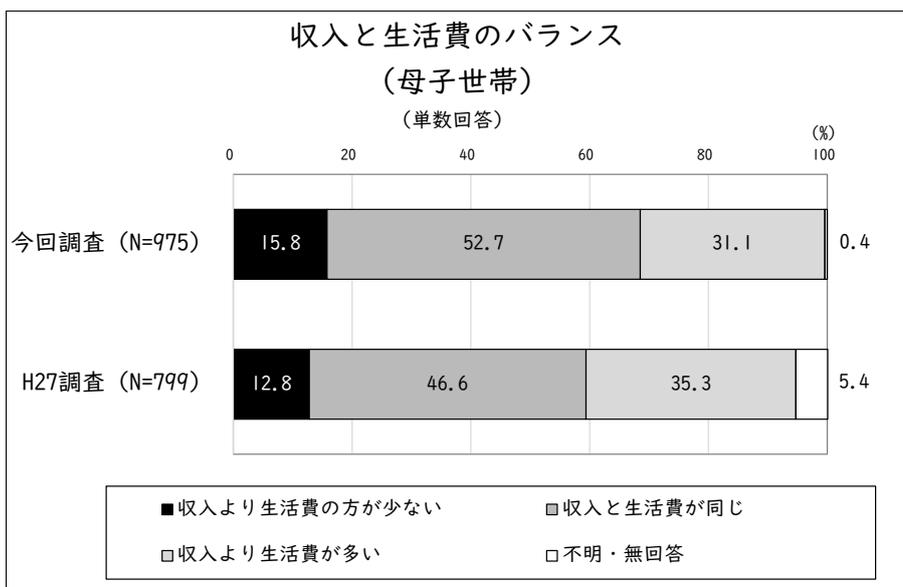


⑦ 収入と生活費のバランス

【収入と生活費のバランス】

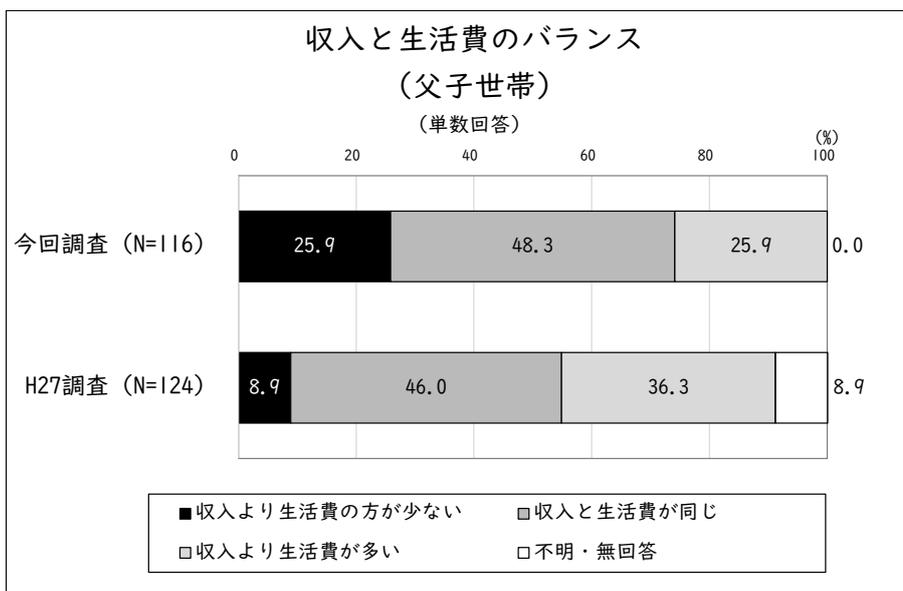
(母子世帯)

「収入と生活費が同じ」が最も多く 52.7%、次いで「収入より生活費が多い」が 31.1%、「収入より生活費の方が少ない」が 15.8%となっています。



(父子世帯)

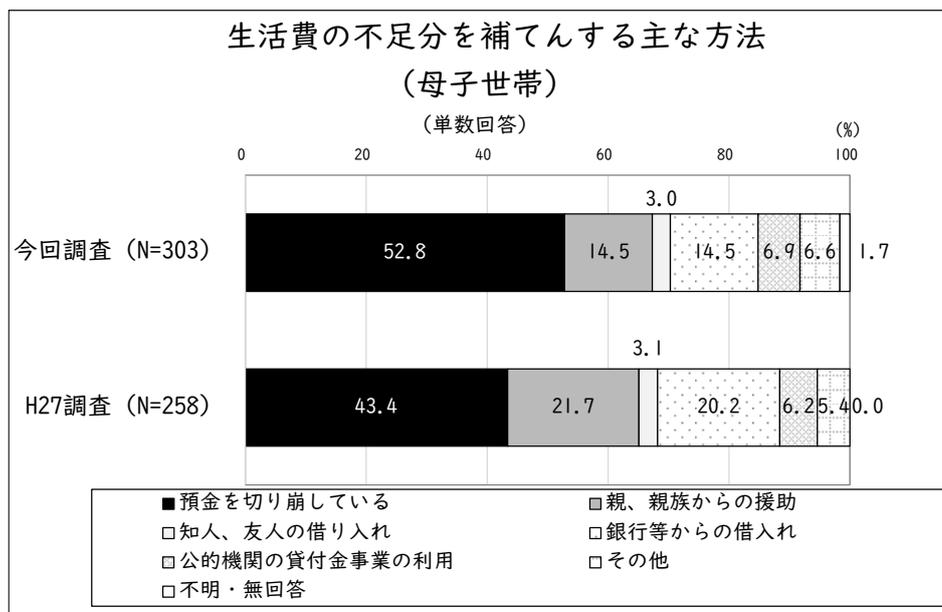
「収入と生活費が同じ」が最も多く 48.3%、次いで「収入より生活費の方が少ない」「収入より生活費が多い」がそれぞれ 25.9%となっています。



【生活費の不足分を補てんする主な方法】

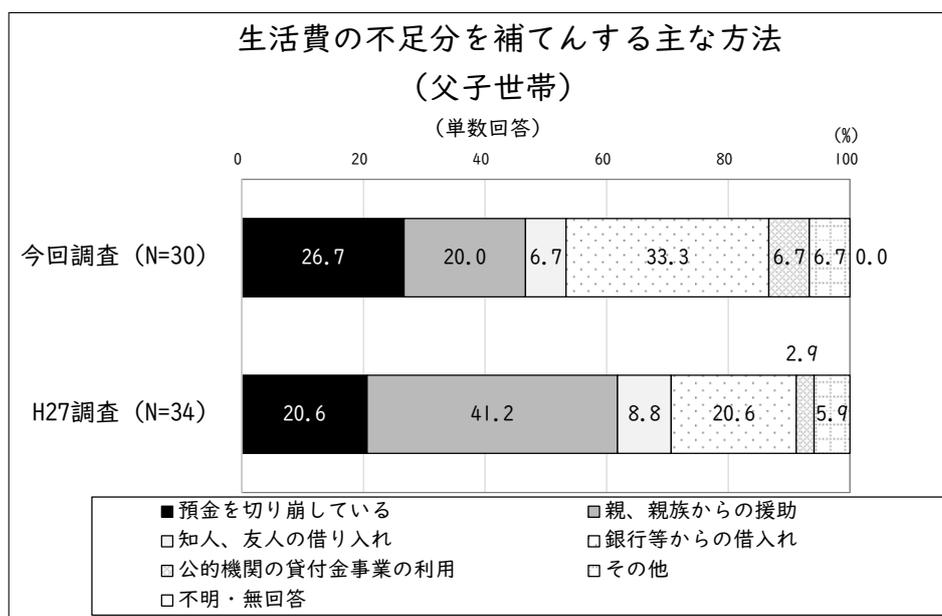
(母子世帯)

「収入より生活費が多い」と回答した人の生活費の不足分の補てん方法は、「預金を切り崩している」が最も多く 52.8%、次いで「親、親族からの援助」「銀行等からの借入れ」がそれぞれ 14.5%、「公的機関の貸付金事業の利用」が 6.9%などとなっています。



(父子世帯)

「収入より生活費が多い」と回答した人の生活費の不足分の補てん方法は、「銀行等からの借入れ」が最も多く 33.3%、次いで「預金を切り崩している」が 26.7%、「親、親族からの援助」が 20.0% などとなっています。

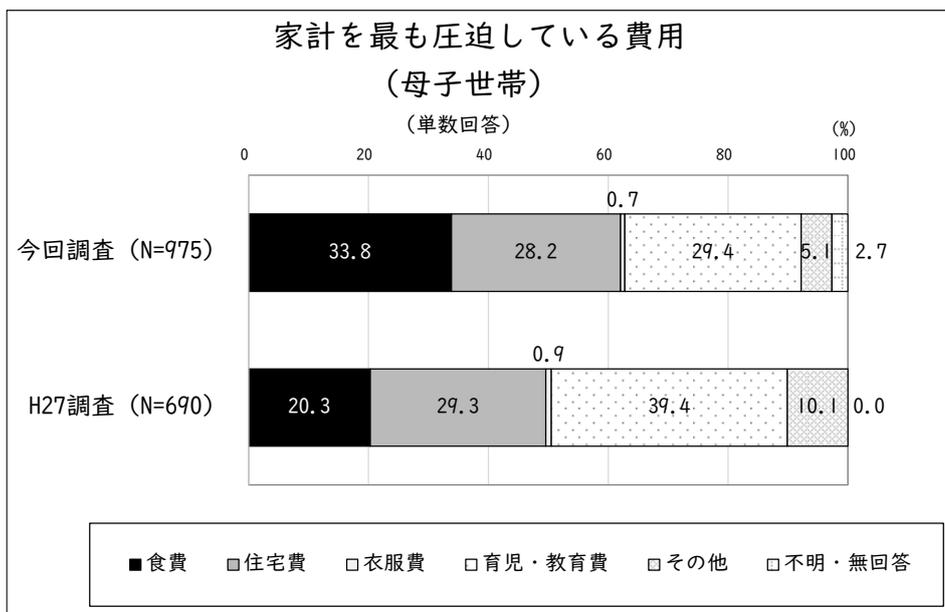


⑧ 家計を最も圧迫している費用

【家計を最も圧迫している費用】

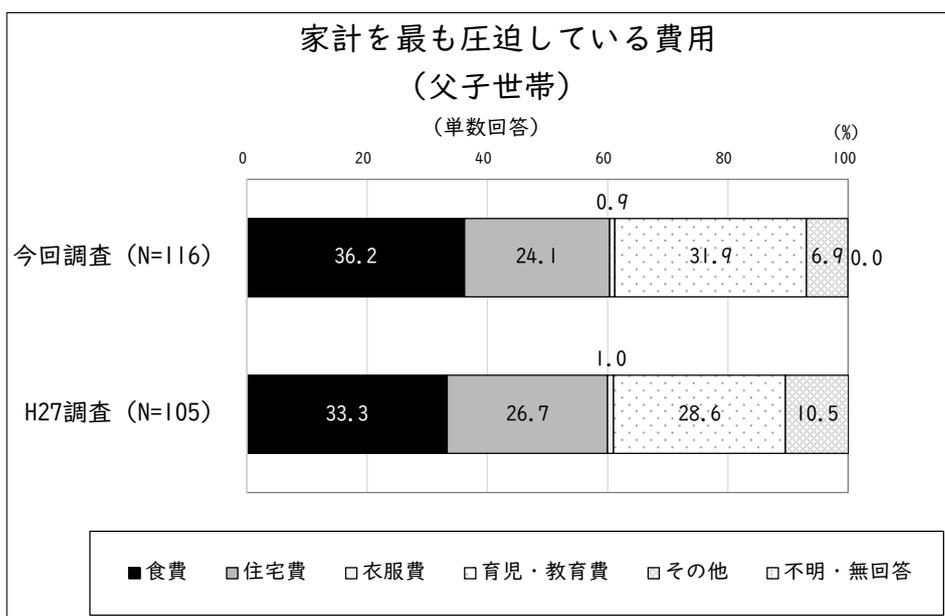
(母子世帯)

「食費」が最も多く33.8%、次いで「育児・教育費」が29.4%、「住宅費」が28.2%などとなっています。



(父子世帯)

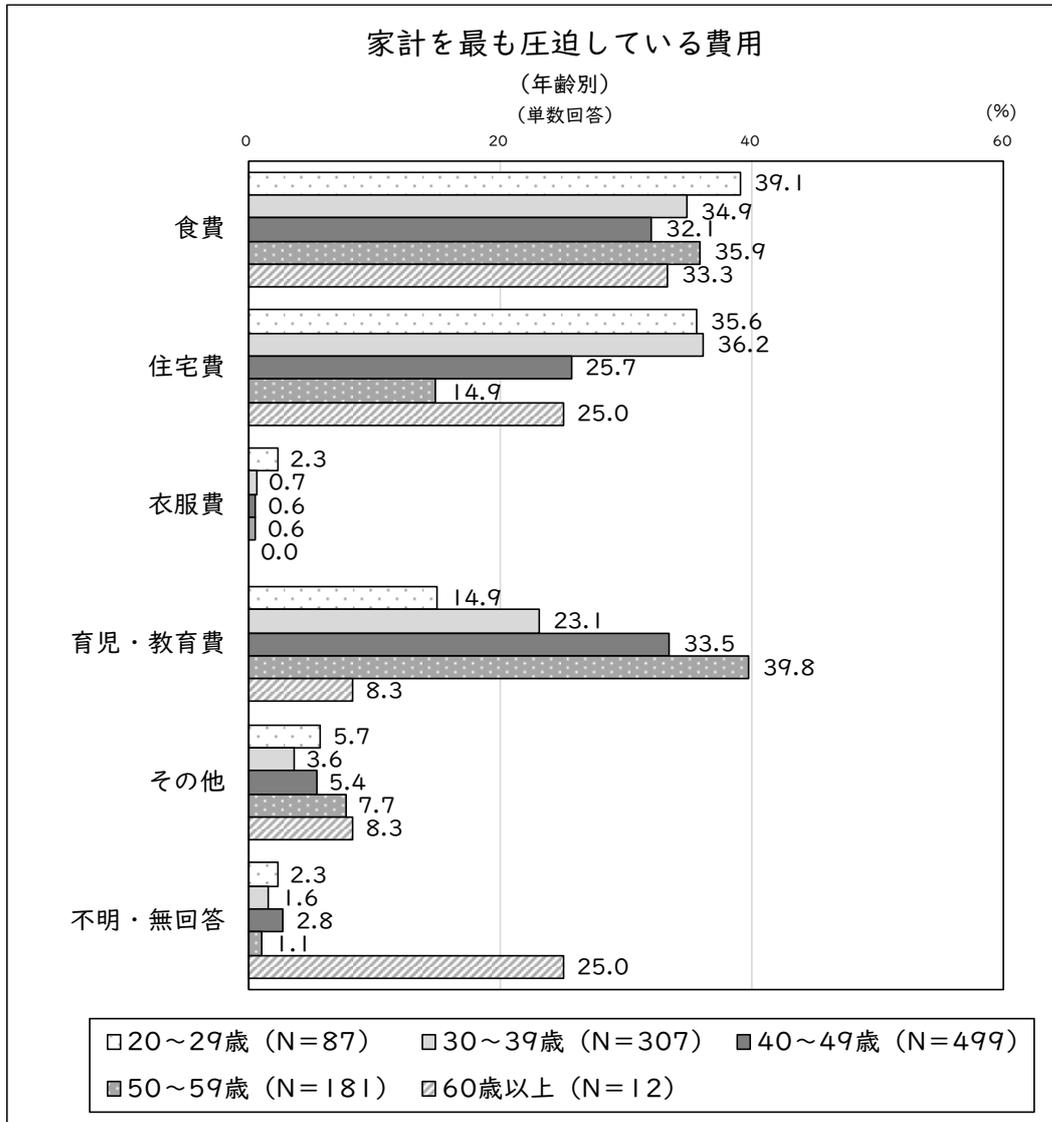
「食費」が最も多く36.2%、次いで「育児・教育費」が31.9%、「住宅費」が24.1%などとなっています。



(年齢別)

保護者の年齢別にみると、「20～29 歳」では「食費」が、「30～39 歳」では「住宅費」が、「40～49 歳」「50～59 歳」では「育児・教育費」が、「60 歳以上」では「食費」が最も多くなっています。

「20～29 歳」「30～39 歳」では「住宅費」が、「40～49 歳」「50～59 歳」では、「育児・教育費」が他の年代よりも多くなっています。



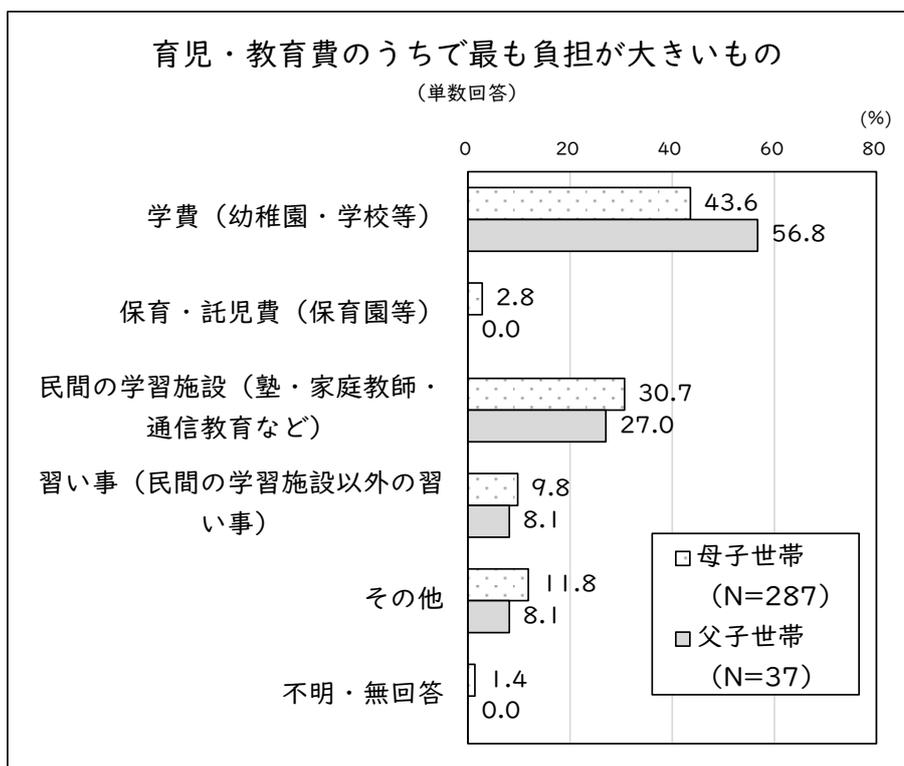
【育児・教育費のうちで最も負担が大きいもの】

(母子世帯)

家計を最も圧迫している費用として「育児・教育費」と回答した人の育児・教育費で最も負担の大きいものは、「学費(幼稚園・学校等)」が最も多く 43.6%、次いで「民間の学習施設(塾・家庭教師・通信教育など)」が 30.7%、「習い事(民間の学習施設以外の習い事)」が 9.8%などとなっています。

(父子世帯)

家計を最も圧迫している費用として「育児・教育費」と回答した人の育児・教育費で最も負担の大きいものは、「学費(幼稚園・学校等)」が最も多く 56.8%、次いで「民間の学習施設(塾・家庭教師・通信教育など)」が 27.0%、「習い事(民間の学習施設以外の習い事)」が 8.1%などとなっています。



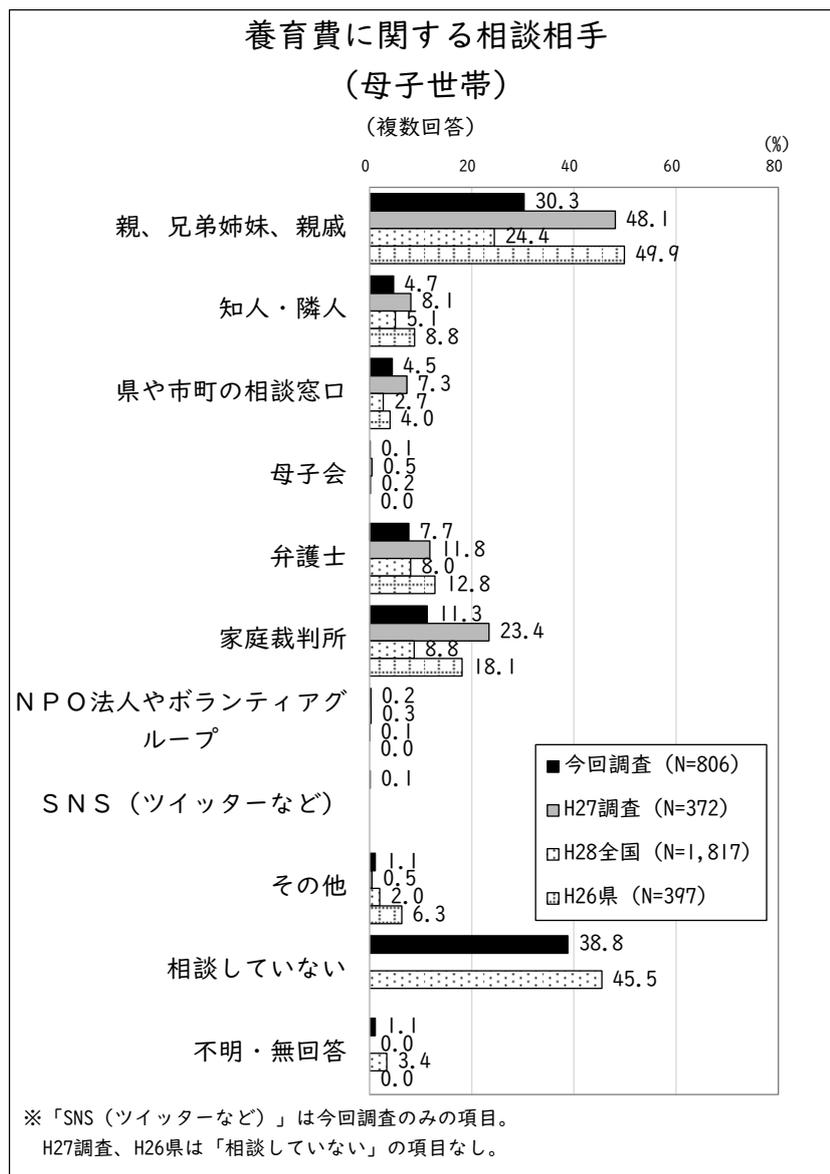
(6) 養育費について

<協議離婚、調停離婚、審判離婚、裁判離婚によりひとり親世帯になった人のみ回答>

① 養育費に関する相談相手

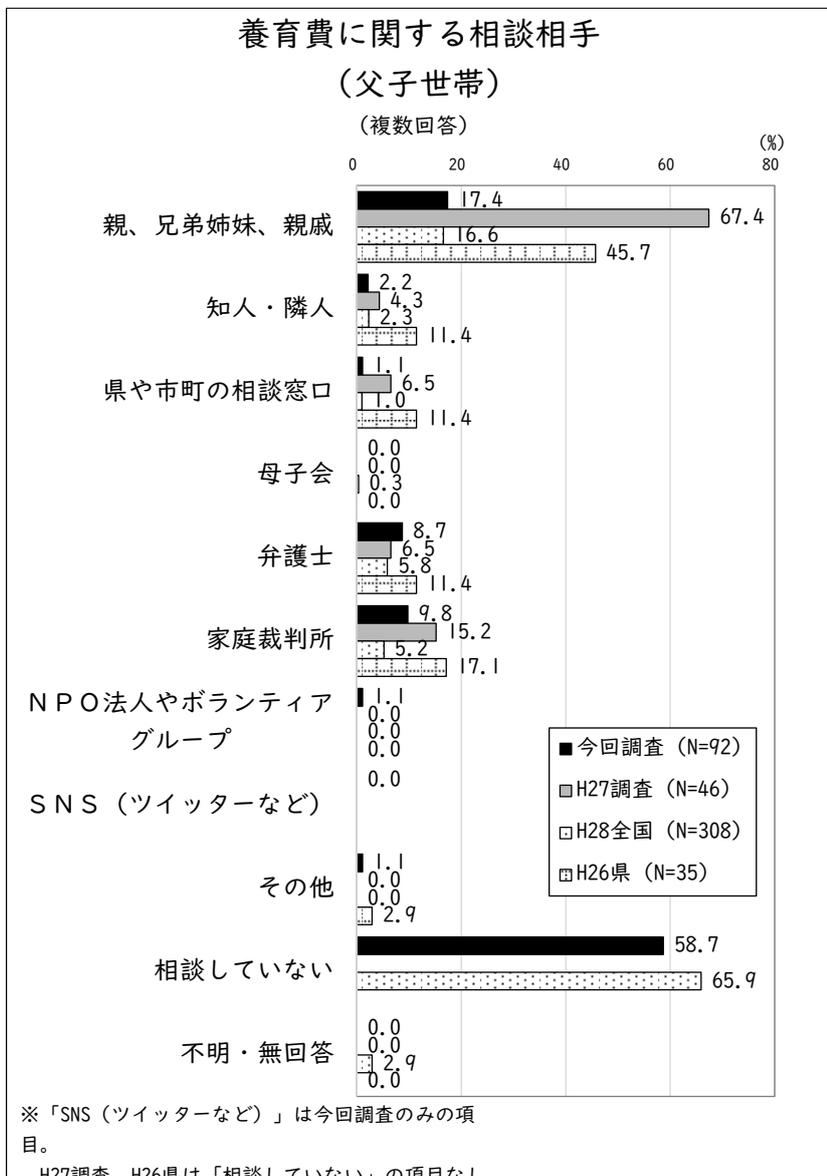
(母子世帯)

「相談していない」が最も多く38.8%、次いで「親、兄弟姉妹、親戚」が30.3%、「家庭裁判所」が11.3%などとなっています。



(父子世帯)

「相談していない」が最も多く 58.7%、次いで「親、兄弟姉妹、親戚」が 17.4%、「家庭裁判所」が 9.8%などとなっています。

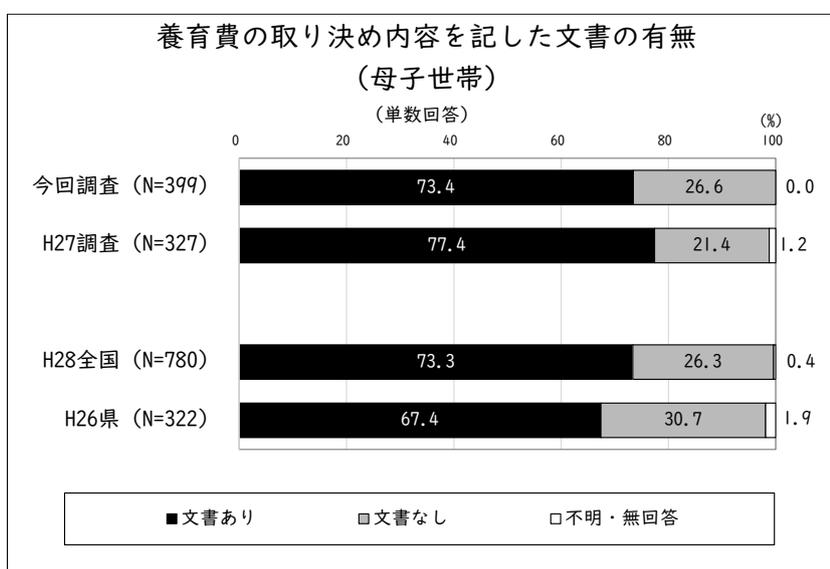
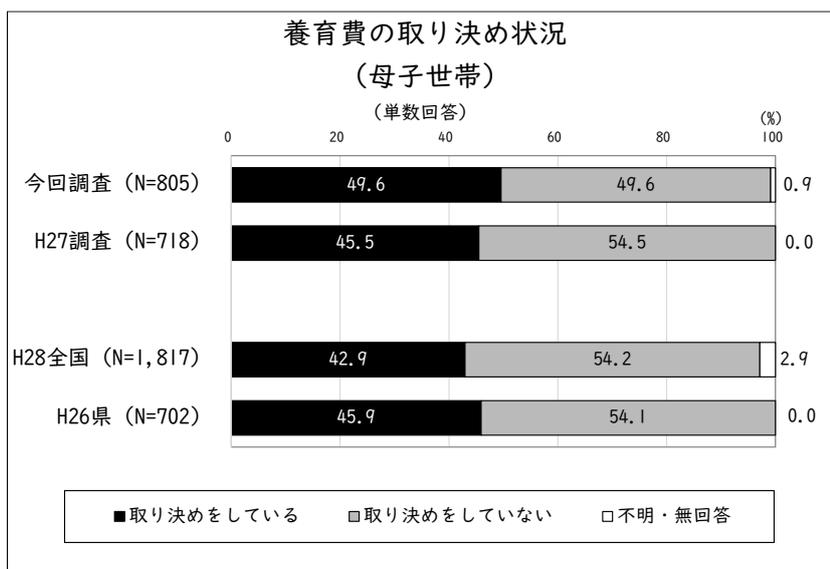


② 養育費の取り決め状況と取り決め内容を記した文書の有無

(母子世帯)

「取り決めをしている」が49.6%、「取り決めをしていない」が49.6%となっています。

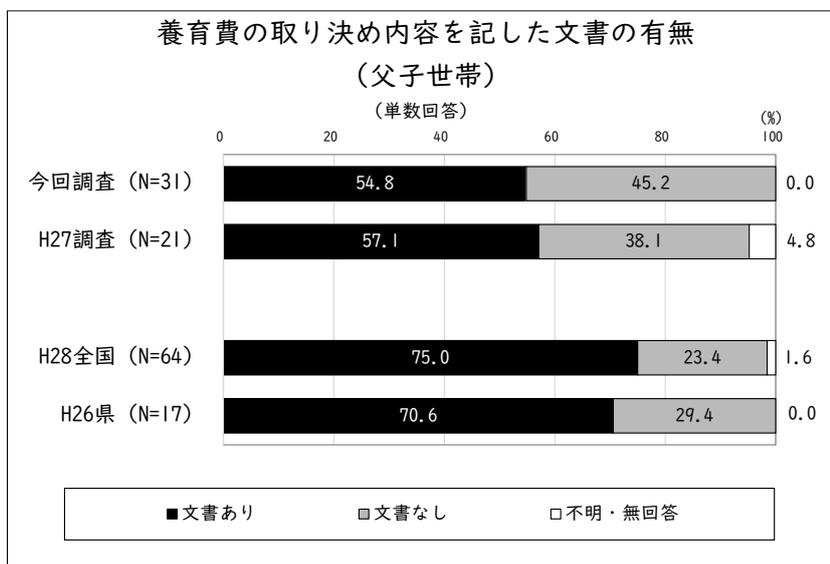
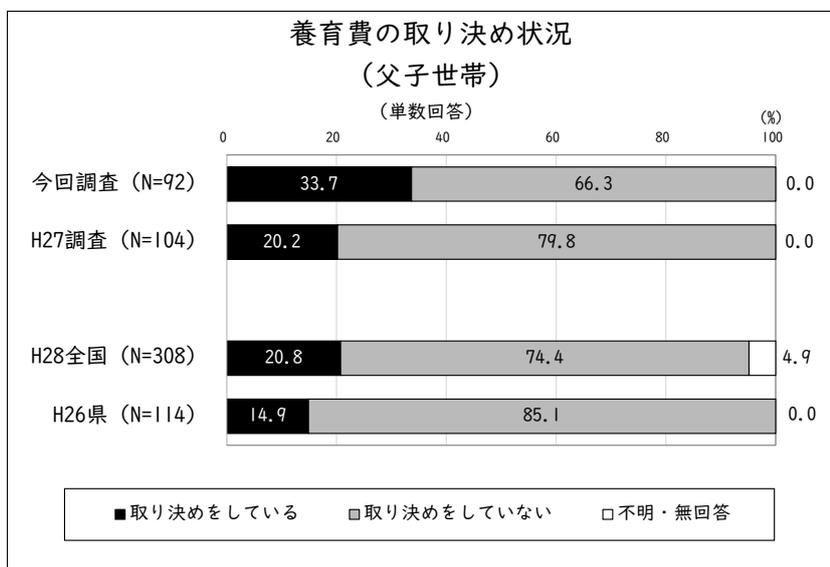
「取り決めをしている」と回答した人のうち、「文書あり」が73.4%、「文書なし」が26.6%となっています。



(父子世帯)

「取り決めている」が 33.7%、「取り決めていない」が 66.3%となっています。

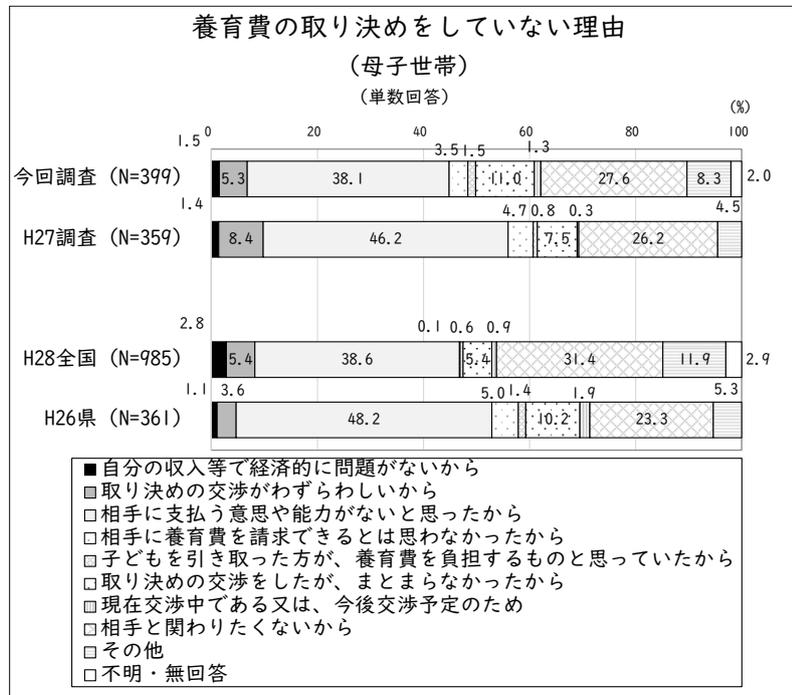
「取り決めている」と回答した人のうち、「文書あり」が 54.8%、「文書なし」が 45.2%となっています。



③ 養育費の取り決めをしていない理由

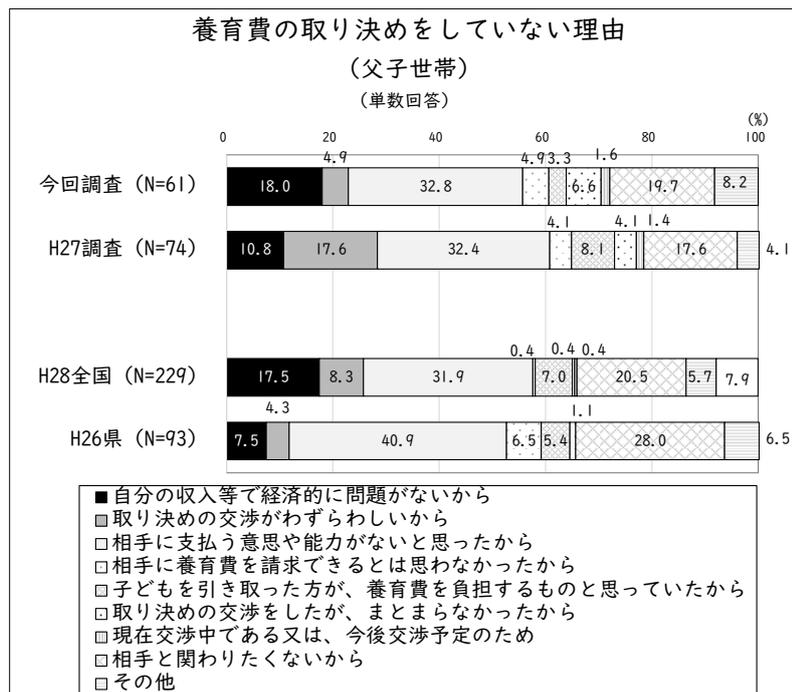
(母子世帯)

「相手に支払う意思や能力がないと思ったから」が最も多く 38.1%、次いで「相手と関わりたくないから」が 27.6%、「取り決めの交渉をしたが、まとまらなかったから」が 11.0%などとなっています。



(父子世帯)

「相手に支払う意思や能力がないと思ったから」が最も多く 32.8%、次いで「相手と関わりたくないから」が 19.7%、「自分の収入等で経済的に問題がないから」が 18.0%などとなっています。

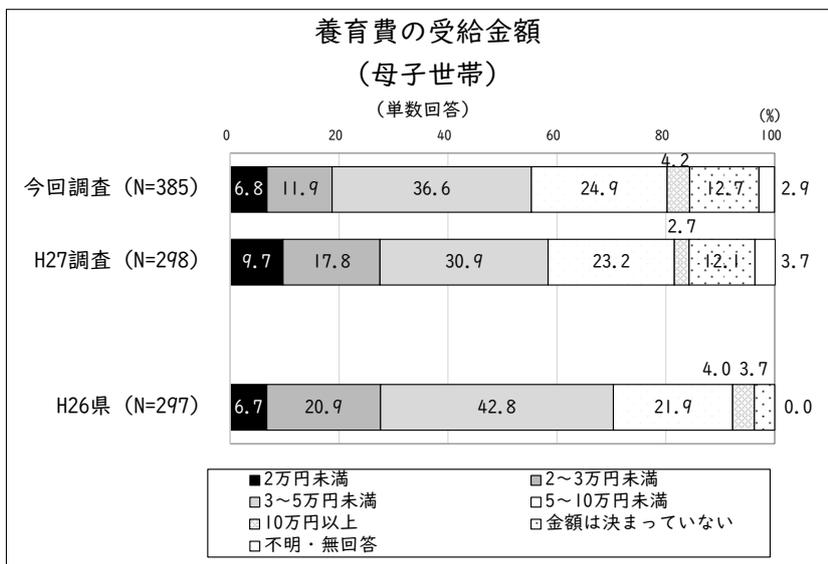
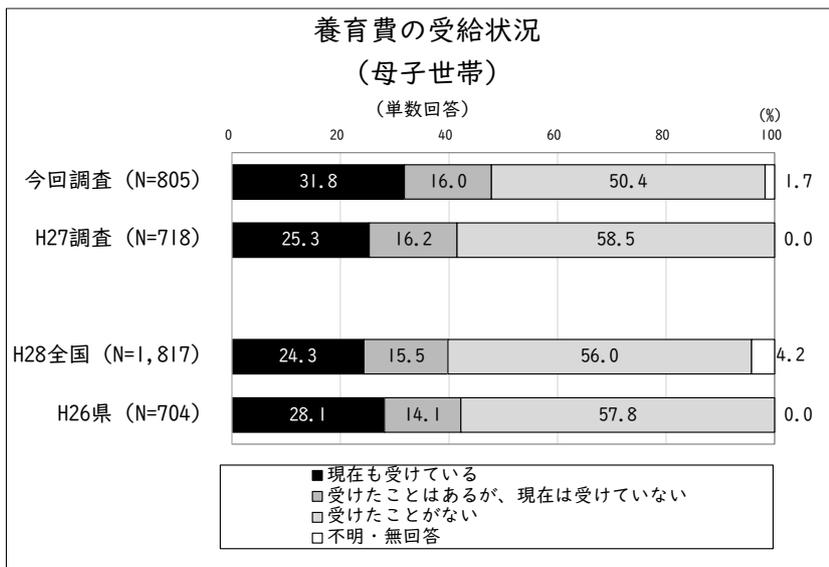


④ 養育費の受給状況と金額

(母子世帯)

「受けたことがない」が最も多く 50.4%、次いで「現在も受けている」が 31.8%、「受けたことはあるが、現在は受けていない」が 16.0%となっています。

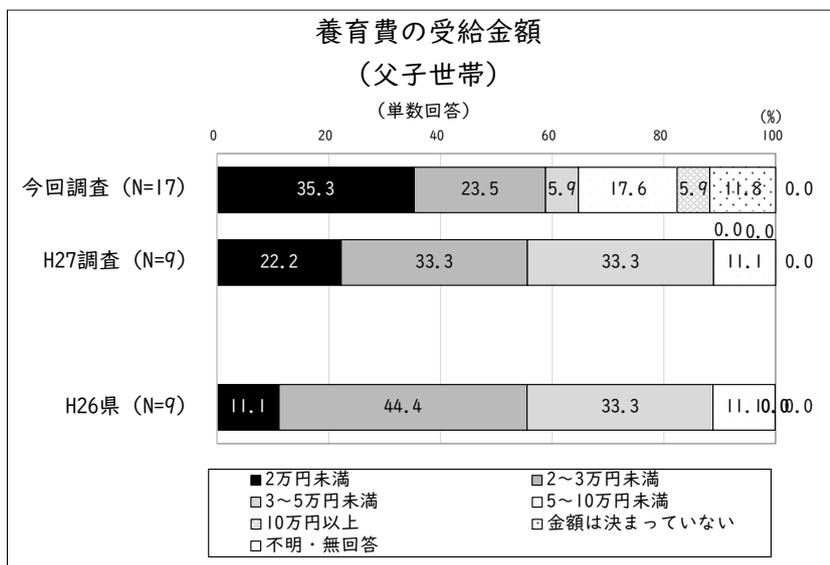
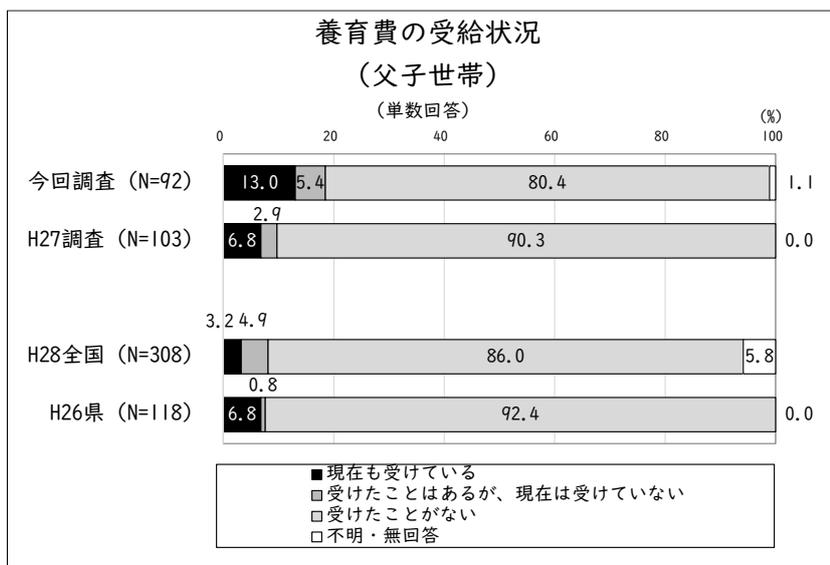
「現在も受けている」「受けたことはあるが、現在は受けていない」と回答した人のうち、受給金額は「3～5万円未満」が最も多く 36.6%、次いで「5～10万円未満」が 24.9%、「金額は決まっていない」が 12.7%などとなっています。



(父子世帯)

「受けたことがない」が最も多く 80.4%、次いで「現在も受けている」が 13.0%、「受けたことはあるが、現在は受けていない」が 5.4%となっています。

「現在も受けている」「受けたことはあるが、現在は受けていない」と回答した人のうち、受給金額は「2万円未満」が最も多く 35.3%、次いで「2～3万円未満」が 23.5%、「5～10万円未満」が 17.6%などとなっています。



(7) 面会交流について

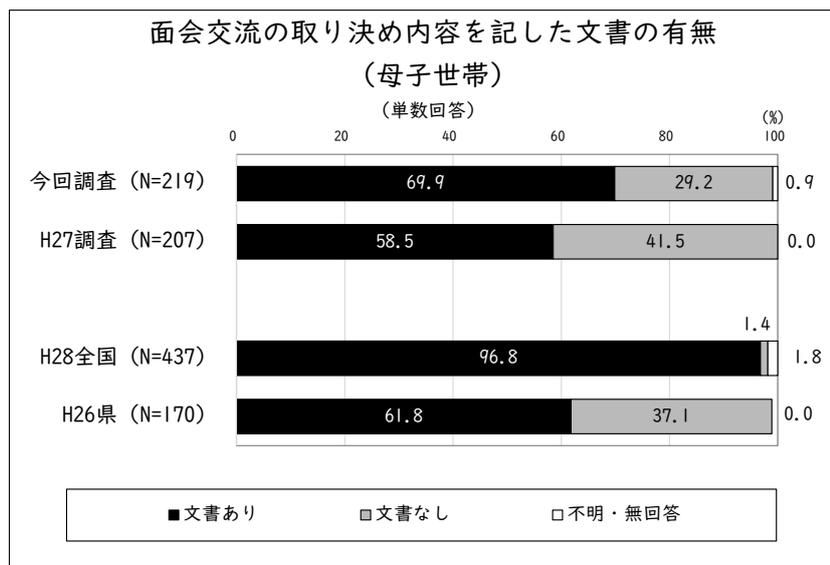
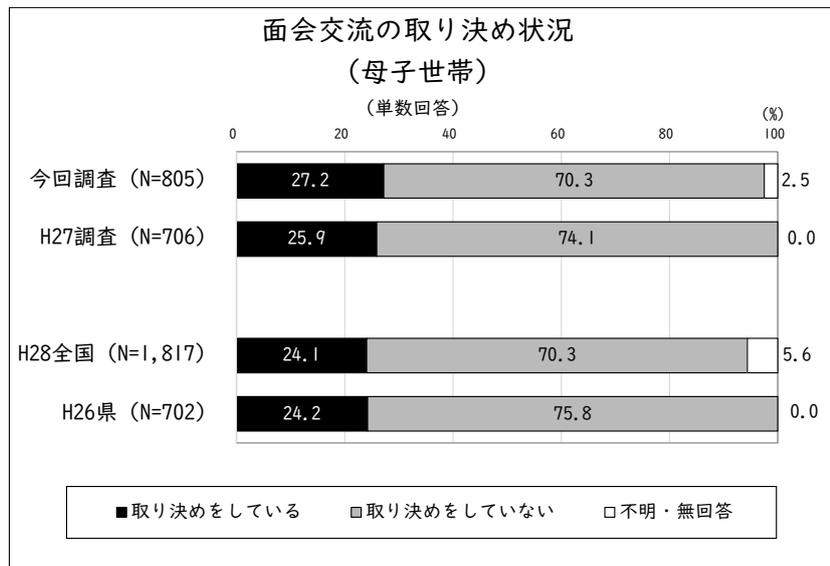
<協議離婚、調停離婚、審判離婚、裁判離婚によりひとり親世帯になった人のみ回答>

① 面会交流の取り決め状況と取り決めに記した文書の有無

(母子世帯)

「取り決めをしている」が27.2%、「取り決めをしていない」が70.3%となっています。

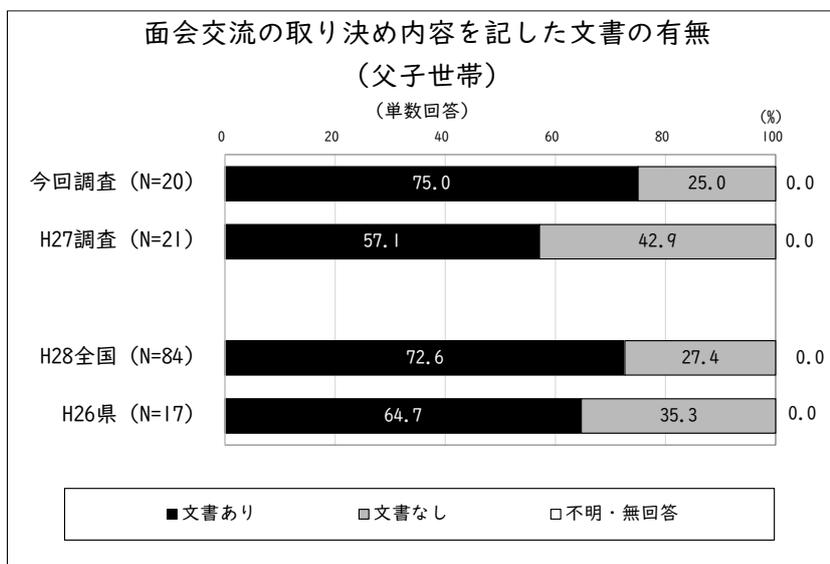
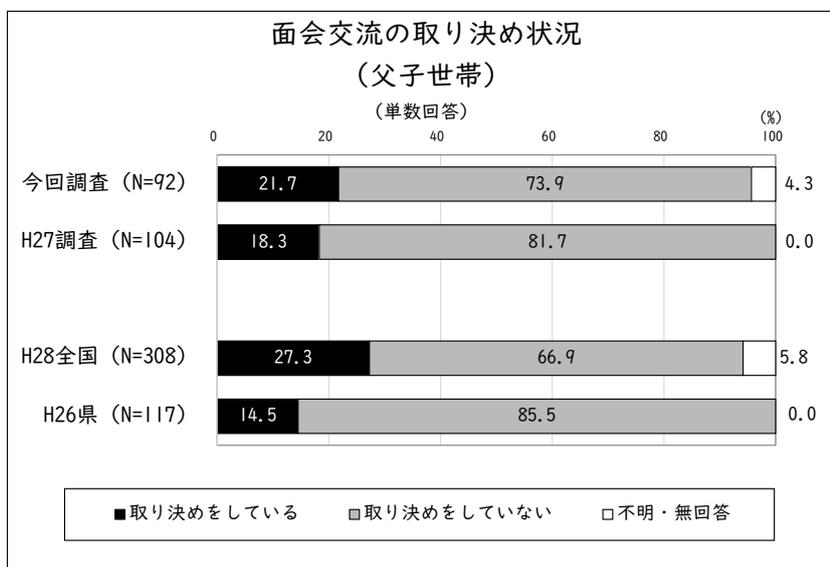
「取り決めをしている」と回答した人のうち、「文書あり」が69.9%、「文書なし」が29.2%となっています。



(父子世帯)

「取り決めている」が21.7%、「取り決めている」が73.9%となっています。

「取り決めている」と回答した人のうち、「文書あり」が75.0%、「文書なし」が25.0%となっています。

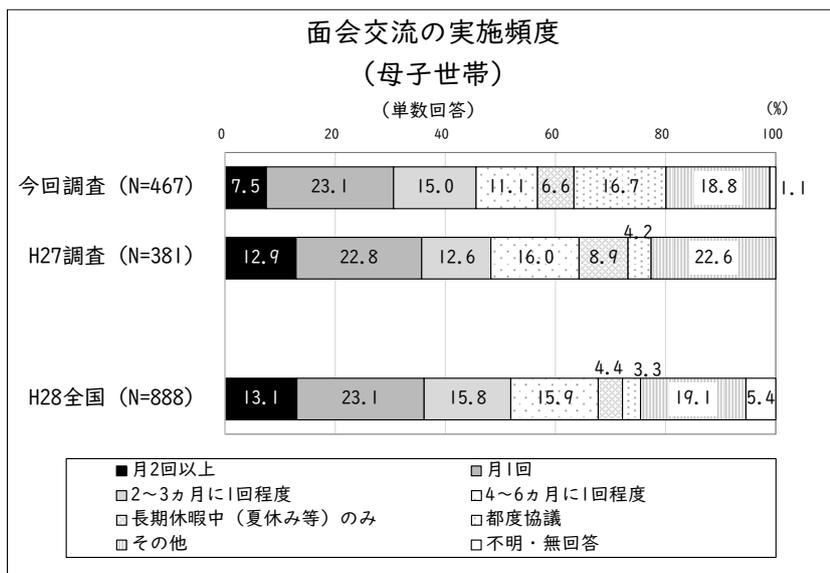
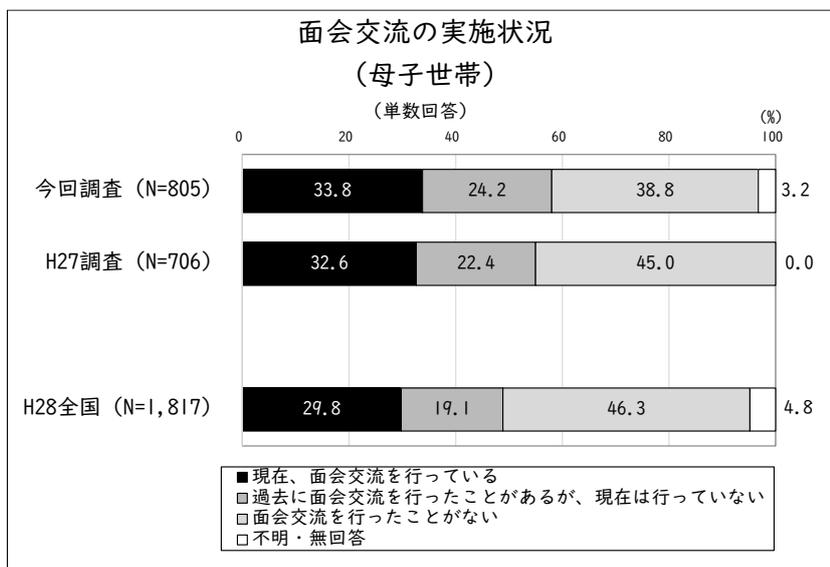


② 面会交流の実施状況と面会交流の頻度

(母子世帯)

「面会交流を行ったことがない」が最も多く 38.8%、次いで「現在、面会交流を行っている」が 33.8%、「過去に面会交流を行ったことがあるが、現在は行っていない」が 24.2%となっています。

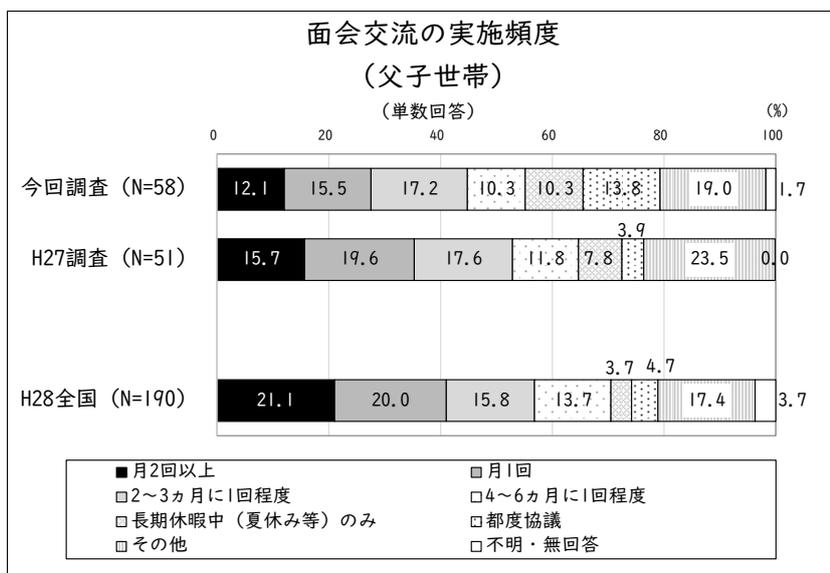
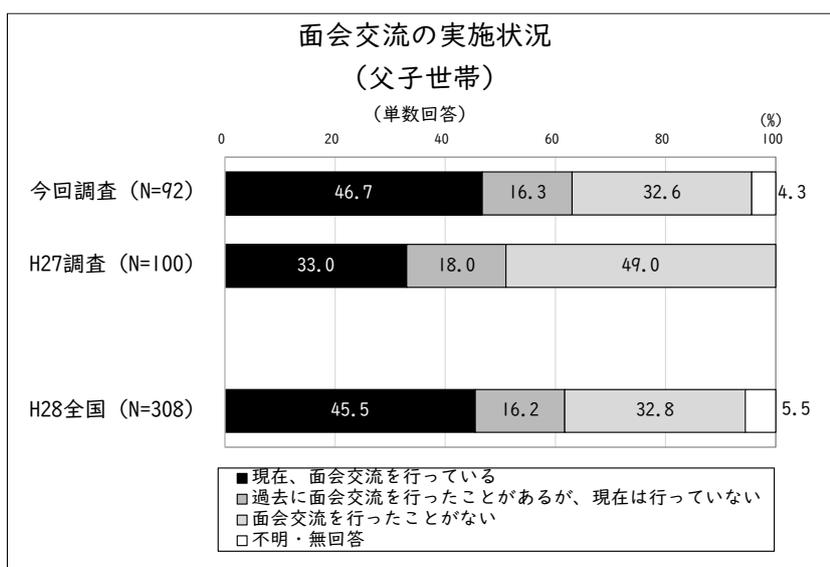
「現在、面会交流を行っている」「過去に面会交流を行ったことがあるが、現在は行っていない」と回答した人の実施頻度についてみると、「月 1 回」が最も多く 23.1%、次いで「都度協議」が 16.7%、「2～3 カ月に 1 回程度」が 15.0%などとなっています。



(父子世帯)

「現在、面会交流を行っている」が最も多く 46.7%、次いで「面会交流を行ったことがない」が 32.6%、「過去に面会交流を行ったことがあるが、現在は行っていない」が 16.3%となっています。

「現在、面会交流を行っている」「過去に面会交流を行ったことがあるが、現在は行っていない」と回答した人の実施頻度についてみると、「2～3カ月に1回程度」が最も多く 17.2%、次いで「月1回」が 15.5%、「都度協議」が 13.8%などとなっています。



(8) 子どもに関することについて

① 子どもからの悩み事や心配事などの相談の頻度とその内容

(母子世帯)

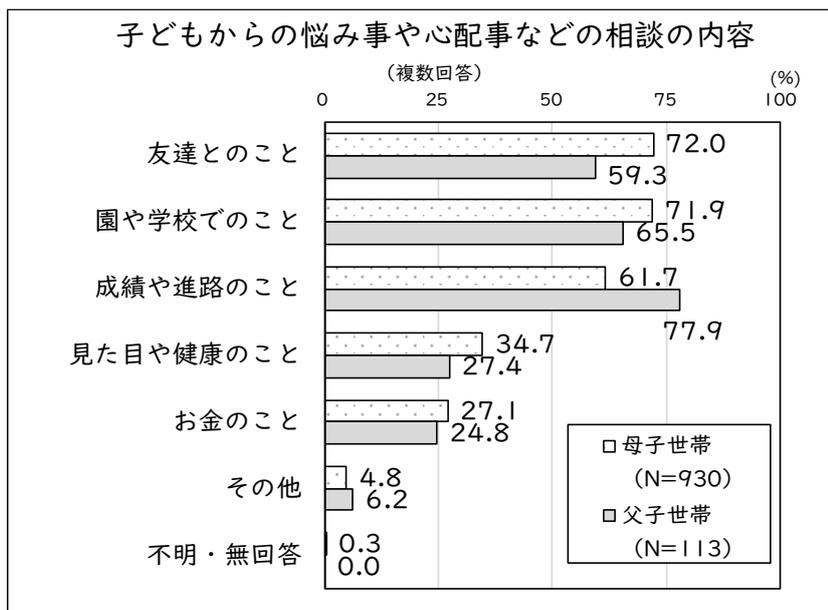
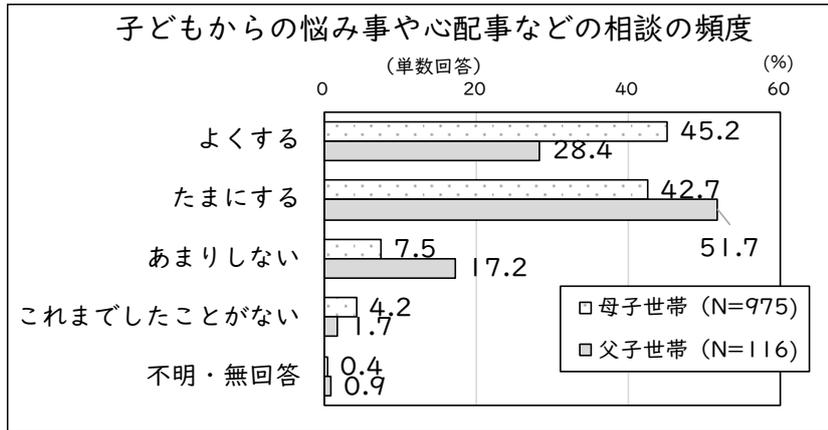
「よくする」が最も多く45.2%、次いで「たまにする」が42.7%、「あまりしない」が7.5%、「これまでしたことがない」が4.2%となっています。

子どもと話す内容についてみると、「友達とのこと」が最も多く72.0%、次いで「園や学校でのこと」が71.9%、「成績や進路のこと」が61.7%などとなっています。

(父子世帯)

「たまにする」が最も多く51.7%、次いで「よくする」が28.4%、「あまりしない」が17.2%、「これまでしたことがない」が1.7%となっています。

子どもと話す内容についてみると、「成績や進路のこと」が最も多く77.9%、次いで「園や学校でのこと」が65.5%、「友達とのこと」が59.3%などとなっています。

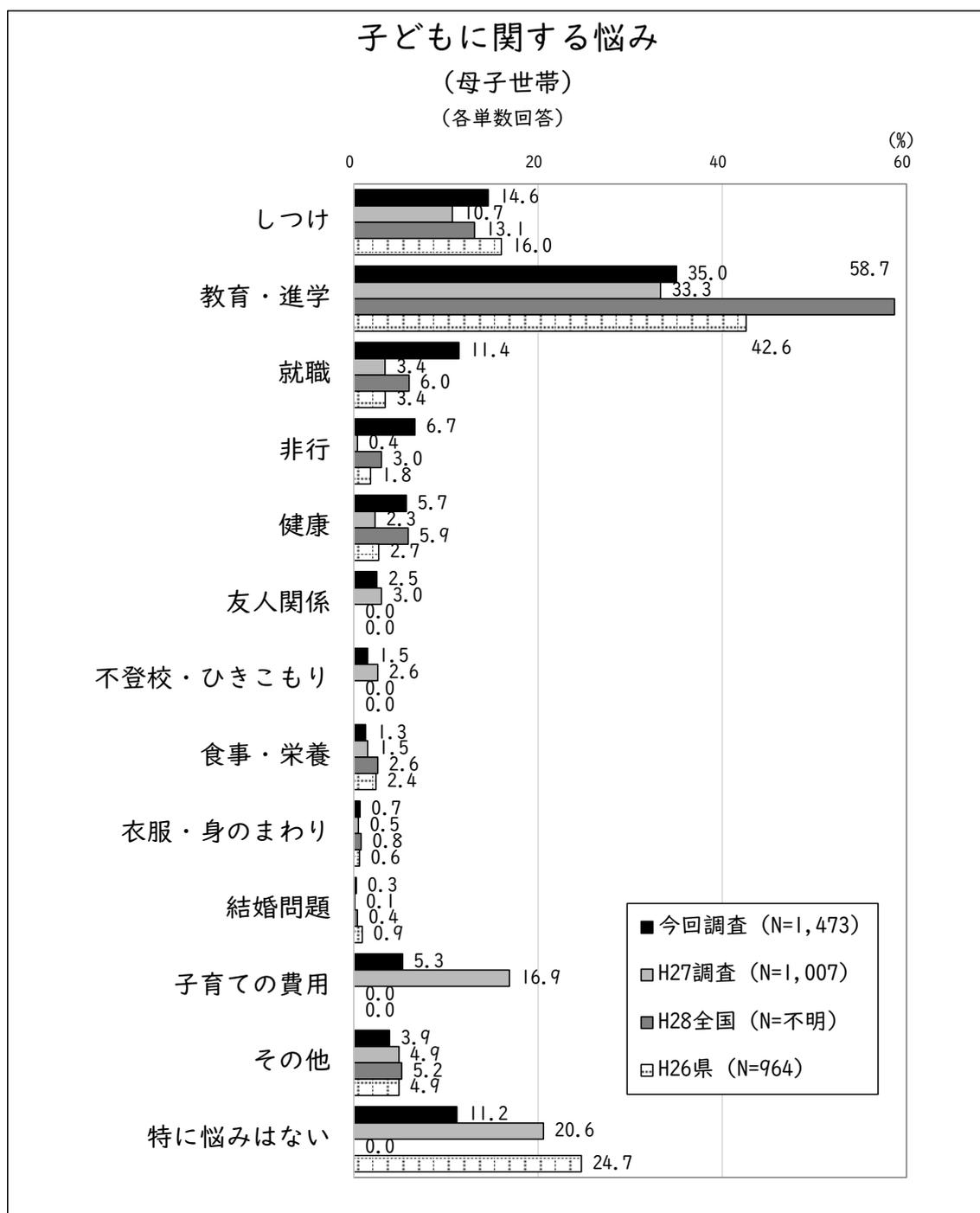


② 子どもに関する悩み

<子どもごとに回答>

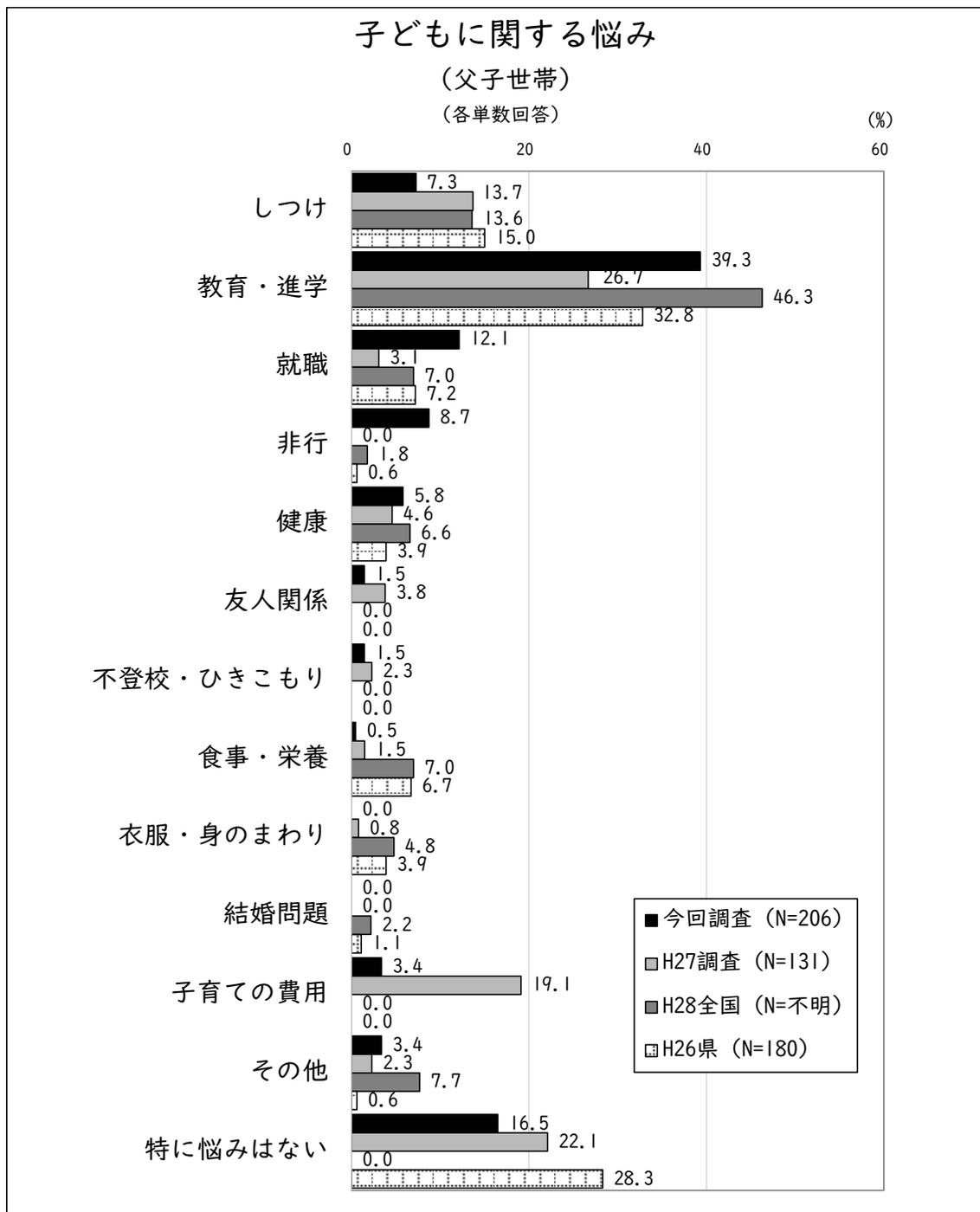
(母子世帯)

「教育・進学」が最も多く 35.0%、次いで「しつけ」が 14.6%、「就職」が 11.4%などとなっています。また、「特に悩みはない」が 11.2%となっています。



(父子世帯)

「教育・進学」が最も多く39.3%、次いで「就職」が12.1%、「非行」が8.7%などとなっています。また、「特に悩みはない」が16.5%となっています。



(子どもの年齢別)

「0～6 歳」では、「しつけ」が最も多く 29.6%、次いで「子育ての費用」が 12.3%、「教育・進学」が 10.7%などとなっています。

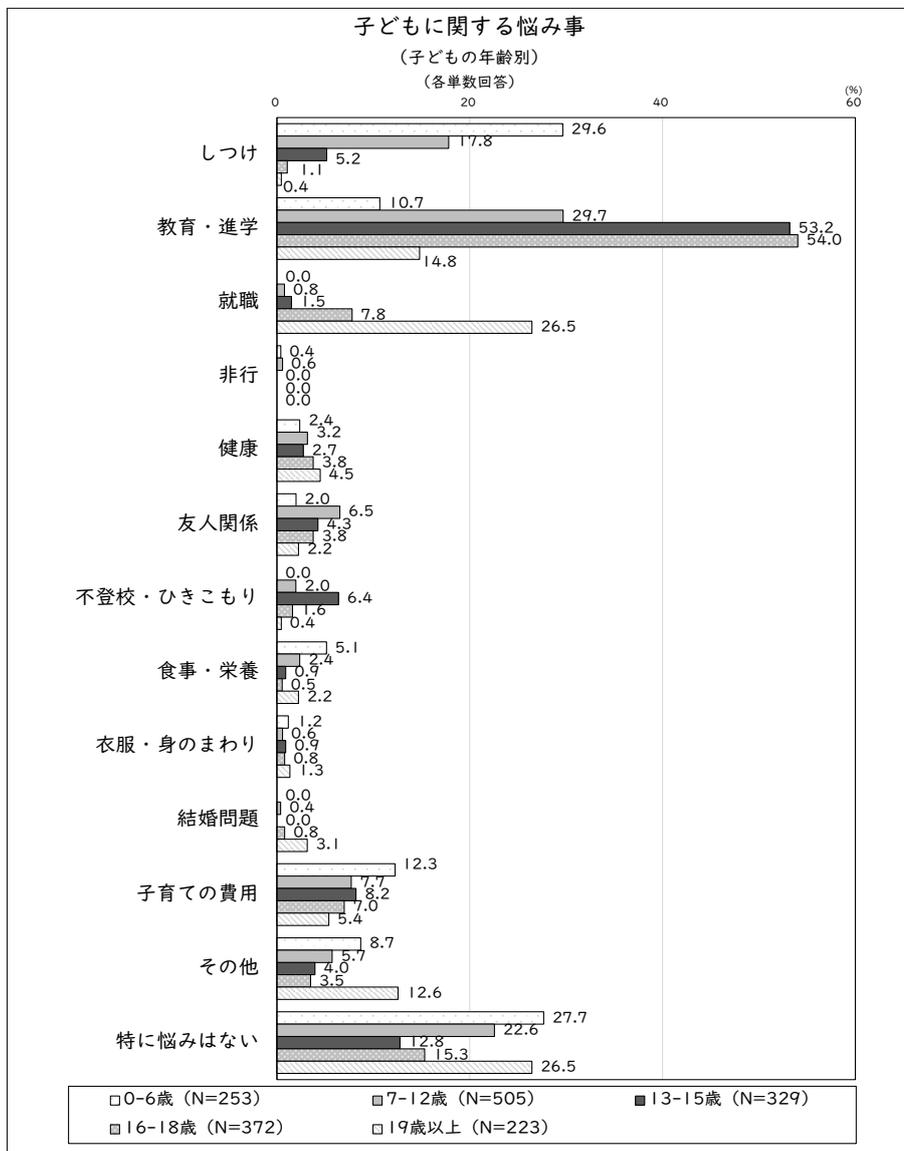
「7～12 歳」では、「教育・進学」が最も多く 29.7%、次いで「しつけ」が 17.8%、「子育ての費用」が 7.7%などとなっています。

「13～15 歳」では、「教育・進学」が最も多く 53.2%、次いで「子育ての費用」が 8.2%、「不登校・ひきこもり」が 6.4%などとなっています。

「16～18 歳」では、「教育・進学」が最も多く 54.0%、次いで「就職」が 7.8%、「子育ての費用」が 7.0%などとなっています。

「19 歳以上」では、「就職」が最も多く 26.5%、次いで「教育・進学」が 14.8%、「子育ての費用」が 5.4%などとなっています。

すべての年代において、「教育・進学」が上位 3 位までに入っています。



③ 年間を通じて定期的に利用している教育・保育事業

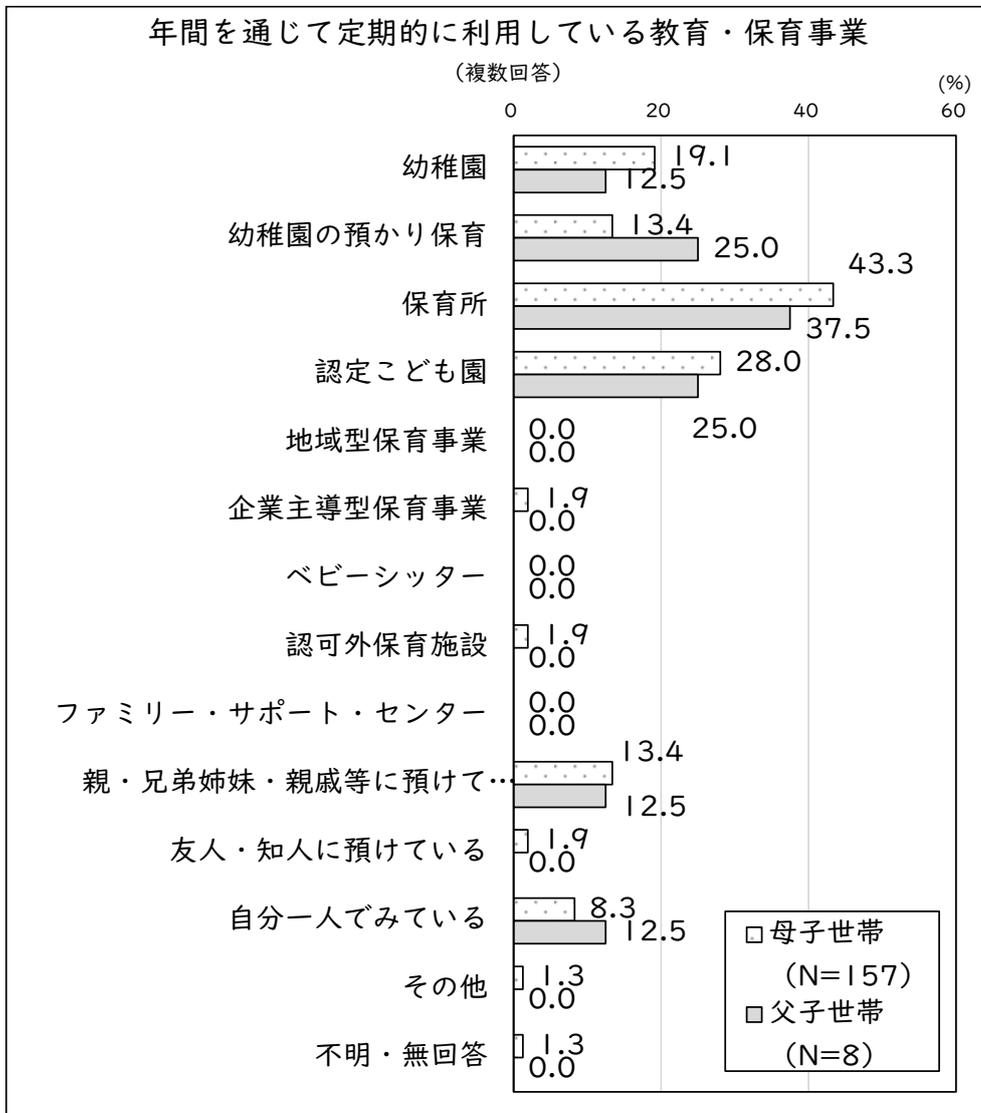
<小学校入学前の子どもがいる人のみ回答>

(母子世帯)

「保育所」が最も多く43.3%、次いで「認定こども園」が28.0%、「幼稚園」が19.1%などとなっています。

(父子世帯)

「保育所」が最も多く37.5%、次いで「幼稚園の預かり保育」「認定こども園」がそれぞれ25.0%、「幼稚園」「親・兄弟姉妹・親戚等に預けている」「自分一人でみている」がそれぞれ12.5%などとなっています。



④ 子どもが病気をしたときの世話

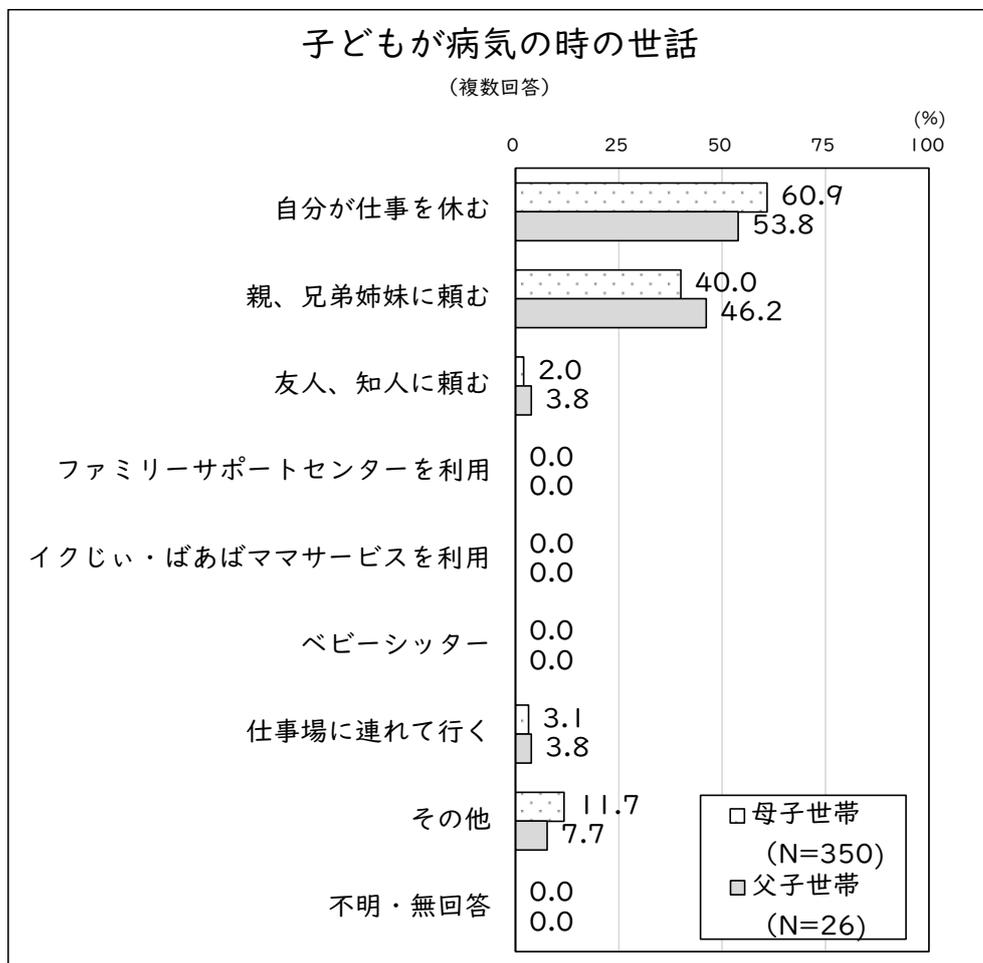
<小学校3年生以下の子どもがいる人のみ回答>

(母子世帯)

「自分が仕事を休む」が最も多く60.9%、次いで「親、兄弟姉妹に頼む」が40.0%、「仕事場に連れて行く」が3.1%などとなっています。

(父子世帯)

「自分が仕事を休む」が最も多く53.8%、次いで「親、兄弟姉妹に頼む」が46.2%、「友人、知人に頼む」「仕事場に連れて行く」がそれぞれ3.8%などとなっています。



⑤ 放課後や長期休暇中の子どもの過ごし方

<小学生の子どもがいる人のみ回答>

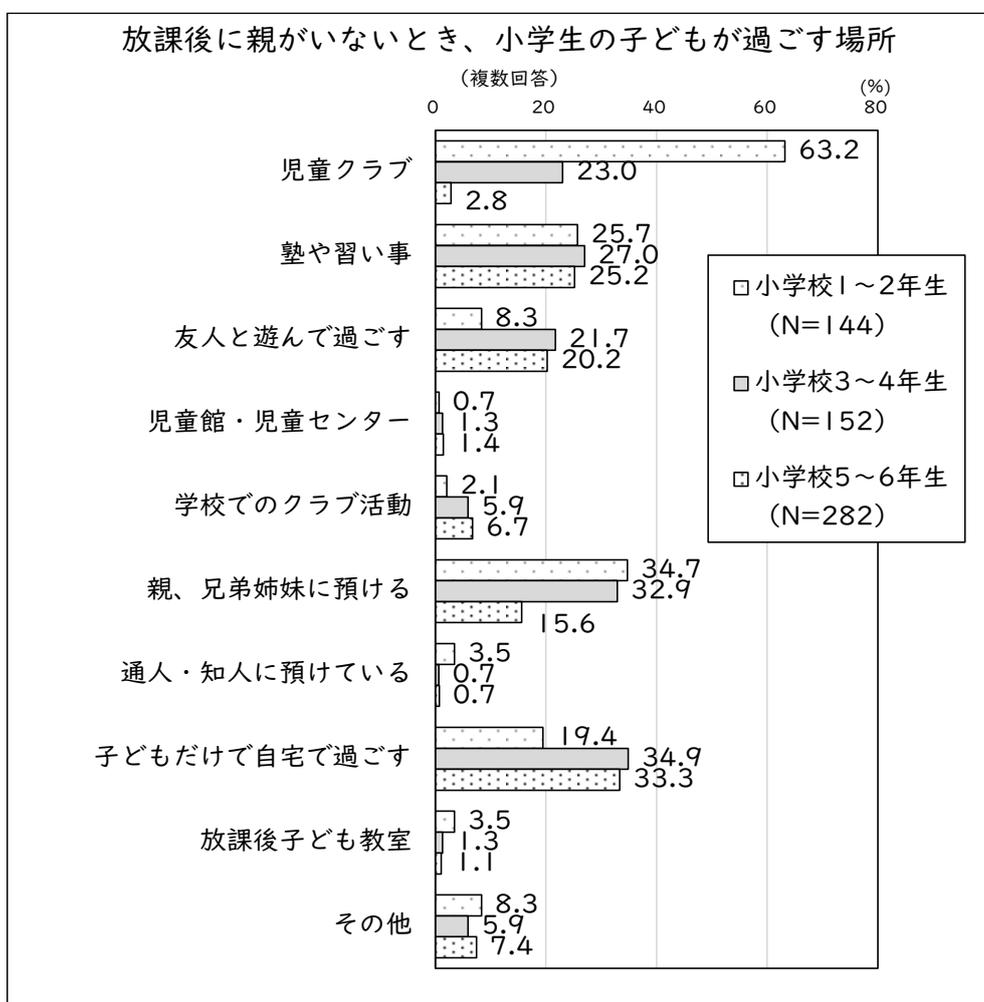
【放課後の過ごし方】

(学年別)

「小学校1～2年生」では、「児童クラブ」が最も多く 63.2%、次いで「親、兄弟姉妹に預ける」が 34.7%、「塾や習い事」が 25.7%などとなっています。

「小学校3～4年生」では、「子どもだけで自宅で過ごす」が最も多く 34.9%、次いで「親、兄弟姉妹に預ける」が 32.9%、「塾や習い事」が 27.0%などとなっています。

「小学校5～6年生」では、「子どもだけで自宅で過ごす」が最も多く 33.3%、次いで「塾や習い事」が 25.2%、「友人と遊んで過ごす」が 20.2%などとなっています。



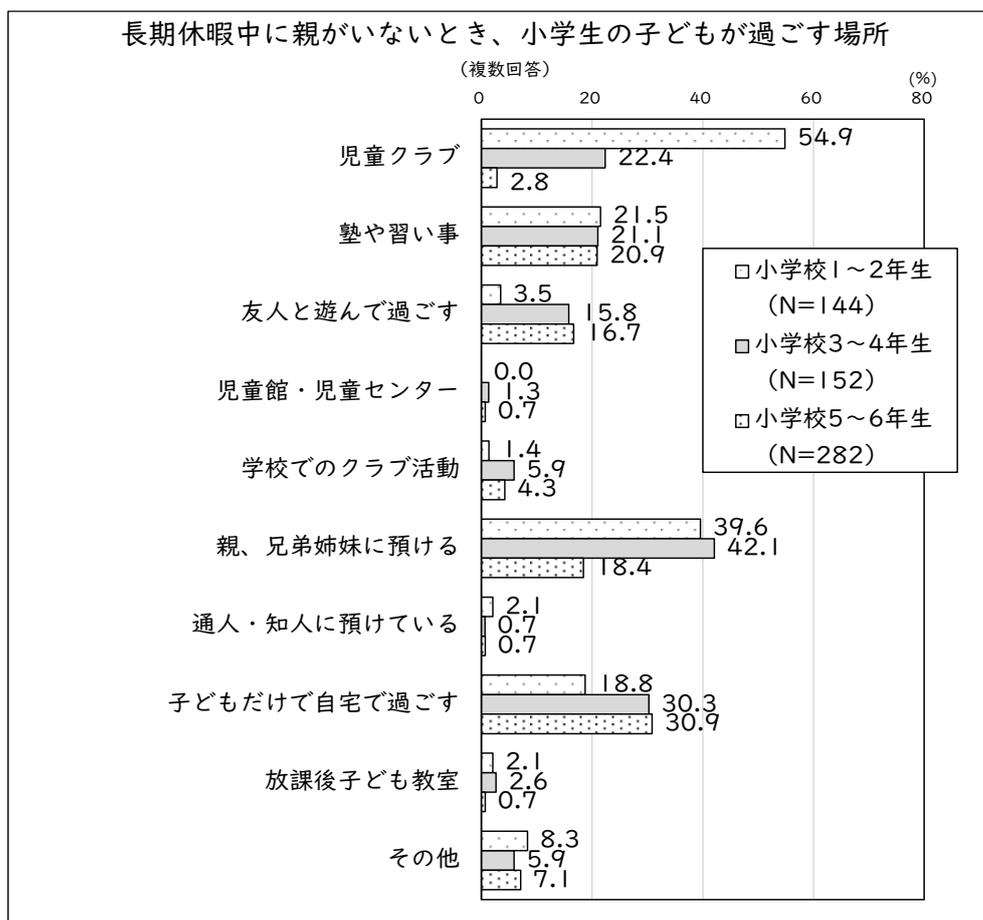
【長期休暇中の過ごし方】

(学年別)

「小学校1～2年生」では、「児童クラブ」が最も多く 54.9%、次いで「親、兄弟姉妹に預ける」が 39.6%、「塾や習い事」が 21.5%などとなっています。

「小学校3～4年生」では、「親、兄弟姉妹に預ける」が最も多く 42.1%、次いで「子どもだけで自宅で過ごす」が 30.3%、「児童クラブ」が 22.4%などとなっています。

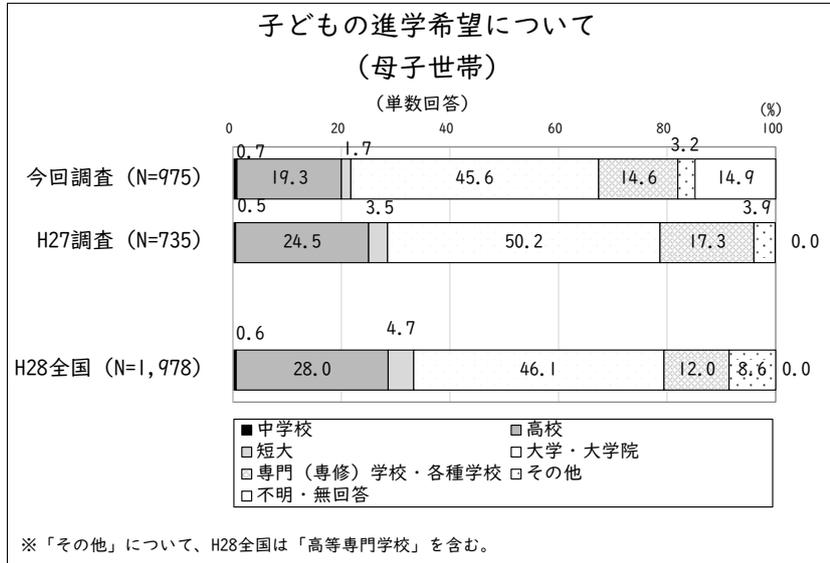
「小学校5～6年生」では、「子どもだけで自宅で過ごす」が最も多く 30.9%、次いで「塾や習い事」が 20.9%、「親、兄弟姉妹に預ける」が 18.4%などとなっています。



⑥ 子どもの進学希望について

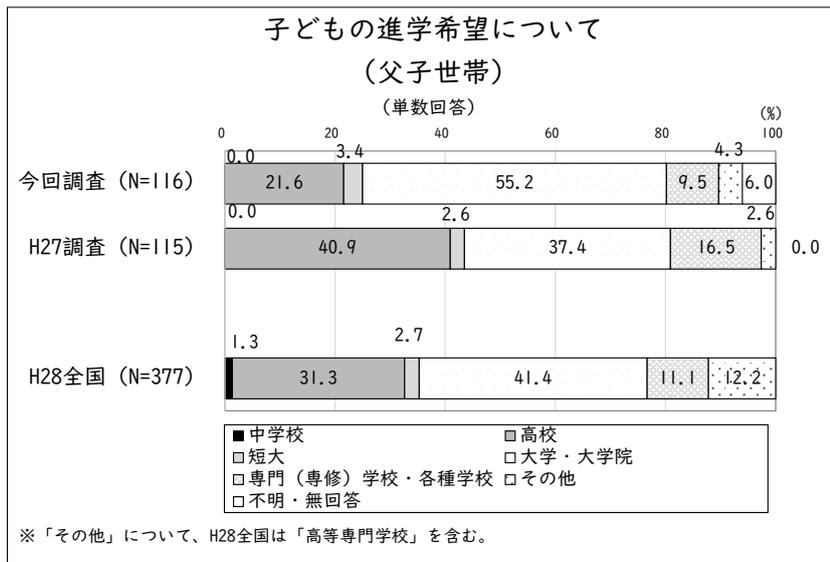
(母子世帯)

「大学・大学院」が最も多く 45.6%、次いで「高校」が 19.3%、「専門(専修)学校・各種学校」が 14.6%などとなっています。



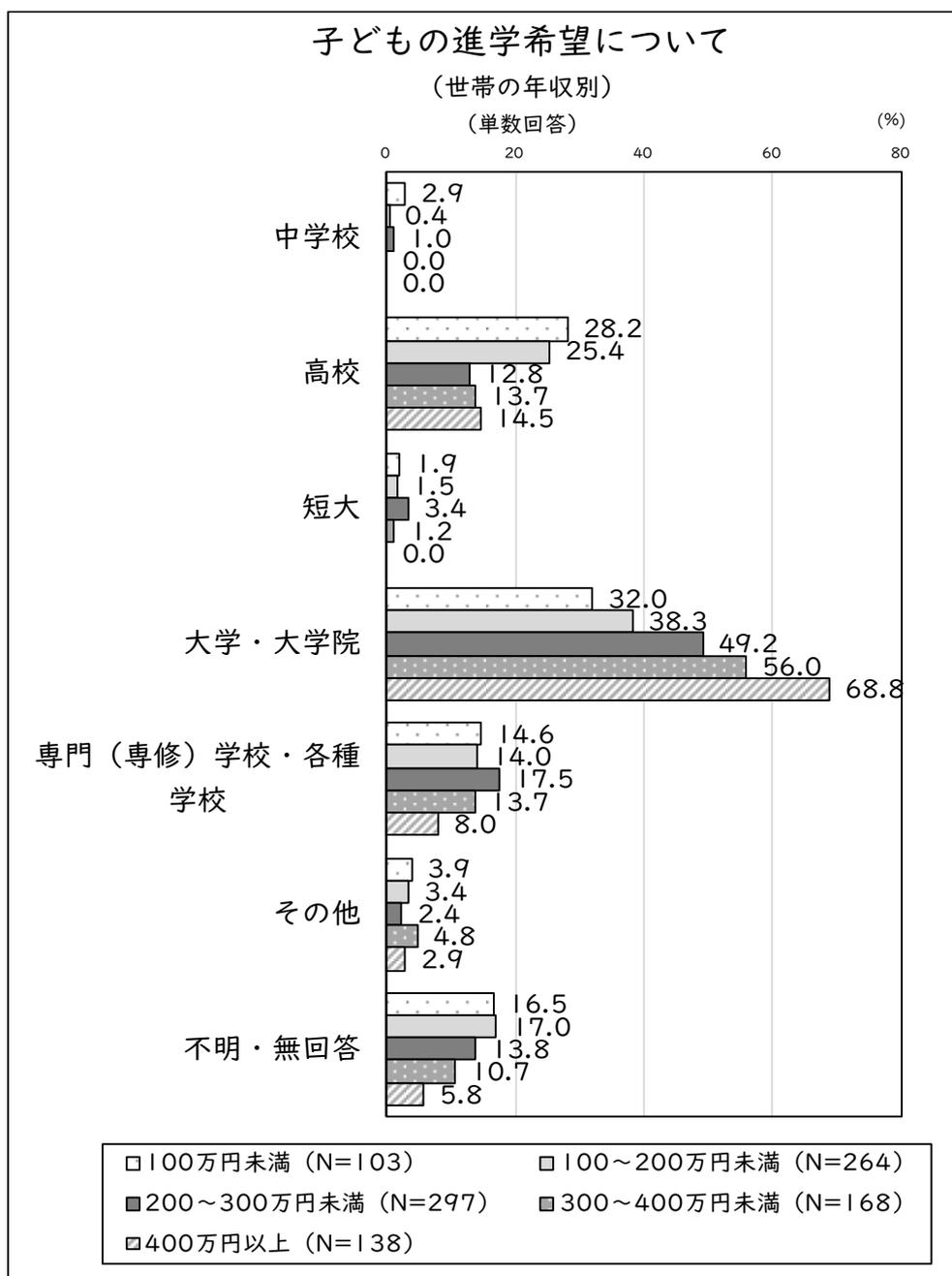
(父子世帯)

「大学・大学院」が最も多く 55.2%、次いで「高校」が 21.6%、「専門(専修)学校・各種学校」が 9.5%などとなっています。



(世帯年収別)

世帯の年間総収入別にみると、収入にかかわらず「大学・大学院」が最も多くなっています。また、「100万円未満」「100～200万円未満」では、他よりも「高校」が多く、「大学・大学院」が少なくなっています。



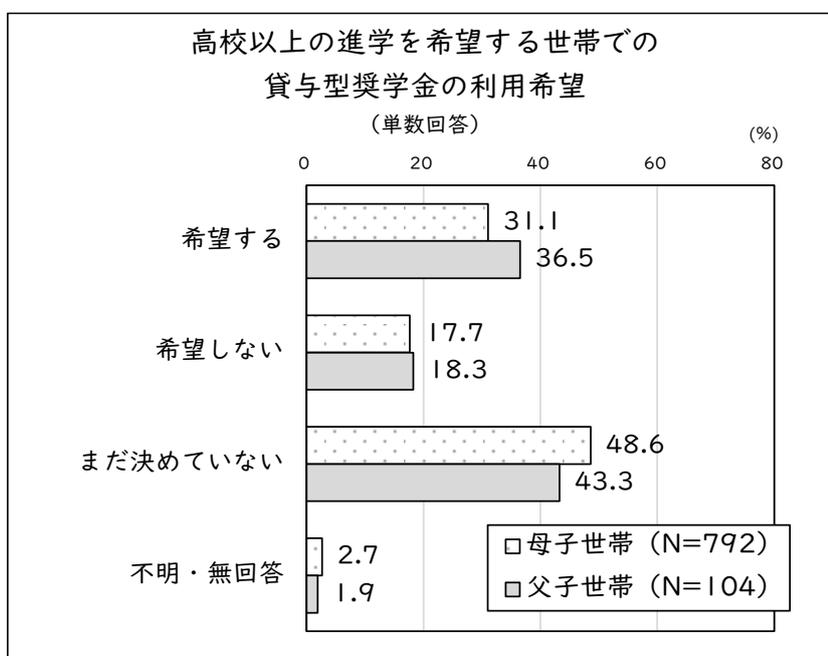
⑦ 高校以上の進学を希望する世帯での貸与型奨学金の利用希望

(母子世帯)

子どもの進学を「高校」「短大」「大学・大学院」「専門(専修)学校・各種学校」までと考えていると回答した人の貸与型奨学金の利用希望は、「まだ決めていない」が最も多く 48.6%、次いで「希望する」が 31.1%、「希望しない」が 17.7%となっています。

(父子世帯)

子どもの進学を「高校」「短大」「大学・大学院」「専門(専修)学校・各種学校」までと考えていると回答した人の貸与型奨学金の利用希望は、「まだ決めていない」が最も多く 43.3%、次いで「希望する」が 36.5%、「希望しない」が 18.3%となっています。



⑧ 小学生から高校生の子どもがいる世帯での民間の学習施設等の利用状況と利用しない理由

(母子世帯)

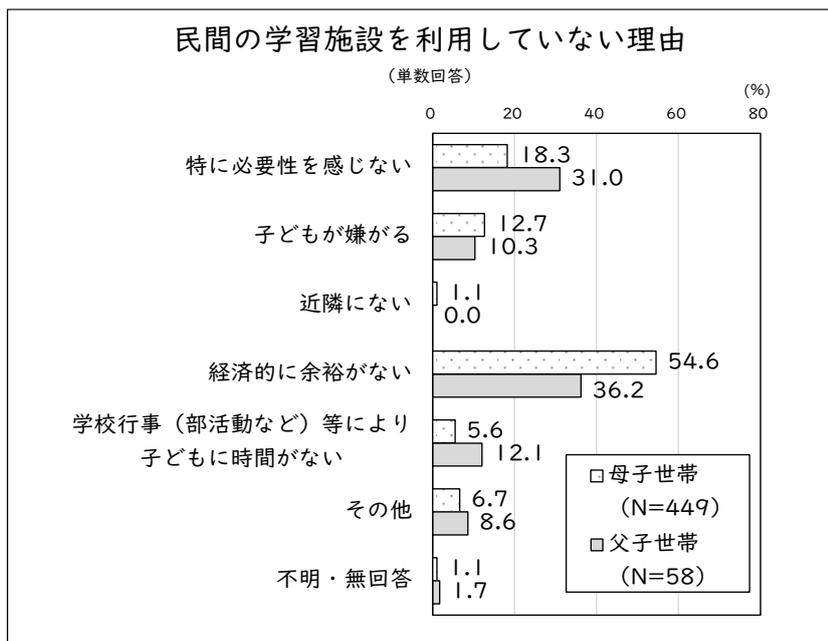
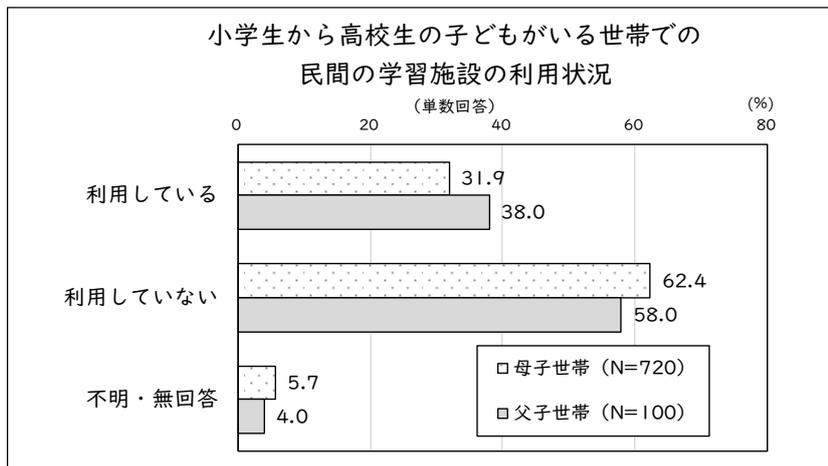
「利用している」が31.9%、「利用していない」が62.4%となっています。

「利用していない」と回答した人のその理由についてみると、「経済的に余裕がない」が最も多く54.6%、次いで「特に必要性を感じない」が18.3%、「子どもが嫌がる」が12.7%などとなっています。

(父子世帯)

「利用している」が38.0%、「利用していない」が58.0%となっています。

「利用していない」と回答した人のその理由についてみると、「経済的に余裕がない」が最も多く36.2%、次いで「特に必要性を感じない」が31.0%、「学校行事(部活動など)等により子どもに時間がない」が12.1%などとなっています。



⑨ 市が実施している学習支援の利用意向

【小学生対象】

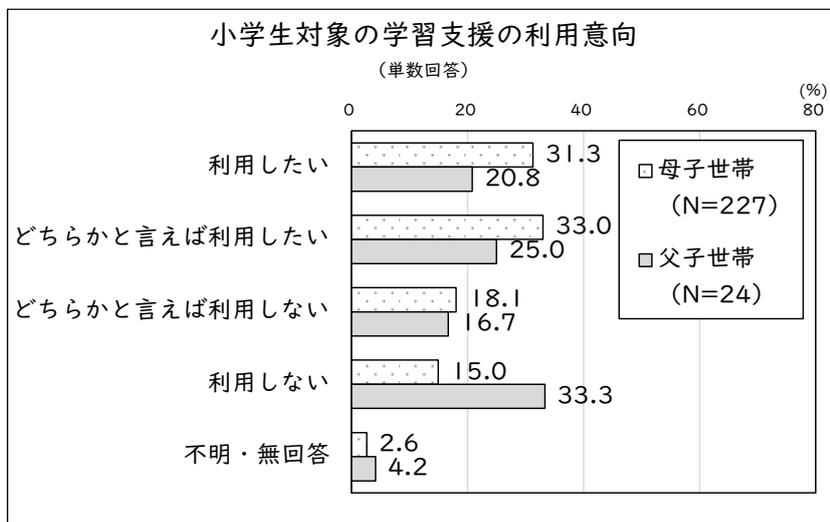
<民間の学習施設を利用していない小学生の子どもがいる人のみ回答>

(母子世帯)

「どちらかと言えば利用したい」が最も多く 33.0%、次いで「利用したい」が 31.3%、「どちらかと言えば利用しない」が 18.1%、「利用しない」が 15.0%となっています。

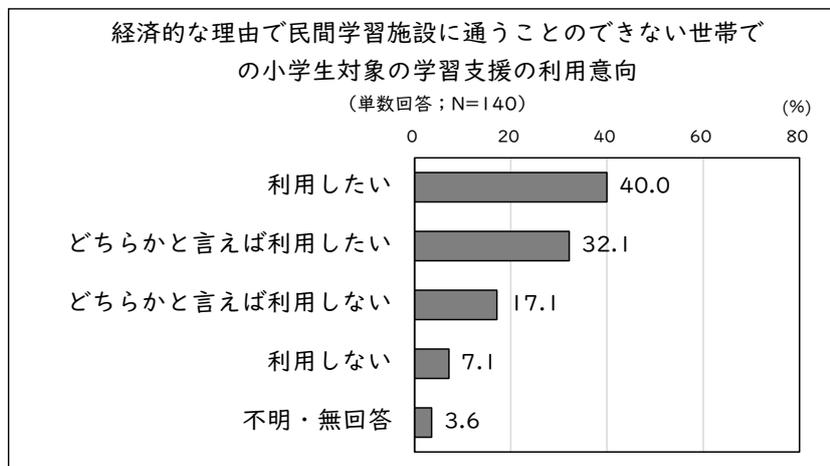
(父子世帯)

「利用しない」が最も多く 33.3%、次いで「どちらかと言えば利用したい」が 25.0%、「利用したい」が 20.8%、「どちらかと言えば利用しない」が 16.7%となっています。



(経済的な理由で民間の学習施設に通うことのできない世帯)

「利用したい」が最も多く 40.0%、次いで「どちらかと言えば利用したい」が 32.1%、「どちらかと言えば利用しない」が 17.1%、「利用しない」が 7.1%となっています。



【中学生対象】

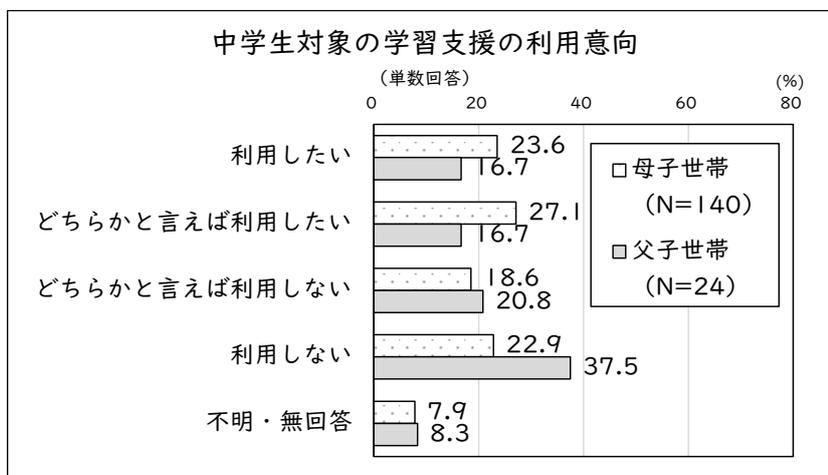
<民間の学習施設を利用していない中学生の子どもがいる人のみ回答>

(母子世帯)

「どちらかと言えば利用したい」が最も多く 27.1%、次いで「利用したい」が 23.6%、「利用しない」が 22.9%、「どちらかと言えば利用しない」が 18.6%となっています。

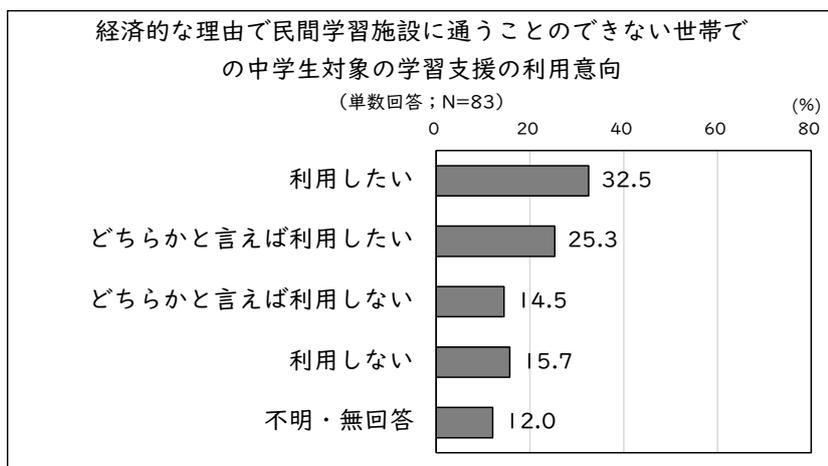
(父子世帯)

「利用しない」が最も多く 37.5%、次いで「どちらかと言えば利用しない」が 20.8%、「利用したい」「どちらかと言えば利用したい」が 16.7%となっています。



(経済的な理由で民間の学習施設に通うことのできない世帯)

「利用したい」が最も多く 32.5%、次いで「どちらかと言えば利用したい」が 25.3%、「利用しない」が 15.7%、「どちらかと言えば利用しない」が 14.5%となっています。



【高校生対象】

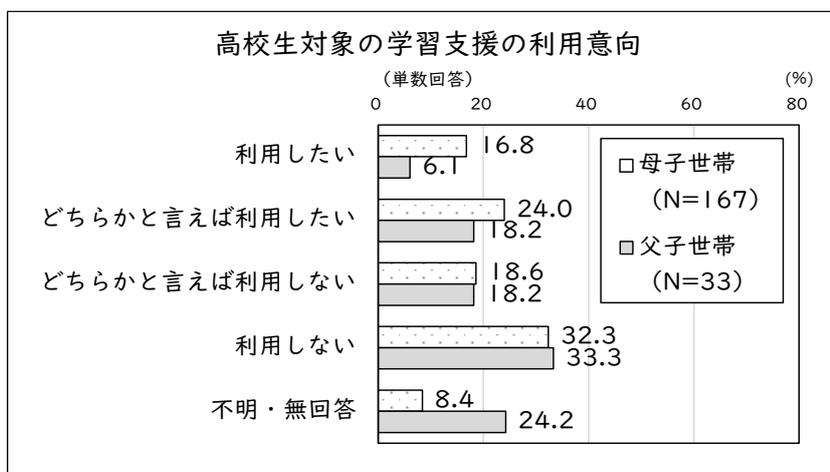
<民間の学習施設を利用していない高校生の子どもがいる人のみ回答>

(母子世帯)

「利用しない」が最も多く 32.3%、次いで「どちらかと言えば利用したい」が 24.0%、「どちらかと言えば利用しない」が 18.6%、「利用したい」が 16.8%となっています。

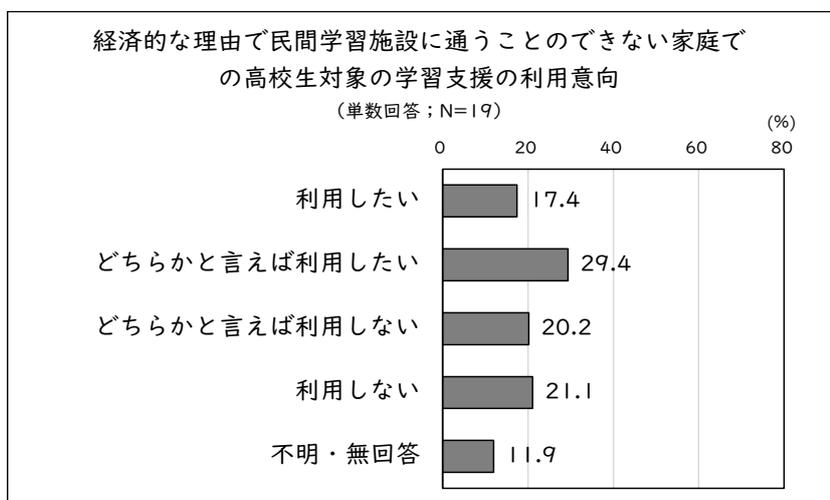
(父子世帯)

「利用しない」が最も多く 33.3%、次いで「どちらかと言えば利用したい」「どちらかと言えば利用しない」が 18.2%、「利用したい」が 6.1%となっています。



(経済的な理由で民間の学習施設に通うことのできない世帯)

「どちらかと言えば利用したい」が最も多く 29.4%、次いで「利用しない」が 21.1%、「どちらかと言えば利用しない」が 20.2%、「利用したい」が 17.4%となっています。



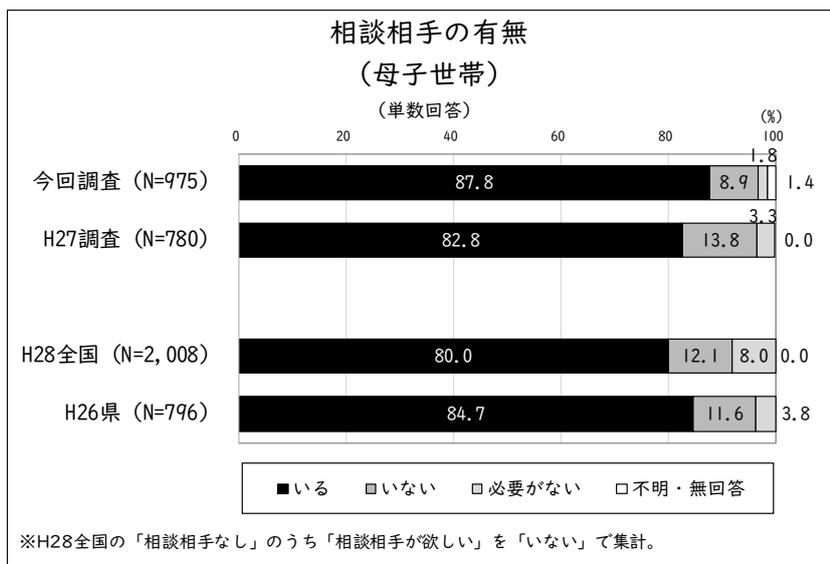
(9) 相談相手や困りごとについて

① 相談相手の有無と相談相手

【相談相手の有無】

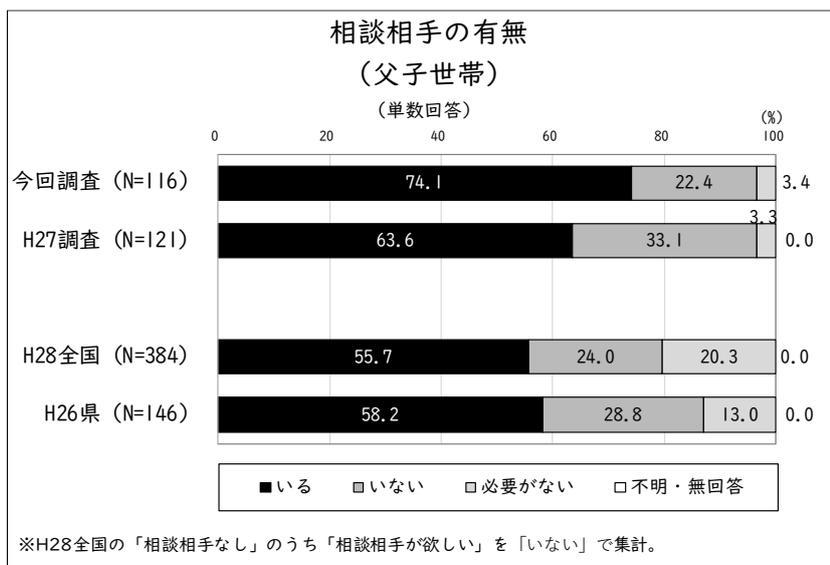
(母子世帯)

「いる」が87.8%、「いない」が8.9%、「必要がない」が1.8%となっています。



(父子世帯)

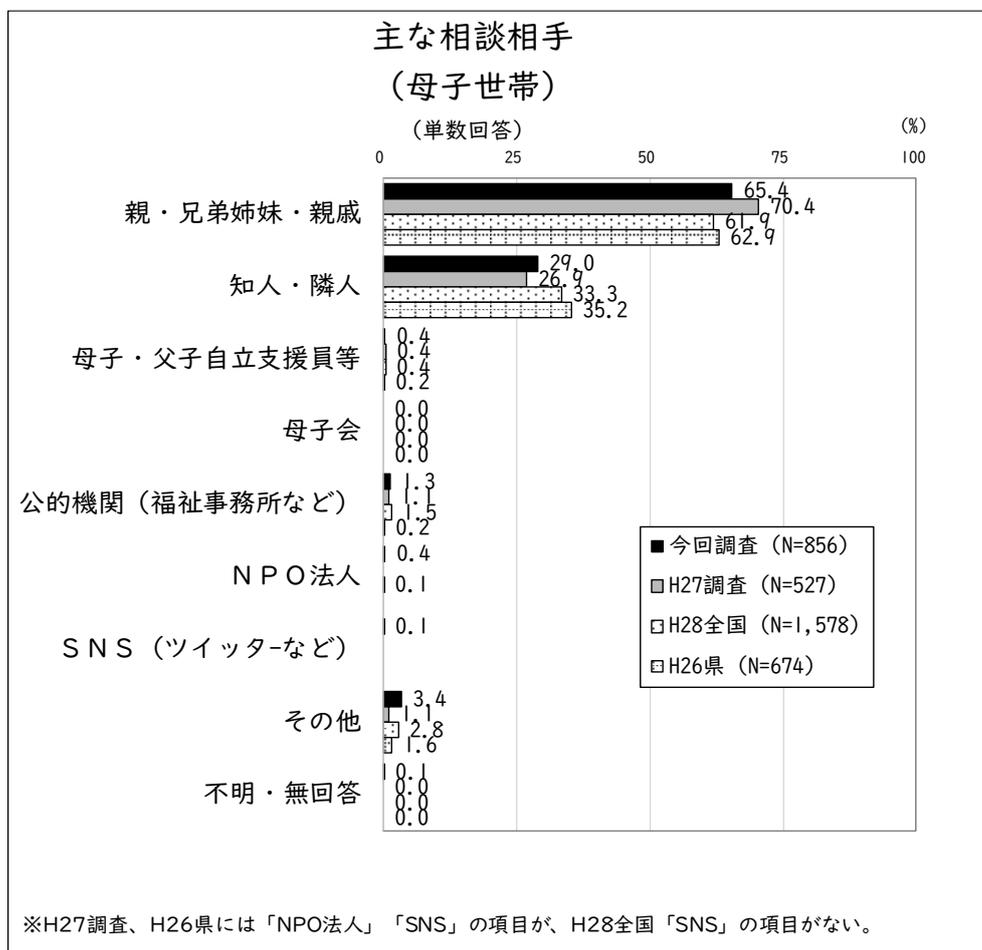
「いる」が74.1%、「いない」が22.4%、「必要がない」が3.4%となっています。



【主な相談相手】

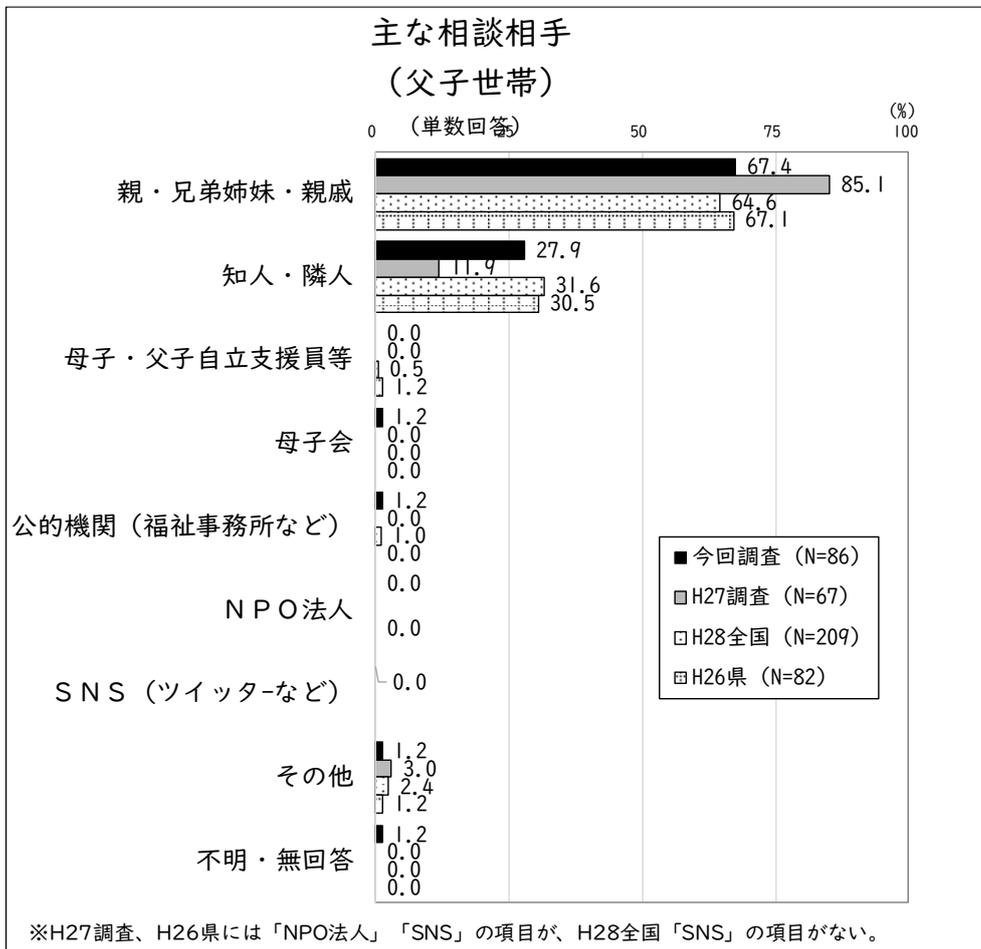
(母子世帯)

「親・兄弟姉妹・親戚」が最も多く 65.4%、次いで「知人・隣人」が 29.0%、「公的機関(福祉事務所など)」が 1.3%などとなっています。



(父子世帯)

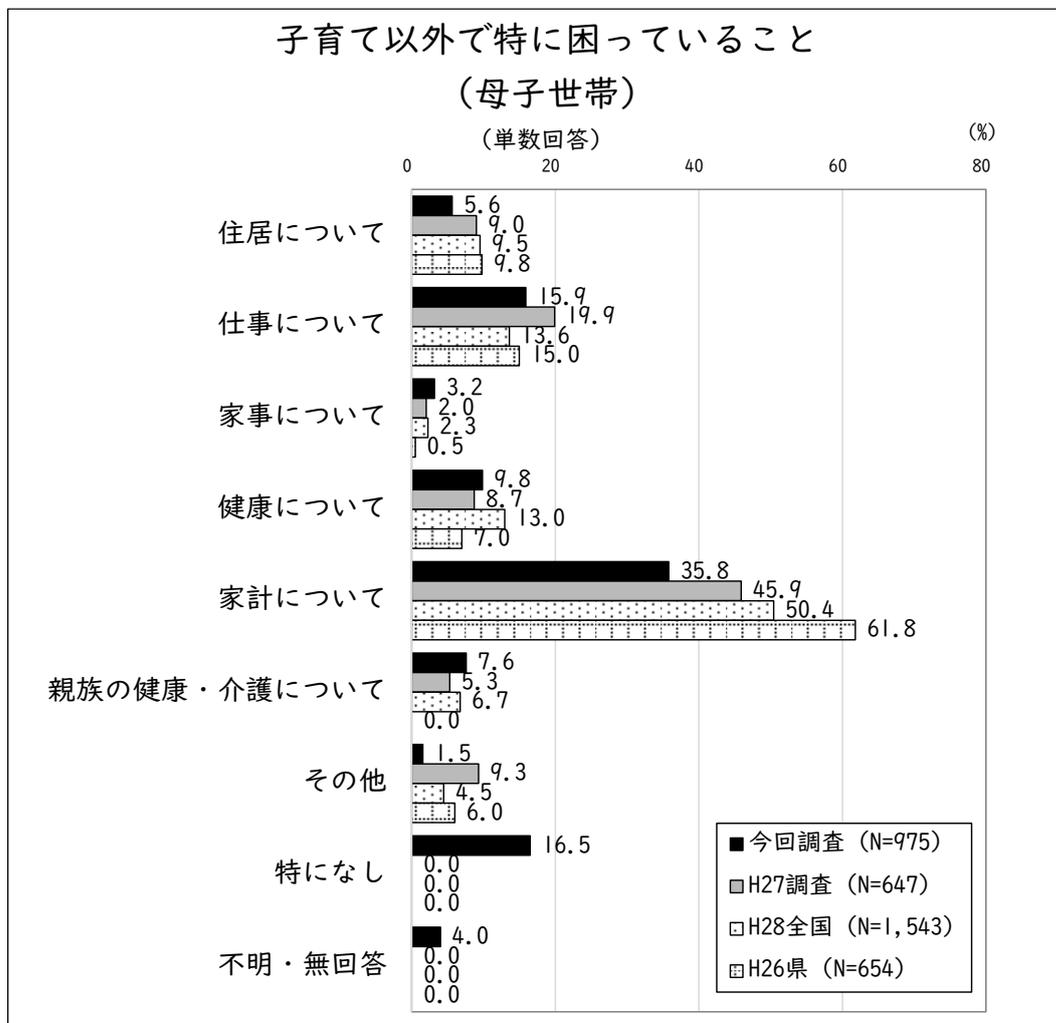
「親・兄弟姉妹・親戚」が最も多く 67.4%、次いで「知人・隣人」が 27.9%、「母子会」「公的機関 (福祉事務所など)」がそれぞれ 1.2%などとなっています。



② 子育て以外で特に困っていること

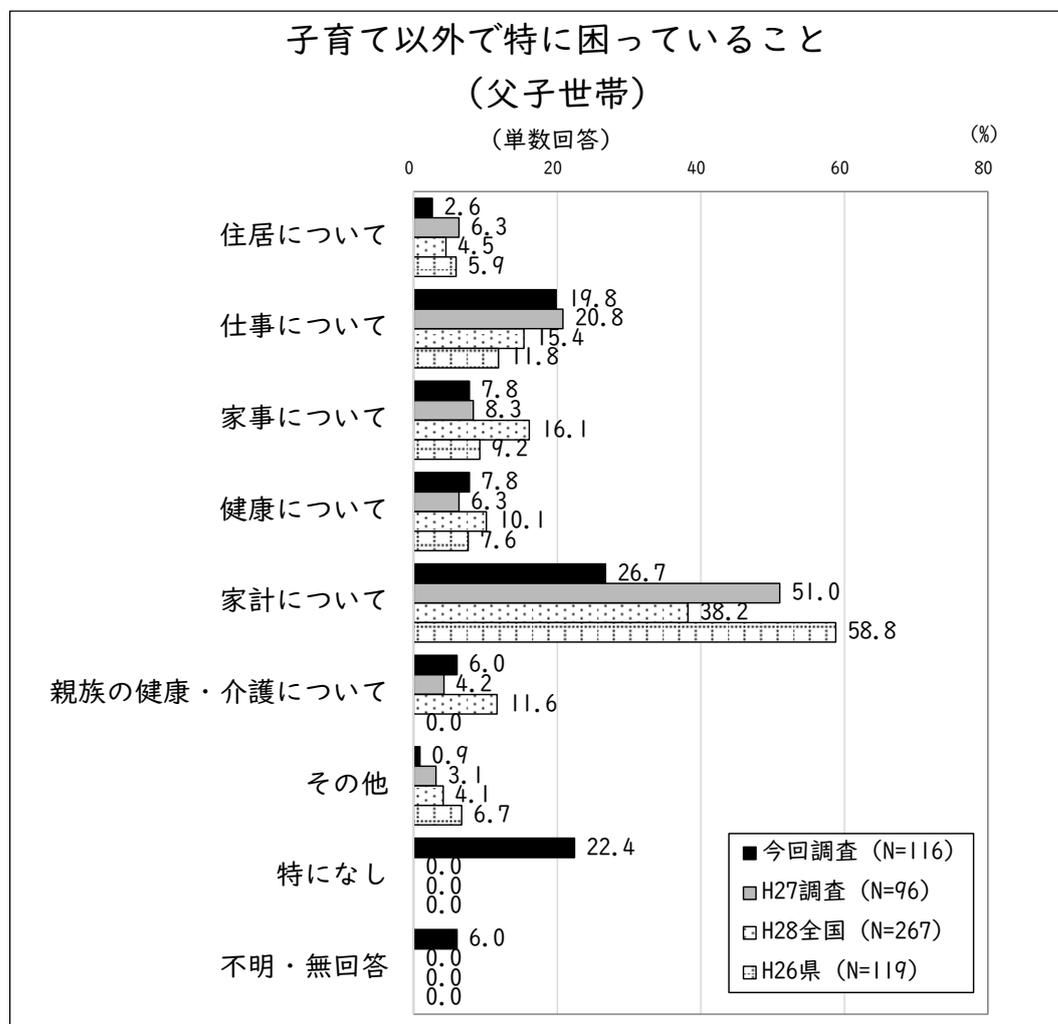
(母子世帯)

「家計について」が最も多く 35.8%、次いで、「仕事について」が 15.9%、「健康について」が 9.8%などとなっています。また、「特になし」が 16.5%となっています。



(父子世帯)

「家計について」が最も多く26.7%、次いで「仕事について」が19.8%、「家事について」「健康について」がそれぞれ7.8%などとなっています。また、「特になし」が22.4%となっています。



(10)福祉関係の公的制度等について

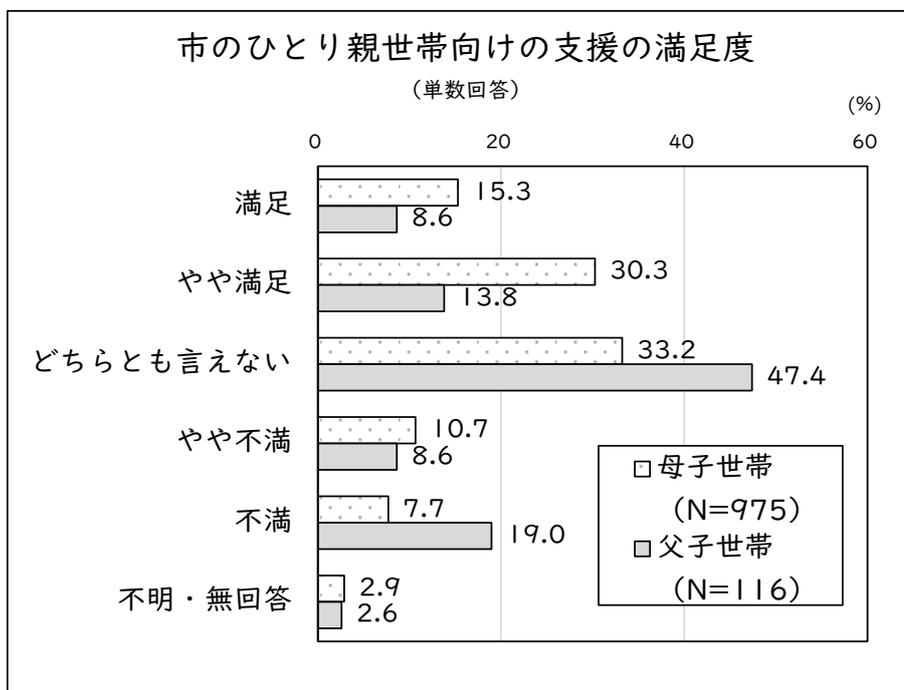
① 市のひとり親世帯向けの支援の満足度とその理由

(母子世帯)

「どちらとも言えない」が最も多く 33.2%、次いで「やや満足」が 30.3%、「満足」が 15.3%などとなっています。

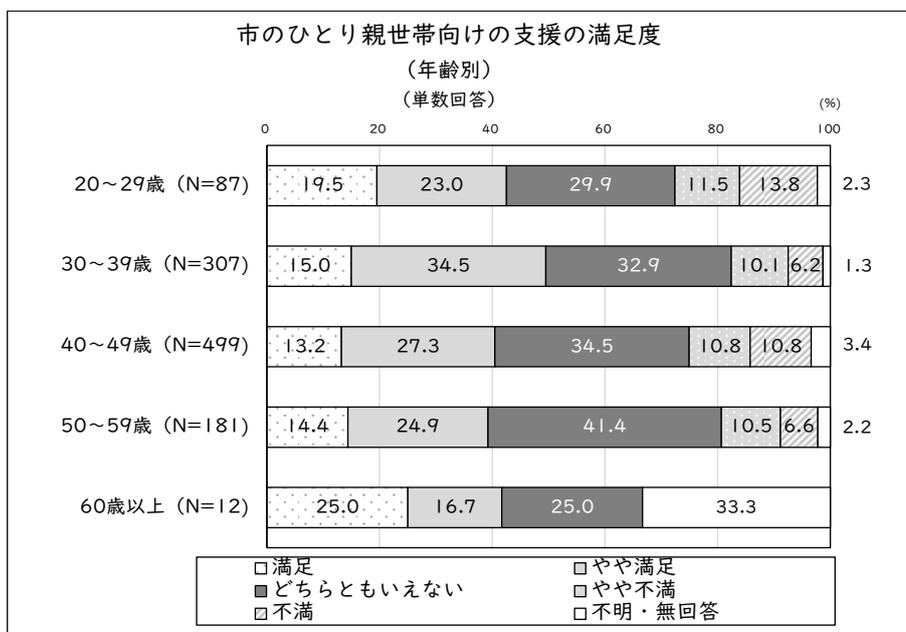
(父子世帯)

「どちらとも言えない」が最も多く 47.4%、次いで「不満」が 19.0%、「やや満足」が 13.8%などとなっています。



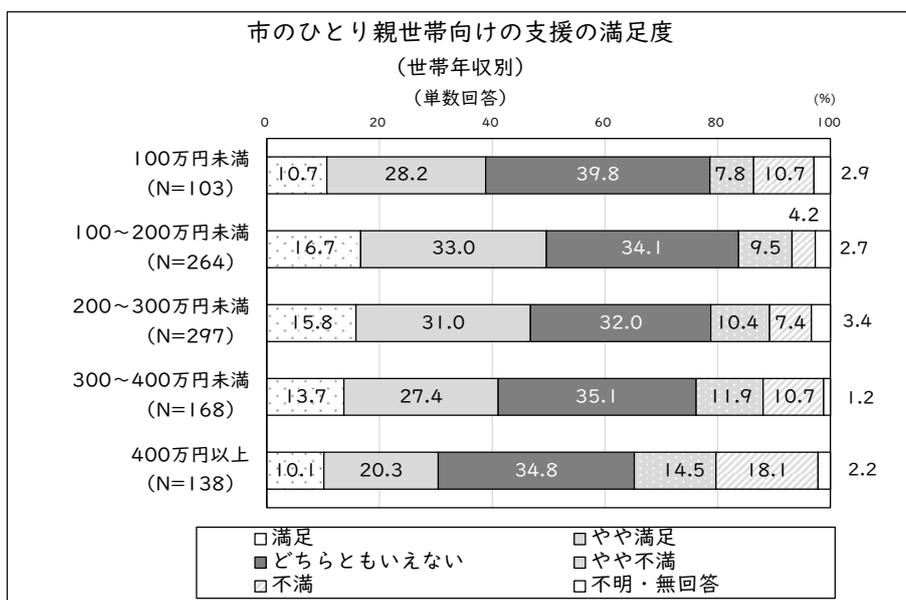
(年齢別)

保護者の年齢別にみると、すべての年代で『満足』(「満足」「やや満足」の合計)が『不満』(「やや不満」「不満」の合計)よりも多くなっています。また、「30～39歳」では『満足』が他の年齢と比べて多くなっています。



(世帯年収別)

世帯年収別にみると、400万円以上の世帯を除き、『満足』(「満足」「やや満足」の合計)が『不満』(「やや不満」「不満」の合計)よりも多くなっています。「100～200万未満」で『満足』が、「400万以上」で『不満』が他よりも多くなっています。



【その理由】

母子・父子世帯の別と支援の満足度の別を組み合わせた、以下の区分で整理しています。

区分		回答者数・延べ記述件数			
母子世帯	「満足」または「やや満足」	182人	271件	407人	543件
	「どちらともいえない」	70人	87件		
	「やや不満」または「不満」	155人	185件		
父子世帯	「満足」または「やや満足」	11人	11件	48人	56件
	「どちらともいえない」	12人	14件		
	「やや不満」または「不満」	25人	31件		

※ 満足度不明・無回答で理由の記述があったものについては、その内容を鑑みて「やや不満+不満」として扱っています。

(母子世帯) (407人・543件)

ア 「満足」または「やや満足」と回答した人の、満足度の理由(182人・271件)

■ 経済的支援

① 高校生以上の子どもを対象とした経済的支援が必要	16件
② 児童扶養手当等の支援金額が不十分	5件
③ 給付条件における同居家族の扱いに疑問	5件
④ 収入増による支援金の減額に不満	3件
⑤ その他	5件

■ 子育て・生活支援

① 行政の対応への感想	14件
② 住宅支援の必要性	8件
③ 手続きの改善を望む	8件
④ 情報の周知が不足	6件
⑤ 保育所・児童クラブなどの子育て支援の改善を望む	4件
⑥ その他	1件

■ その他(196件)

- ・ 児童扶養手当、医療費、コロナ特別支援金、ひとり親高等職業訓練給付金等、それぞれの経済的支援、もしくは「全体的に」何らかの形で満足／感謝しています。(177件)

イ「どちらともいえない」と回答した人の、満足度の理由(70人・87件)

■経済的支援

① 高校生以上の子どもを対象とした経済的支援が必要	10件
② 児童不要手当等の支援金額が不十分	7件
③ 収入増による支援金の減額に不満	6件
④ その他	6件

■子育て・生活支援

① 情報の周知が不足	8件
② 手続きの改善を望む	6件
③ 行政の対応への感想	6件
④ 住宅支援の必要性	4件
⑤ その他	6件

■その他(28件)

- ・ 児童扶養手当、医療費、コロナ特別支援金、ひとり親高等職業訓練給付金等、それぞれの経済的支援、もしくは「全体的に」何らかの形で満足／感謝しています。(9件)

ウ「やや不満」または「不満」と回答した人の、満足度の理由(155人・185件)

■経済的支援

① 高校生以上の子どもを対象とした経済的支援が必要	28件
② 給付条件における収入基準に疑問	22件
③ 収入増による支援金の減額に不満	21件
④ 児童不要手当等の支援金額が不十分	19件
⑤ 給付条件における同居家族の扱いに疑問	18件
⑥ その他	13件

■子育て・生活支援

① 行政の対応への感想	9件
② 保育所・児童クラブなどの子育て支援の改善を望む	7件
③ 住宅支援の必要性	4件
④ その他	9件

■その他(35件)

- ・ 児童扶養手当、医療費、コロナ特別支援金、ひとり親高等職業訓練給付金等、それぞれの経済的支援、もしくは「全体的に」何らかの形で満足／感謝しています。(13件)

(父子世帯) (48人・56件)

ア 「満足」または「やや満足」と回答した人の、満足度の理由(11人・11件)

① 満足している／助かっている	9件
② その他	2件

イ 「どちらともいえない」と回答した人の、満足度の理由(12人・14件)

① 情報の周知が不足	5件
② 母子世帯に比べて支援が少ない	4件
③ 自分は非該当	4件
④ その他	1件

ウ 「やや不満」または「不満」と回答した人の、満足度の理由不満(25人・31件)

① 母子世帯に比べて支援が少ない	9件
② 現行以外の支援が欲しい	5件
③ 自分は非該当	4件
④ 情報の周知が不足	4件
⑤ その他	9件

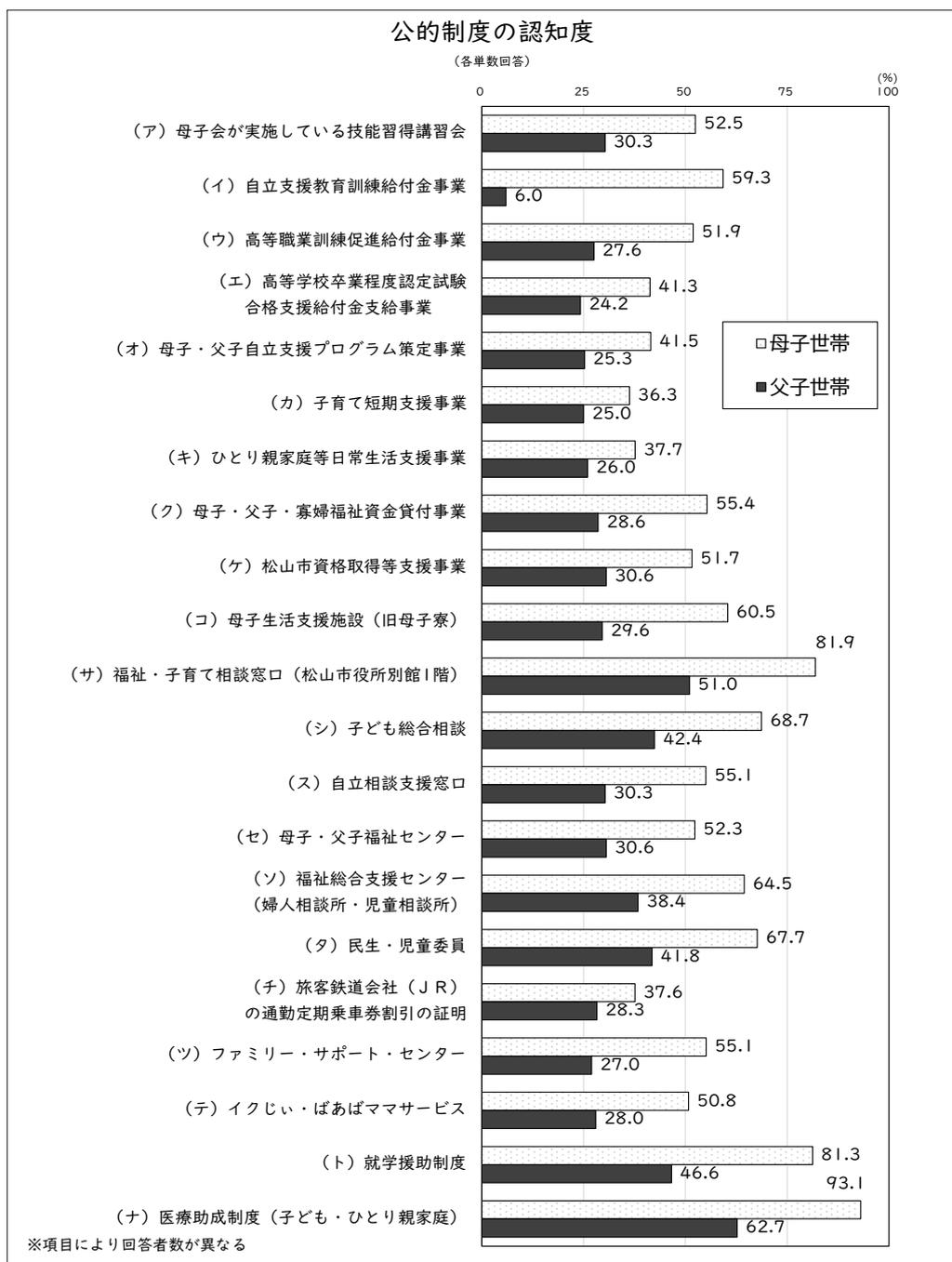
② 公的制度の認知度

(母子世帯)

「医療助成制度(子ども・ひとり親家庭)」が最も多く 93.1%、次いで「福祉・子育て相談窓口(松山市役所別館1階)」が 81.9%、「就学援助制度」が 81.3%などとなっています。

(父子世帯)

「医療助成制度(子ども・ひとり親家庭)」が最も多く 62.7%、次いで「福祉・子育て相談窓口(松山市役所別館1階)」が 51.0%、「就学援助制度」が 46.6%などとなっています。

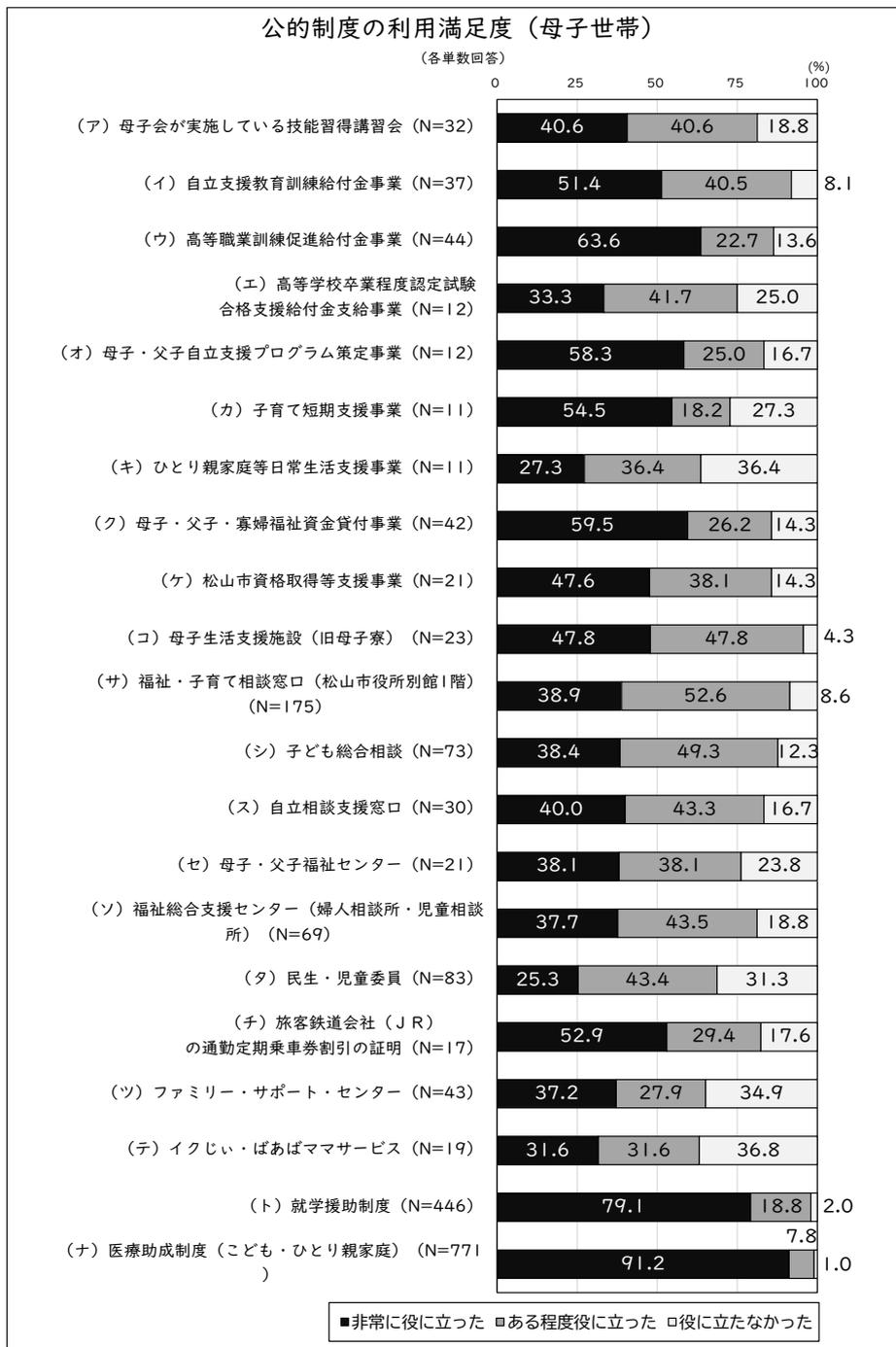


③ 公的制度の利用満足度

(母子世帯)

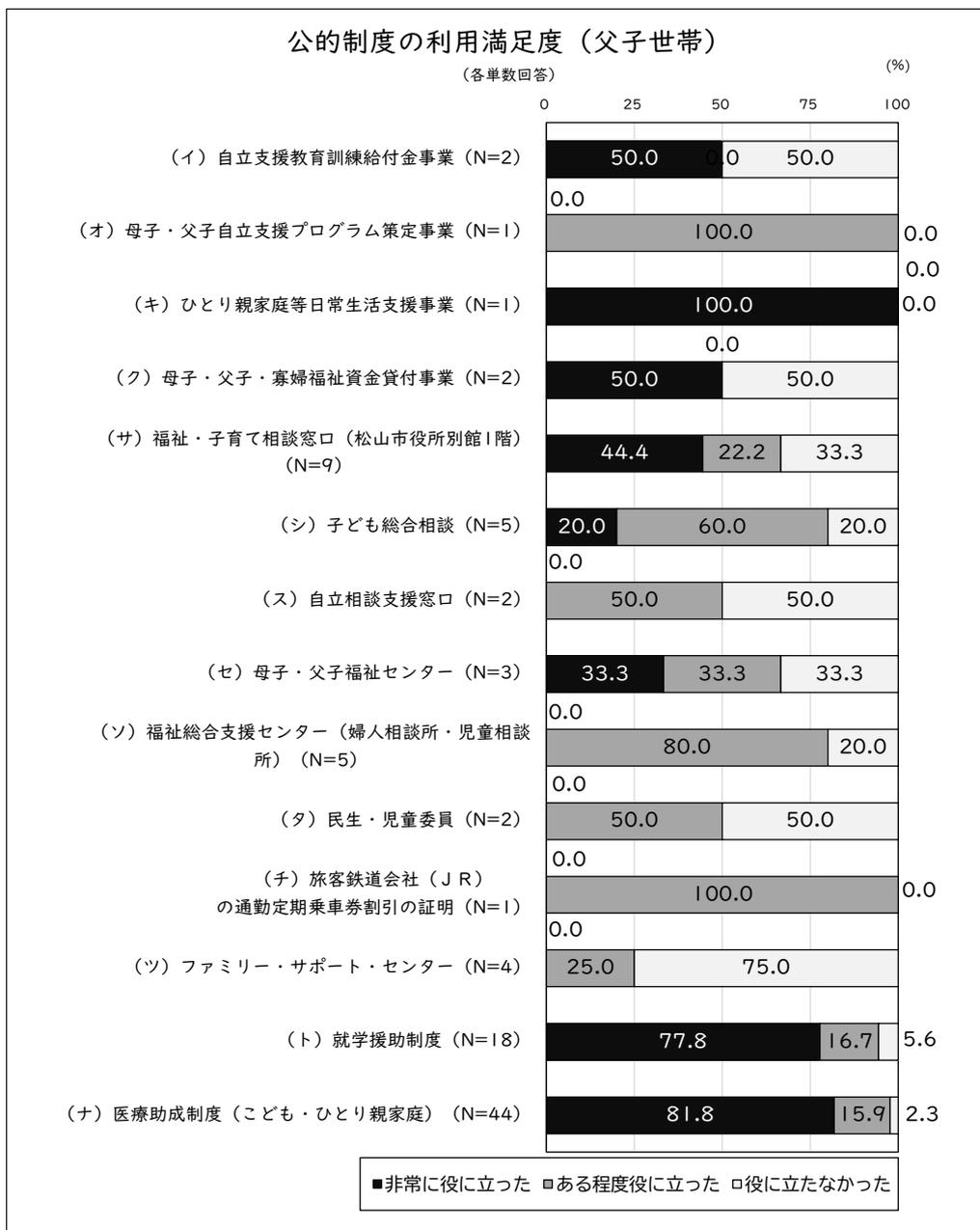
利用したことがある人の利用満足度は、「非常に役に立った」では、「医療助成制度(こども・ひとり親家庭)」が最も多く91.2%、次いで「就学援助制度」が79.1%、「高等職業訓練促進給付金事業」が63.6%などとなっています。

「役に立たなかった」では、「イクじい・ばあばママサービス」が最も多く36.8%、次いで「ひとり親家庭等日常生活支援事業」が36.4%、「ファミリー・サポート・センター」が34.9%などとなっています。



(父子世帯) ※回答者数が少ないことに留意

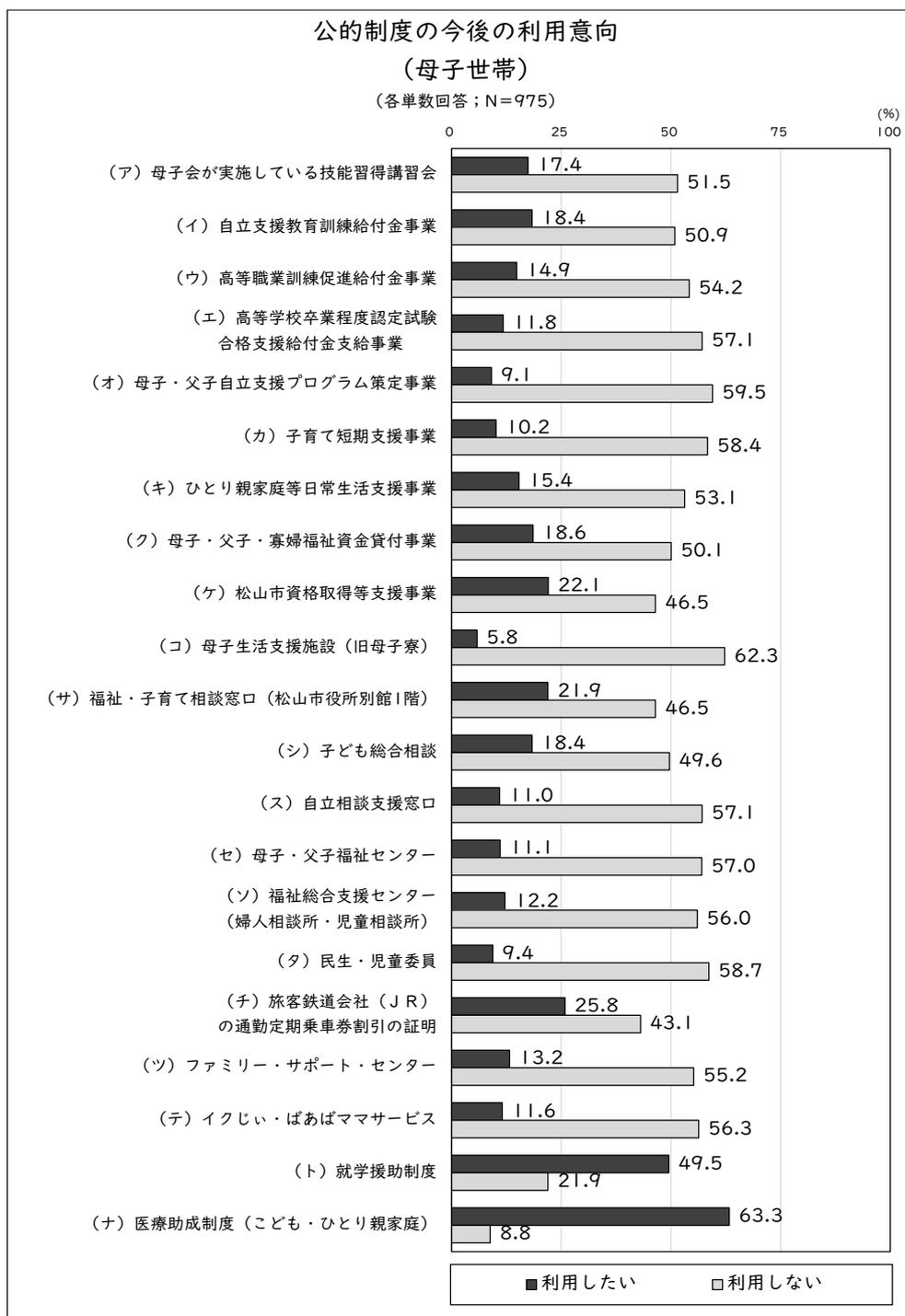
利用したことがある人の利用満足度は、「非常に役に立った」では、「ひとり親家庭等日常生活支援事業」が最も多く 100.0%、次いで「医療助成制度(こども・ひとり親家庭)」が 81.8%、「就学援助制度」が 77.8%などとなっています。



④ 公的制度の今後の利用意向

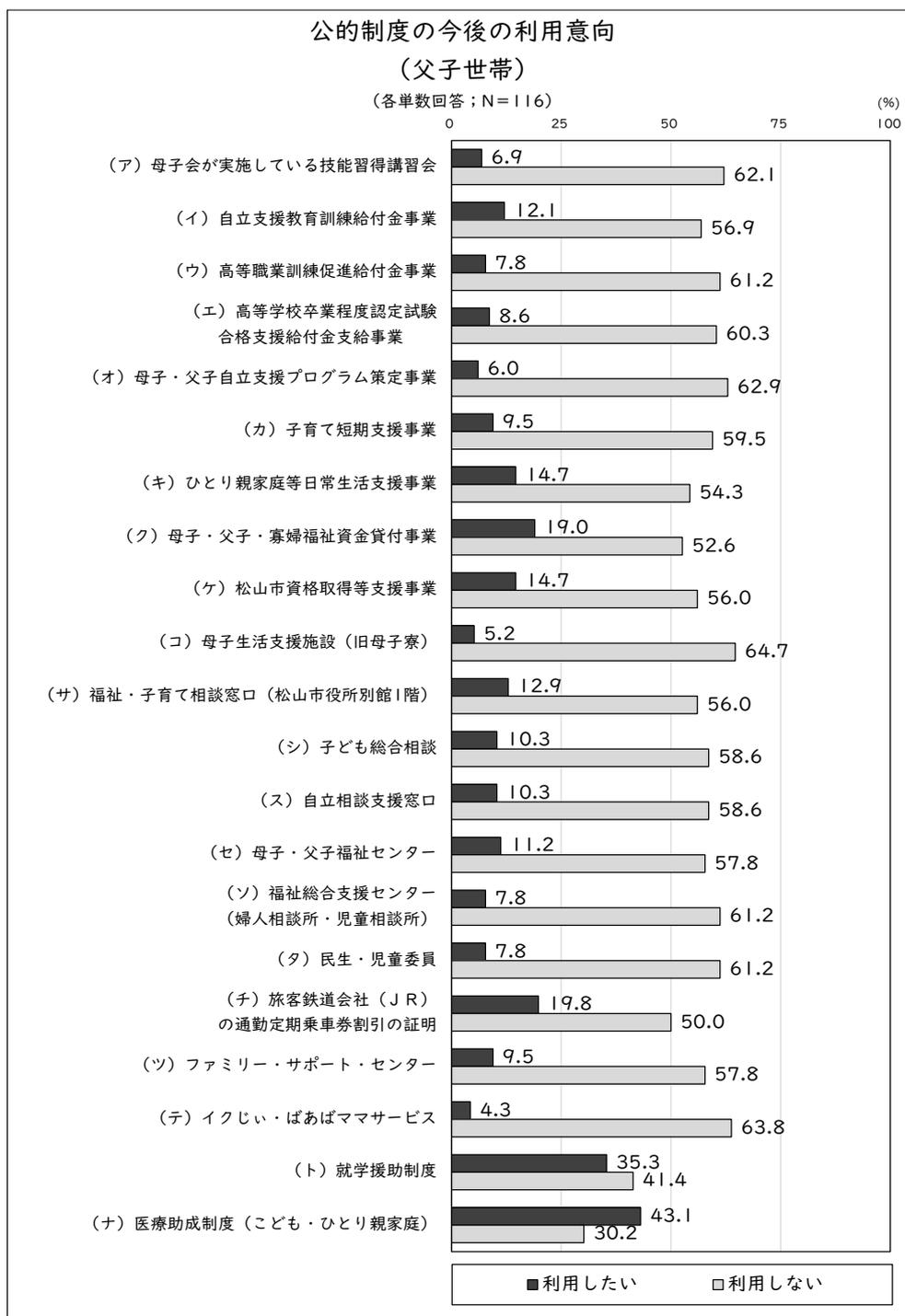
(母子世帯)

「利用したい」は「医療助成制度(こども・ひとり親家庭)」が最も多く63.3%、次いで「就学援助制度」が49.5%、「旅客鉄道会社(JR)の通勤定期乗車券割引の証明」が25.8%などとなっています。



(父子世帯)

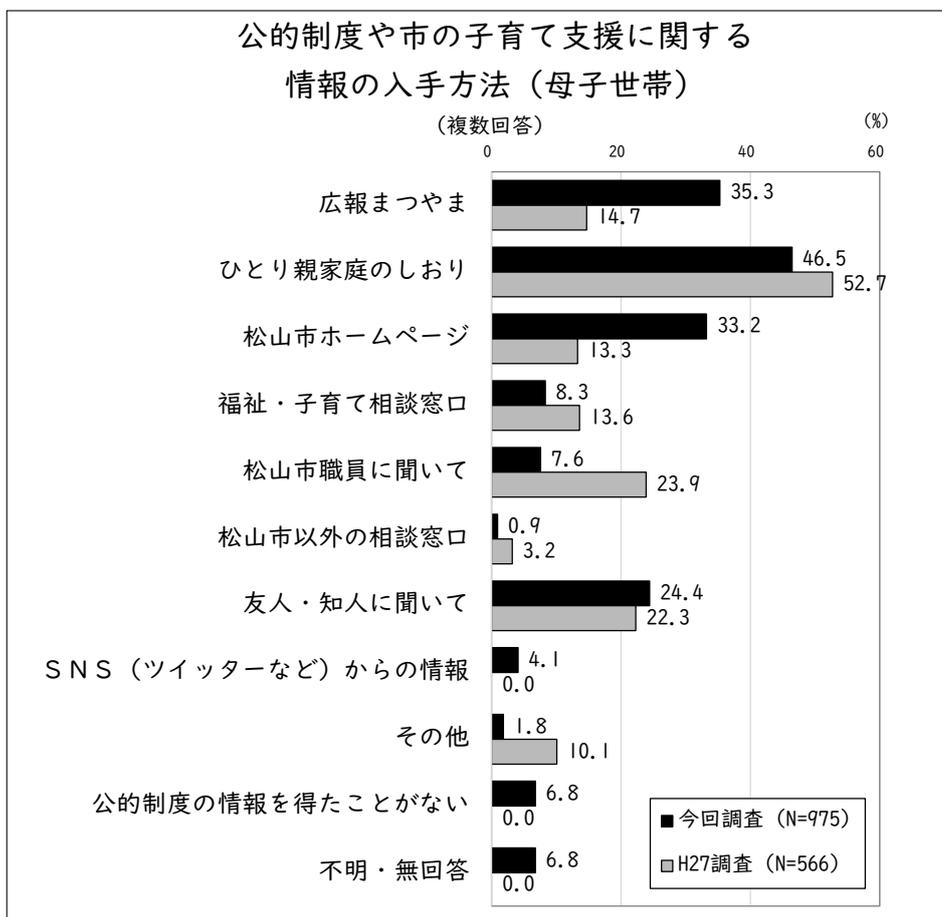
「利用したい」は「医療助成制度(こども・ひとり親家庭)」が最も多く43.1%、次いで「就学援助制度」が35.3%、「旅客鉄道会社(JR)の通勤定期乗車券割引の証明」が19.8%などとなっています。



⑤ 公的制度や市の子育て支援に関する情報の入手方法

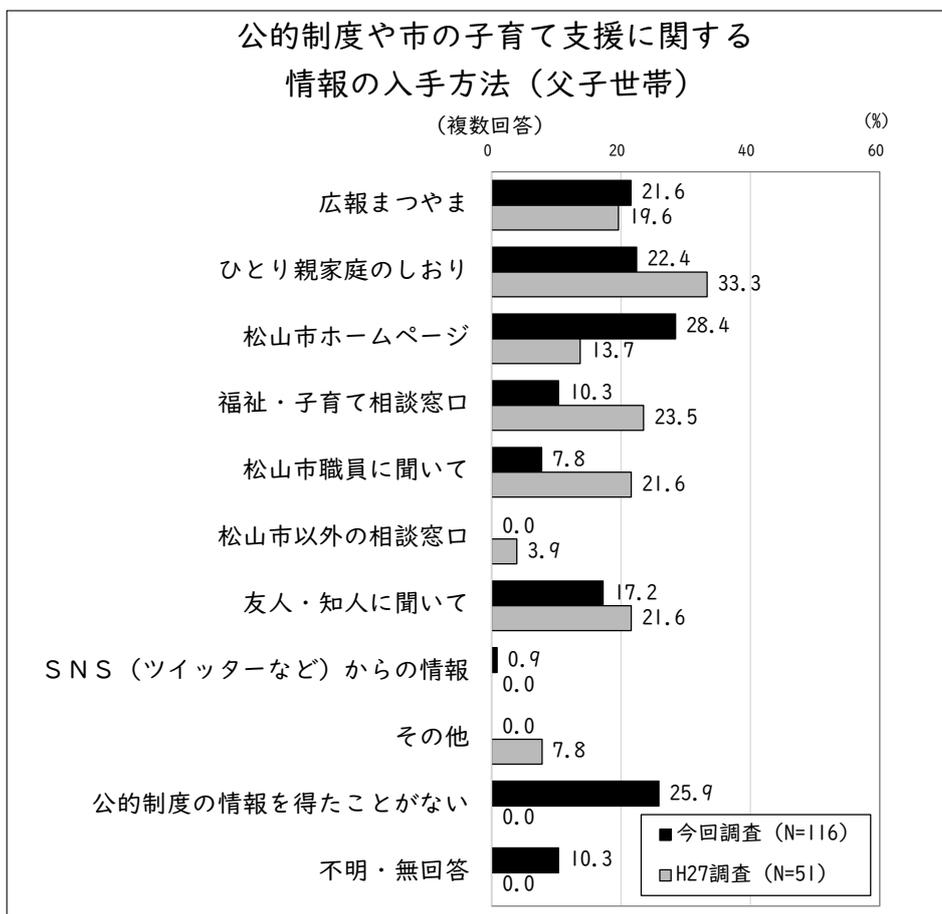
(母子世帯)

「ひとり親家庭のしおり」が最も多く 46.5%、次いで「広報まつやま」が 35.3%、「松山市ホームページ」が 33.2%などとなっています。



(父子世帯)

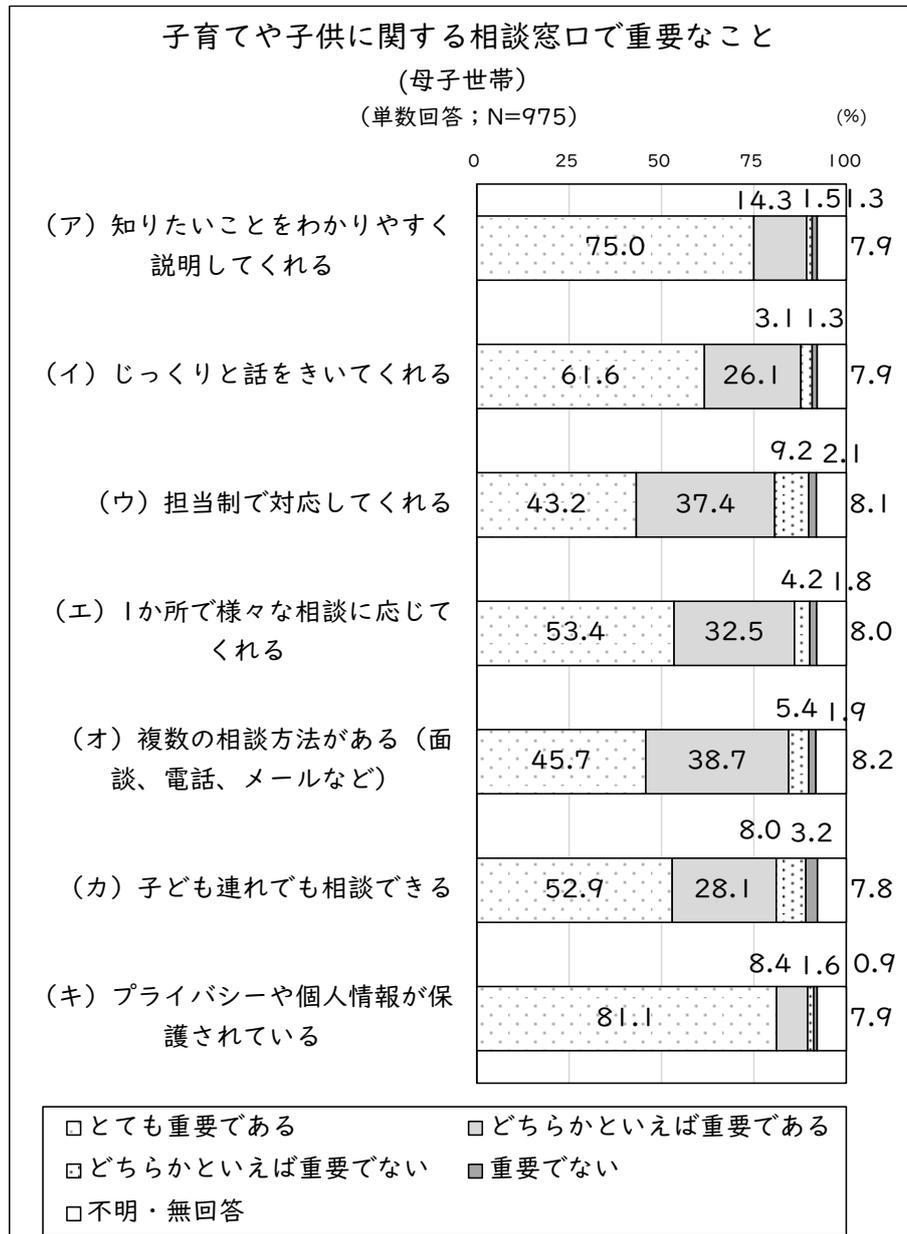
「松山市ホームページ」が最も多く 28.4%、次いで、「ひとり親家庭のしおり」が 22.4%、「広報まつやま」が 21.6%などとなっています。また、「公的制度の情報を得たことがない」が 25.9%となっています。



⑥ 子育てや子どもに関する相談窓口で重要なこと

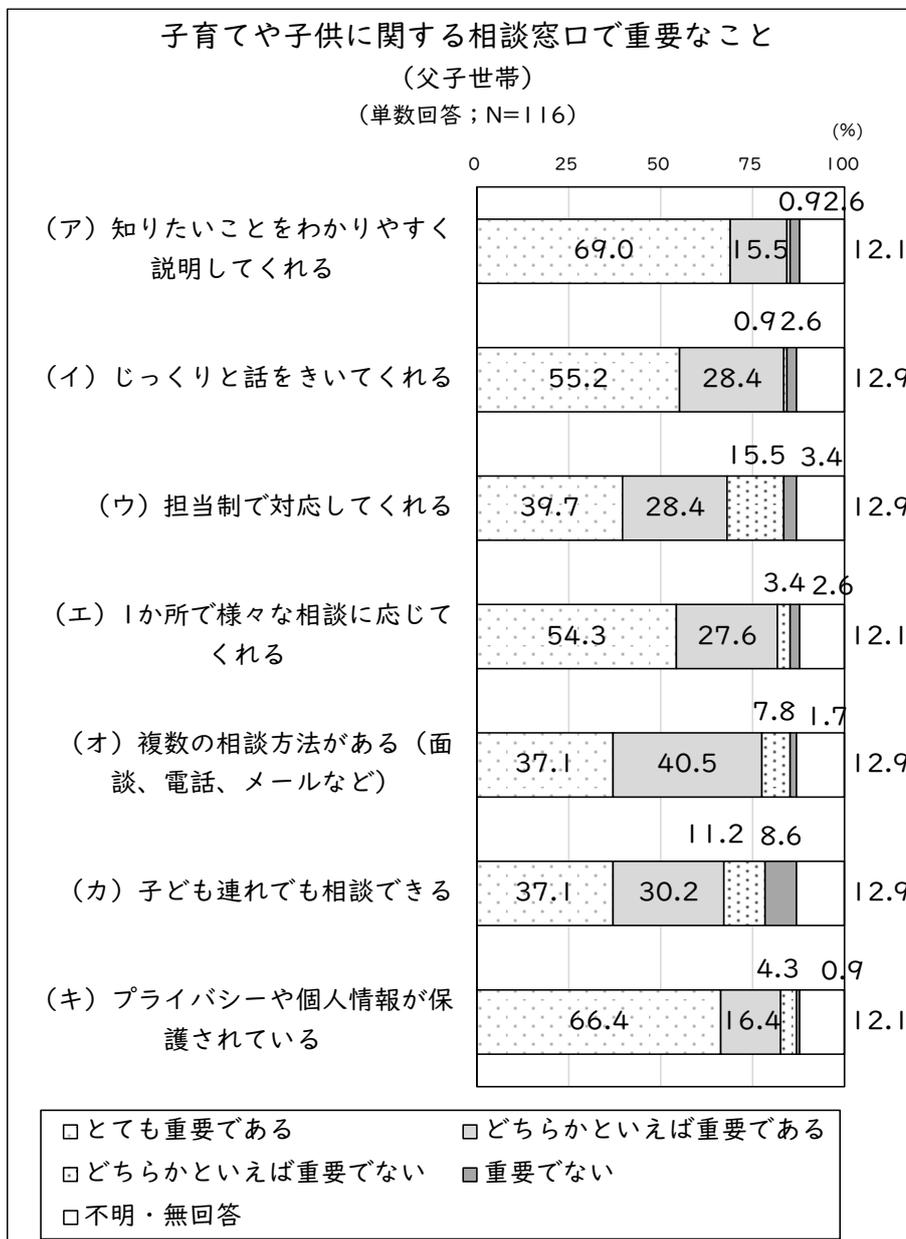
(母子世帯)

『重要である』(「とても重要である」「どちらかといえば重要である」の合計)では、「プライバシーや個人情報が保護されている」が最も多く 89.5%、次いで「知りたいことをわかりやすく説明してくれる」が 89.3%、「じっくりと話をきいてくれる」が 87.7%などとなっています。



(父子世帯)

『重要である』(「とても重要である」「どちらかといえば重要である」の合計)では、「知りたいことをわかりやすく説明してくれる」が最も多く 84.5%、次いで「じっくりと話をきいてくれる」が 83.6%、「プライバシーや個人情報が保護されている」が 82.8%などとなっています。



⑦ LINE等のコミュニケーションアプリを活用したひとり親世帯向けの相談窓口について

(母子世帯)

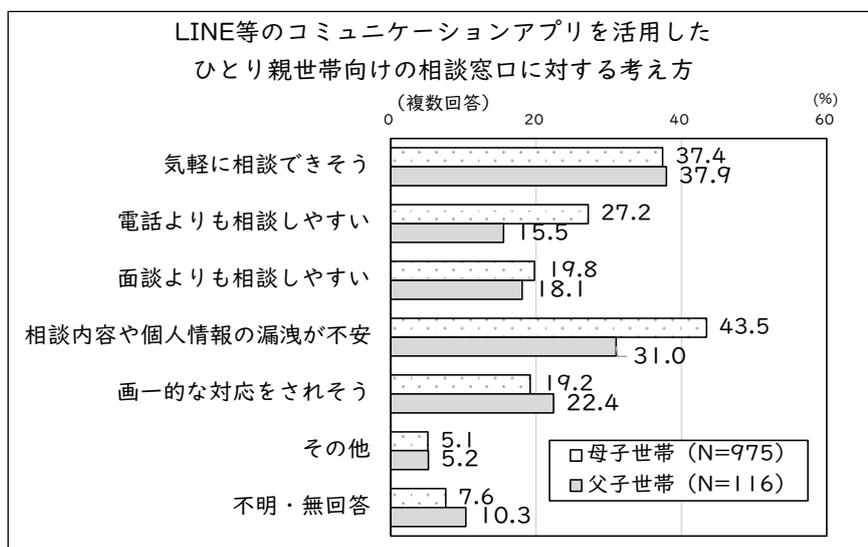
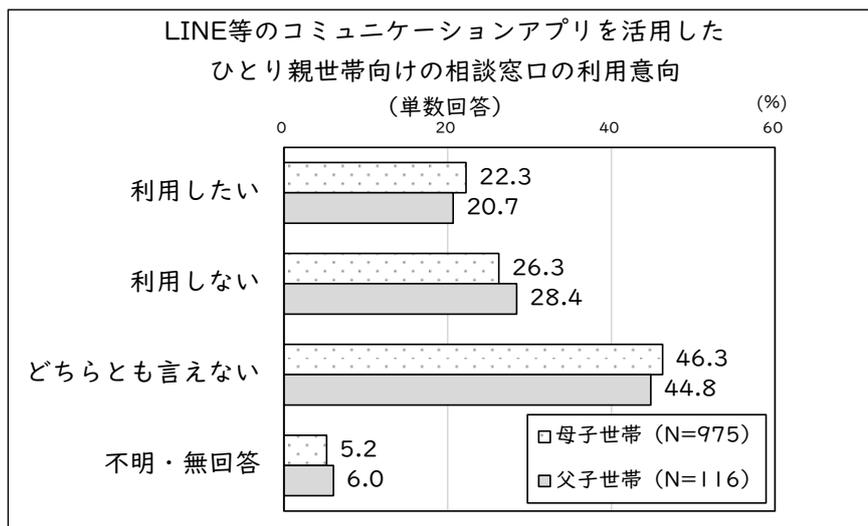
利用意向は、「どちらとも言えない」が最も多く 46.3%、次いで「利用しない」が 26.3%、「利用したい」が 22.3%となっています。

こうした相談窓口についての考え方は、「相談内容や個人情報の漏洩が不安」が最も多く 43.5%、次いで「気軽に相談できそう」が 37.4%、「電話よりも相談しやすい」が 27.2%などとなっています。

(父子世帯)

利用意向は、「どちらとも言えない」が最も多く 44.8%、次いで「利用しない」が 28.4%、「利用したい」が 20.7%となっています。

こうした相談窓口についての考え方は、「気軽に相談できそう」が最も多く 37.9%、次いで「相談内容や個人情報の漏洩が不安」が 31.0%、「画一的な対応をされそう」が 22.4%などとなっています。



(11)自由記述について

母子・父子世帯の別と親の年齢の別を組み合わせた、以下の区分で整理しています。

区分		回答者数・延べ記述件数			
母子世帯	20～29 歳	15 人	23 件	278 人	385 件
	30～39 歳	82 人	145 件		
	40～49 歳	135 人	165 件		
	50～59 歳	41 人	47 件		
	その他	5 人	5 件		
父子世帯				23 人	35 件

(母子世帯) (278 人・385 件)

ア 20～29 歳(15 人・23 件)

① 仕事について悩みがある	5 件
② 経済的不安がある	3 件
③ 経済的支援が欲しい	2 件
④ 精神的不安がある	2 件
⑤ その他	11 件

イ 30～39 歳(82 人・145 件)

① 行政の対応について	26 件
② 住居関連の支援が欲しい	11 件
③ 仕事について悩みがある	10 件
④ 児童手当受給制度等に不満がある	10 件
⑤ 保育所・児童クラブなどの子育て支援の改善を望む	9 件
⑥ 経済的不安がある	9 件
⑦ 教育関連の出費に不安がある	8 件
⑧ その他	62 件

ウ 40～49 歳(135 人・165 件)

① 教育関連の出費に不安がある	19 件
② 行政の対応への感想	18 件
③ 児童手当受給制度等に不満がある	13 件
④ 経済的不安がある	9 件
⑤ 病児・障がい児への支援が欲しい	8 件

⑥ 養育費問題	8 件
⑦ 住居関連の支援が欲しい	7 件
⑧ 仕事について悩みがある	7 件
⑨ 保育所・児童クラブなどの子育て支援の改善を望む	7 件
⑩ その他	69 件

エ 50～59 歳(41 人・47 件)

① 行政の対応への感想	10 件
② 教育関連の出費に不安がある	9 件
③ 児童手当受給制度の見直し	3 件
④ その他	25 件

オ その他(5 人・5 件)

(父子世帯) (23 人・35 件)

① 支援情報が不足している	5 件
② 教育関連の出費に不安がある	3 件
③ 保育所・児童クラブなどの子育て支援の改善を望む	3 件
④ 医療扶助についての改善を望む	3 件
⑤ 児童手当受給制度等に不満がある	2 件
⑥ 経済的支援が欲しい	2 件
⑦ その他	17 件

令和2年度 松山市ひとり親世帯実態調査 調査票

(R2年8月1日現在)

「調査ご協力をお願い」

皆さまには、日頃から児童福祉行政にご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。

松山市では、平成28年から令和2年度までの5か年を計画期間とする「第2期松山市ひとり親家庭等自立促進計画」を策定しています。今回、令和3年度からの次期計画策定に必要となる基礎資料を得ることを目的に、皆さまのひとり親世帯支援に関するご要望ご意見等を把握する実態調査を実施することにしました。

この調査は、市内にお住まいのひとり親世帯の方から約2,300世帯を無作為に選ばせていただいています。ご記入いただいた内容について、個々の調査票を公表したり、調査目的以外に使用したりすることは、一切ございませんので、率直なご意見をお聞かせください。

皆さまのご意見が、今後の松山市のひとり親世帯への支援を推進する上で、大変重要な資料になりますので、ご多忙のところ大変恐縮ですが調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

令和2年8月
松山市長 野志 克仁

<この調査について>

- この調査は、ひとり親世帯の状況を知るための大切な調査です。
- この調査では、令和2年8月1日現在の状況をお答えください。
- この調査票は、ひとり親世帯の保護者の方が記入してください。

※ お忙しいところ誠に恐縮ですが、**8月31日(月)**までに同封の返信用封筒(切手不要)にてご返送いただくか、もしくは児童扶養手当現況届の手続きにてご来庁される際に窓口にご持参くださいますようお願いいたします。

ご返送いただいた調査票は、松山市及び委託先である(株)地域計画建築研究所のみが、厳重な情報管理体制の下で漏えい、紛失等のないよう適切に取り扱います。

【本調査に関する問合せ先】

〒790-8571 松山市二番町四丁目7-2

松山市 保健福祉部 子育て支援課 総務・ひとり親福祉担当 TEL 089-948-6514

※お電話によるお問い合わせは、平日午前8時30分から午後5時15分の間をお願いします。

記入上の注意

1. 記入にあたっては鉛筆か黒又は青のボールペンをお願いします。
2. 回答は、あてはまる項目の番号に○で囲っていただくもの、数字やご意見等を記入いただくもの2種類あります。それぞれの設問の説明にしたがってお答えください。「その他」に○をつけられた場合は、()内になるべく内容をご記入ください。
3. 選択肢の場合、お選びいただく数が設問によって異なりますので、設問の説明にしたがってください。
4. 設問によって回答いただく方が限られる場合がございますので、ことわり書きや矢印によってご回答ください。
5. 障害などのためにご自分で記入できない方については保護者(介護者)等が協力して回答してください。

【別紙】（問 41 関係 公的事業内容）

- (ア) 市が母子会に委託して実施。ひとり親世帯の親等を対象に就職支援を目的とした、介護職員初任者研修、パソコン講習などの資格取得のための講習会。
- (イ) 適職に就くために必要であると認められる場合、受講料の 60% を資格取得後に助成する事業。
- (ウ) 就職の際に有利で、生活の安定に役立つ資格を取得するために、1 年以上養成機関(通学制)で修学する場合に、一定期間訓練促進給付金を支給する事業。
- (エ) 高等学校卒業程度認定試験の合格を目指し、適職に就くために必要であると認められる場合で、ひとり親又はその扶養する児童に受講料の一部を助成する事業。
- (オ) 児童扶養手当を受給している方の就職や自立に向けた支援を行うために、専門の相談員が相談に応じ、ハローワーク等と連携して個々に合わせた就労・自立のための自立支援プログラムを策定し支援する事業。
- (カ) 保護者が病気や仕事その他の理由により、家庭において児童を養育することが一時的に困難となる場合や、経済的な理由により緊急一時的に母親と児童を保護することが必要な場合に、児童養護施設などの施設において7日間以内で預かる事業。
- (キ) ひとり親世帯が、疾病等の事由により、一時的に生活援助が必要な場合、その世帯に家庭生活支援員を派遣して援助を行い、ひとり親世帯の生活の安定を図る事業。
- (ク) ひとり親世帯等の経済的自立の助成と生活意欲の助長、扶養している児童の福祉の増進を目的に12種類の資金を貸付している事業。
- (ケ) 資格取得または職業能力の開発及び向上のために指定講座を受講・修了した求職者などに対して、資格取得後に受講料などの20%を助成する事業。
- (コ) 自立支援が必要な母子家庭を保護し、生活を支援する施設。
- (サ) ひとり親世帯の相談、DVをはじめ女性の悩みごとの相談、子どもの養育やしつけ、家庭内の人間関係などの相談に応じています。
- (シ) 虐待やいじめ、不登校、問題行動、しつけなど子どもに関するさまざまな相談ができます。
- (ス) 経済的に困っている方の相談を受け、適切な関係機関との連携や情報提供を行いながらお悩みの解決のお手伝いをします。
- (セ) ひとり親世帯など、同じ立場の皆さんが集まり、語り合い励まし合って、親睦と生活の向上を図る施設。
- (ソ) 子どもの教育・性格・環境・虐待等の児童福祉に関する問題や DVをはじめ、生活・家庭男女関係のトラブルなど女性のいろんな悩みごとについて相談、指導、一時保護などの援助をしています。
- (タ) 地域の実情に詳しく、社会奉仕の精神を持った経験豊かな人が、生活や子どものことなどさまざまな相談に応じています。
- (チ) 児童扶養手当を受給している方が、JR の通勤定期乗車券の割引を受ける際に必要な証明書を発行します。
- (ツ) 援助を受けたい方と行いたい方が会員となり、保育所や児童クラブの送迎や預り、病児・病後児の預りなどのサービスを行っています。
- (テ) 保育施設の送迎や留守中の子守りなど育児サポートをしています。
- (ト) 経済的な理由によって小・中学校への就学が困難な児童や生徒については、学用品費や給食費、修学旅行費などが支給される制度。
- (ナ) 中学校3年生までの保険診療による自己負担分、ひとり親世帯の親とその扶養する 20 歳未満の子の保険診療による医療費の自己負担分について助成。

問 9 公営住宅(区市営住宅)に入居していない方におたずねします。

公営住宅への入居希望はありますか。【〇は1つ】

1. ぜひ入居したい 2. できれば入居したい 3. 入居希望はない

3. 仕事についておたずねします

問 10 ひとり親世帯になる前はどのような就業形態でしたか。【〇は1つ】

1. 正社員 2. パート、アルバイト 3. 派遣社員
4. 自営業者 5. 家族従事者(自営業手伝い) 6. 内職
7. その他() 8. 不就労(仕事をしていない) →問 12 へ

問 11 問 10 で1～5に〇をつけた方におたずねします。

ひとり親世帯になったことをきっかけに転職しましたか。【〇は1つ】

1. 転職した 2. 転職していない →問 12 へ

問 11-1 問 10 で「1. 転職した」と回答された方におたずねします。

転職した主な理由はどのようなことですか。【〇は1つ】

1. 収入がよくない 2. 勤め先が自宅から遠い
3. 健康がすぐれない 4. 仕事の内容がよくない
5. 職場環境になじめない 6. 労働時間があわない
7. 社会保険がない又は不十分 8. 休みが少ない
9. 身分が安定していない 10. 経験や能力が発揮できない
11. 自営業等で従事していたが離婚したため 12. その他

問 12 現在、仕事をされていますか。仕事をされている方は【〇は1つ ()には数を記入】

1. 仕事をしている (仕事の数) 2. 仕事をしていない →問 16 へ

問 13 主な仕事の就業形態・職種についておたずねします。複数のお仕事されている方は、あなたが主”とお考えのものについて回答してください。

就業形態【〇は1つ】	職種【〇は1つ】
1. 正社員	1. 専門知識・技術を活かした仕事(看護師、理学療法士、SEなど)
2. パート、アルバイト	2. 管理的な仕事(企業や団体の管理職など)
3. 派遣社員	3. 事務的な仕事(一般事務、集金業務、レジスター係など)
4. 自営業者	4. 営業、販売の仕事(セールス、外交員、販売員、飲食店主など)
5. 家族従事者(自営業手伝い)	5. 農林漁業の仕事(農業など)
6. 内職	6. 運輸、通信の仕事(運転手、電話交換員など)
7. その他 ()	7. 製造、技能、労務の仕事(製造・建設技能工、労務作業員など) 8. 保安関係の仕事(警備など) 9. サービス職の仕事(ホームヘルパー、理・美容師など) 10. その他()

問 18-1 資格・免許について、下欄から選択し、番号で記入してください。

①	現在取得している資格・技能 【あてはまるもの全て】	
②	仕事に役立っている資格・免許 【あてはまるもの全て】	
③	今後取得したい資格・技能 【あてはまるもの全て】	

【選択肢】

1. 看護師(准看護師含む)	2. 介護福祉士	3. 保育士	4. 理学療法士
5. 作業療法士	6. 理・美容師	7. 歯科衛生士	8. 栄養士
9. 保健師	10. 助産師	11. 鍼灸師	12. 按摩・マッサージ指圧師
13. 柔道整復師	14. 社会福祉士	15. 精神保健福祉士	16. 言語聴覚士
17. 介護職員初任者研修	18. 医療事務	19. 教員	20. 自動車運転免許
21. 調理師	22. 簿記	23. パソコン	24. 外国語
25. その他()			26. 特になし

4. 経済状況についておたずねします

問 19 新型コロナウイルス感染症発生前、あなたの生活の経済的な状況はいかがでしたか。

【〇は1つ】

1. 余裕があった	2. 経済的な問題はなかった
3. 苦しいが何とか生活できた	4. 非常に苦しかった

問 20 新型コロナウイルス感染症やその感染予防策(一斉休校など)の影響で、あなたの生活の経済的な状況は変化しましたか。【〇は1つ】

1. 余裕が生まれた	2. 変わらない	3. やや苦しくなった	4. 苦しくなった
------------	----------	-------------	-----------

問 20-1 問20で「3. やや苦しくなった」「4. 苦しくなった」と回答された方

生活の経済的な状況が苦しくなったのはどのような理由からですか。

【あてはまるもの全てに〇 主な理由を記載】

1. 収入が減った	(主な理由)
2. 支出が増えた	(主な理由)
3. その他()	(主な理由)

問 21 あなたが現在得ている収入の種類についておたずねします。【あてはまるもの全てに〇】

1. あなたの就労収入	2. あなた以外の家族の就労収入	3. 児童手当
4. 児童扶養手当	5. 特別児童扶養手当	6. 年金
7. 親・親族からの援助	8. 養育費	9. 生活保護費
10. 家賃等収入	11. その他()	

問 29-1 問 29 で「1. 現在、面会交流を行っている」「2. 過去に面会交流を行ったことがあるが、現在は行っていない。」と回答された方
面会交流はどれくらいの頻度で実施していますか。【〇は1つ】

- | | | |
|---------------|------------------|---------------|
| 1. 月2回以上 | 2. 月1回 | 3. 2～3ヶ月に1回程度 |
| 4. 4～6か月に1回程度 | 5. 長期休暇中(夏休み等)のみ | 6. 都度協議 |
| 7. その他() | | |

6. あなたのお子さんの状況についておたずねします

問 30 子どもから日々の出来事や悩み、心配事、将来(夢・進路・職業等)のことを聞いたり、一緒に話すことがありますか。【〇は1つ】

- | | |
|-----------|----------------|
| 1. よくする | 2. たまにする |
| 3. あまりしない | 4. これまでしたことがない |

問 30-1 問 30 で「1. よくする」「2. たまにする」「3. あまりしない」と回答された方
どのようなことを聞いたり、話すことが多いですか。【あてはまるものすべてに〇】

- | | | |
|--------------|-------------|-------------|
| 1. 友達とのこと | 2. 園や学校でのこと | 3. 成績や進路のこと |
| 4. 見た目や健康のこと | 5. お金のこと | 6. その他() |

問 31 子どもごとに、「年齢」「性別」「就学の状況」「悩み」をおたずねします。
「就学の状況」「悩み」については下表から1つ番号を選び記入してください。
また、「悩み」について「12. その他」の場合は、「12. その他」欄に、悩みをご記入ください。

	年齢	性別	就学の状況	悩みの番号	「12. その他」
①	才	男・女			
②	才	男・女			
③	才	男・女			
④	才	男・女			
⑤	才	男・女			
⑥	才	男・女			

就学の状況 【子どもごとに1つ選んで】	
1. 小学校入学前	2. 小学生
3. 中学生	4. 高校生
5. 高等学校	6. 短大
7. 大学・大学院	8. 専修・専門学校・各種学校
9. その他()	

悩みの番号 【子どもごとに1つ選んで】	
1. しつけ	2. 教育・進学
3. 就職	4. 非行
5. 健康	6. 友人関係
7. 不登校・ひきこもり	8. 食事・栄養
9. 衣服・身のまわり	10. 結婚問題
11. 子育ての費用	12. その他
13. 特に悩みはない	

問 32 小学校入学前の子どもがいる方

平日、子どもの世話をどのようにされていますか。利用している教育・保育事業(年間を通じて「定期的に」利用)などお答えください。【あてはまるもの全てに○】

- | | |
|----------------------------------|------------------------|
| 1. 幼稚園(通常の就園時間の利用) | 2. 幼稚園の預かり保育 |
| 3. 保育所 | 4. 認定こども園 |
| 5. 地域型保育事業(3歳未満の子どもを小規模な施設で保育する) | 6. 企業主導型保育事業(事業所内保育施設) |
| 7. ベビーシッター | 8. 認可外保育施設 |
| 9. ファミリー・サポート・センター | 10. 親・兄弟姉妹・親戚等に預けている |
| 11. 友人・知人に預けている | 12. 自分一人のみ |
| 13. その他() | |

問 33 小学校3年生以下の子どもがいる方

子どもが病気の時の世話はどうしていますか。【あてはまるもの全てに○】

- | | | |
|---------------------|----------------------|-------------|
| 1. 自分が仕事を休む | 2. 親、兄弟姉妹に頼む | 3. 友人、知人に頼む |
| 4. ファミリーサポートセンターを利用 | 5. イクじい・ばあばママサービスを利用 | 6. ベビーシッター |
| 7. 仕事場に連れて行く | 8. その他() | |

問 34 小学生の子どもがいる方

放課後や長期休暇中にあなたがいないとき、子どもはどこで過ごしていますか。子ども一人ごとにそれぞれの場所で過ごす **1週間あたりの日数**を記入してください。

(1)放課後の過ごし方

	子どもの学年					
	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生
1. 児童クラブ	週 日	週 日	週 日	週 日	週 日	週 日
2. 塾や習い事	週 日	週 日	週 日	週 日	週 日	週 日
3. 友人と遊んで過ごす	週 日	週 日	週 日	週 日	週 日	週 日
4. 児童館・児童センター	週 日	週 日	週 日	週 日	週 日	週 日
5. 学校でのクラブ活動	週 日	週 日	週 日	週 日	週 日	週 日
6. 親、兄弟姉妹に預ける	週 日	週 日	週 日	週 日	週 日	週 日
7. 通人・知人に預けている	週 日	週 日	週 日	週 日	週 日	週 日
8. 子どもだけで自宅で過ごす	週 日	週 日	週 日	週 日	週 日	週 日
9. 放課後子ども教室	週 日	週 日	週 日	週 日	週 日	週 日
10.その他()	週 日	週 日	週 日	週 日	週 日	週 日

(2)長期休暇中の過ごし方

	子どもの学年					
	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生
1. 児童クラブ	週 日	週 日	週 日	週 日	週 日	週 日
2. 塾や習い事	週 日	週 日	週 日	週 日	週 日	週 日
3. 友人と遊んで過ごす	週 日	週 日	週 日	週 日	週 日	週 日
4. 児童館・児童センター	週 日	週 日	週 日	週 日	週 日	週 日
5. 学校でのクラブ活動	週 日	週 日	週 日	週 日	週 日	週 日
6. 親、兄弟姉妹に預ける	週 日	週 日	週 日	週 日	週 日	週 日
7. 通人・知人に預けている	週 日	週 日	週 日	週 日	週 日	週 日
8. 子どもだけで自宅で過ごす	週 日	週 日	週 日	週 日	週 日	週 日
9. 放課後子ども教室	週 日	週 日	週 日	週 日	週 日	週 日
10.その他()	週 日	週 日	週 日	週 日	週 日	週 日

問 35 子どもの進学はどこまでを考えていますか。【〇は1つ】

- | | | |
|-----------|------------------|-----------|
| 1. 中学校 | 2. 高校 | 3. 短大 |
| 4. 大学・大学院 | 5. 専門(専修)学校・各種学校 | 6. その他() |

問35-1 問35で「2. 高校」「3. 短大」「4. 大学・大学院」「5. 専門(専修)学校・各種学校と回答された方

今後、子どもが中学校卒業後に進学する場合、貸与型奨学金(卒業後に返済)の利用を希望しますか【〇は1つ】

- | | | |
|---------|----------|-------------|
| 1. 希望する | 2. 希望しない | 3. まだ決めていない |
|---------|----------|-------------|

問 36 学校等の教育機関以外で、民間の学習施設(学習塾や予備校など)等を利用していますか。【〇は1つ】

※ 子どもが複数いて、内1人でも学習施設を利用している場合は「1. 利用している」に○をしてください。

- | | | | |
|-----------|--------|------------|----------|
| 1. 利用している | →問 37へ | 2. 利用していない | →問 36-1へ |
|-----------|--------|------------|----------|

問 36-1 問 36で「2. 利用していない」と回答された方

学習施設を利用していないのはどのような理由からですか【〇は1つ】

- | | |
|-----------------------------|--------------|
| 1. 特に必要性を感じない | 2. 子どもが嫌がる |
| 3. 近隣にない | 4. 経済的に余裕がない |
| 5. 学校行事(部活動など)等により子どもに時間がない | 6. その他() |

8. 福祉関係の公的制度等についておたずねします

問 41 下記の(ア)から(ナ)の公的制度について「①認知・利用満足度」と「②今後の意向」をおたずねします。【各項目でそれぞれ〇を1つ】

	①認知・利用満足度【〇を1つ】					②今後の意向【〇は1つ】	
	知っている				知らなかった	利用したい	利用しない
	非常に役に立った	ある程度役に立った	役に立たなかった	利用したことがない			
(例) 子育て短期支援事業					○	○	
(ア) 母子会が実施している技能習得講習会							
(イ) 自立支援教育訓練給付金事業							
(ウ) 高等職業訓練促進給付金事業							
(エ) 高等学校卒業程度認定試験合格支援給付金支給事業							
(オ) 母子・父子自立支援プログラム策定事業							
(カ) 子育て短期支援事業							
(キ) ひとり親家庭等日常生活支援事業							
(ク) 母子・父子・寡婦福祉資金貸付事業							
(ケ) 松山市資格取得等支援事業							
(コ) 母子生活支援施設(旧母子寮)							
(サ) 福祉・子育て相談窓口(松山市役所別館1階)							
(シ) 子ども総合相談							
(ス) 自立相談支援窓口							
(セ) 母子・父子福祉センター							
(ソ) 福祉総合支援センター(婦人相談所・児童相談所)							
(タ) 民生・児童委員							
(チ) 旅客鉄道会社(JR)の通勤定期乗車券割引の証明							
(ツ) ファミリー・サポート・センター							
(テ) イクじいばあばママサービス							
(ト) 就学援助制度							
(ナ) 医療助成制度(こども・ひとり親家庭)							

※ 事業内容については案内文裏面を参考にしてください。

問 42 問 41 の公的制度や松山市の子育て支援に関する情報はどのように入手していますか。
【あてはまるもの全てに〇】

- | | |
|--------------|--------------------------|
| 1. 広報まつやま | 2. ひとり親家庭のしおり |
| 3. 松山市ホームページ | 4. 福祉・子育て相談窓口(松山市役所別館1階) |
| 5. 松山市職員に聞いて | 6. 松山市以外の相談窓口 |
| 7. 友人・知人に聞いて | 8. SNS(ツイッターなど)からの情報 |
| 9. その他() | 10. 公的制度の情報を得たことがない |

令和 2 年度 松山市ひとり親世帯実態調査 結果報告書

令和 3(2021)年 3 月

発行:松山市保健福祉部 子育て支援課

〒790-8571 愛媛県松山市二番町四丁目 7 番地 2

電話:089-948-6418